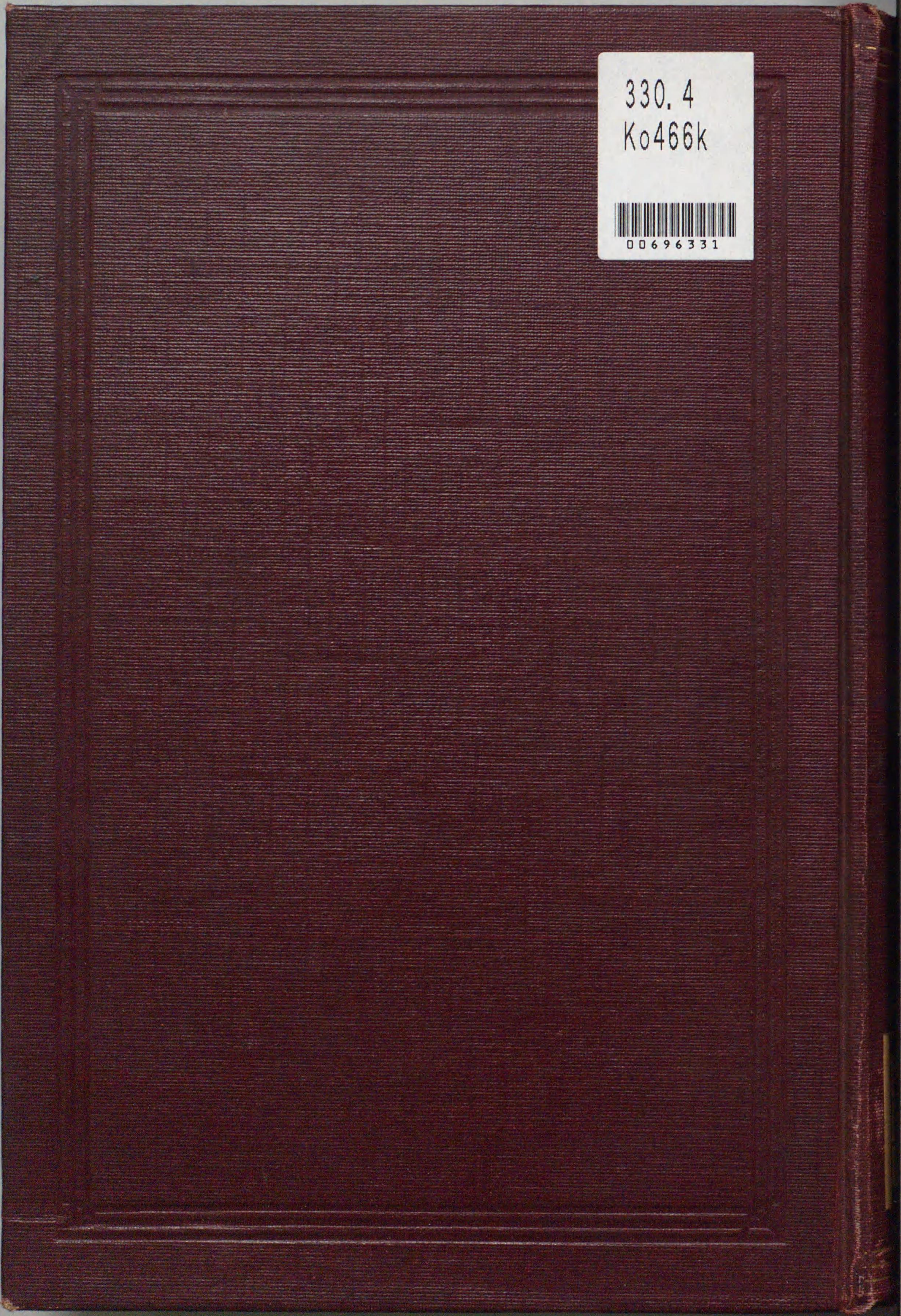


330.4
Ko466k



貴族院
函3304
号310
冊

經濟通俗講演



法學博士小林丑三郎述



330.4

Ko 466k



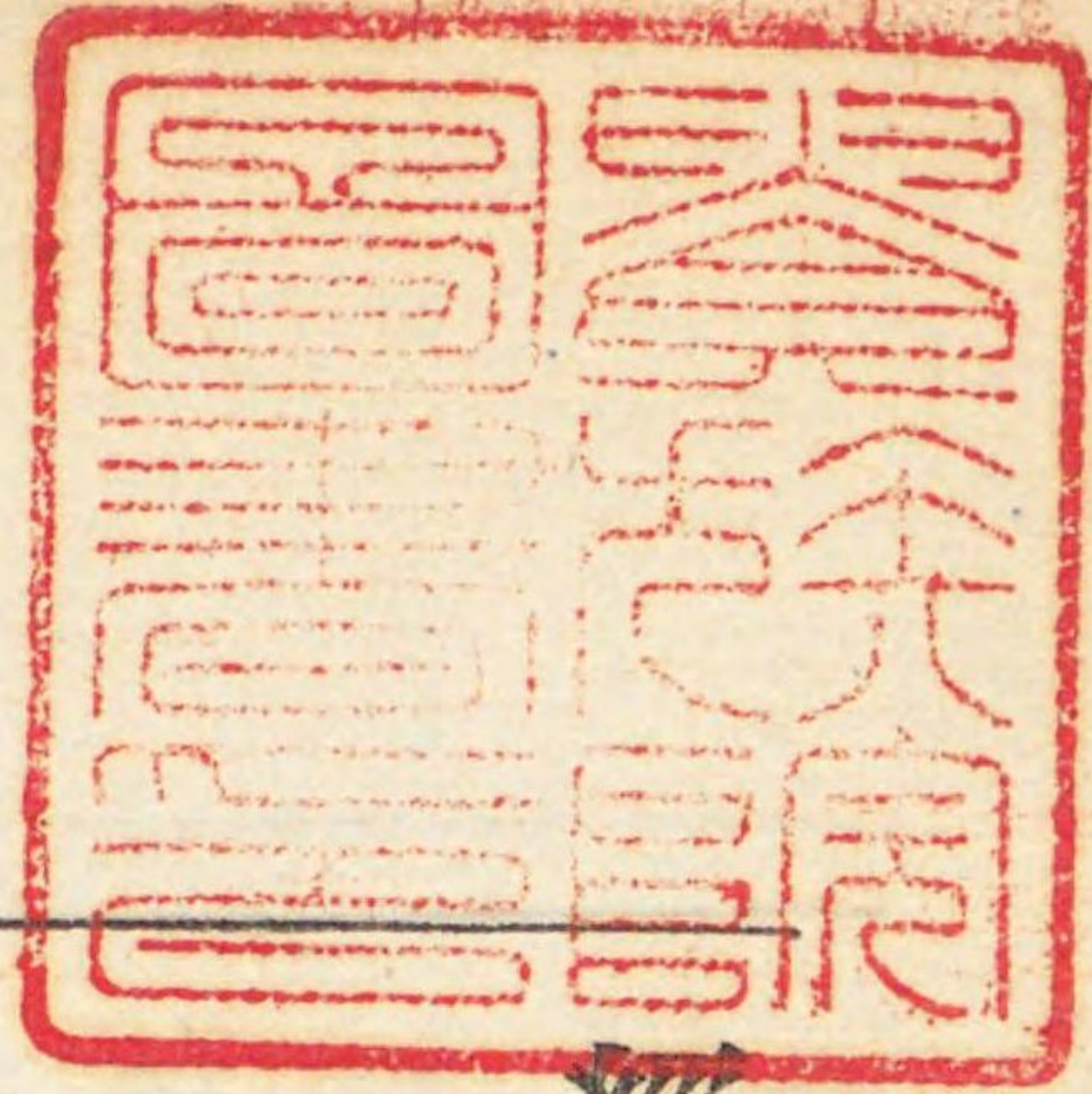
696331

序

本書ハ大震災前數年ニ亘リテ各地方講演又ハ雜誌等ニ述ベ
 タモノヲ少シク順序ヲ付ケ重複ヲ削リテ口語體ノ儘集録シ
 タモノデアアル中ニハ速記ガ正直ニ訥辯ノ儘ヲ丸出シテ居ル
 ノデ申譯ナイ所モアルガ震災後急速ヲ要スル事情ガアツテ
 存分ノ修補モセズニ上梓シタ其レガ寧ロ通俗ノ名ニ背カズ
 シテ宜イカモ知レヌ原稿ヲ活版所ニ渡シタノハ震災後ノ十
 月末デアアルカラ書中ニ引用シテ居ル統計モ事實モ大體震災
 前ノコトデアアルコトヲ申添ヘテ置ク

大正十二年十二月

小林丑三郎識



經濟通俗講演

目次

第一章	經濟概念	三
第二章	哲學對觀	一三
第三章	經濟主義	三一
第四章	經濟物件	四五
第五章	經濟行爲	五七
第六章	產業及三要素	六五
第七章	產物及貿易	九七
第八章	價值	一三三

目次

一

目次

第一章 經濟概念

第二章 哲學對觀

第三章 經濟主義

第四章 經濟物件

第五章 經濟行爲

第六章 產業及三要素

第七章 產物及貿易

第八章 價值

第九章	價格	一六五
第十章	物價	一七三
第十一章	爲替	二一五
第十二章	代表價格	二五一
第十三章	國富	二五七
第十四章	價值分配	二六三
第十五章	所得	二九七
第十六章	消費	三〇五
第十七章	貯蓄	三〇九
第十八章	價值整理(財政)	三二一
第十九章	所得價值卜租稅	三二九
第二十章	租稅體系	三四一

第二十一章	統一所得稅	三七三
第二十二章	國有公營	三八五
第二十三章	貯蓄價值卜公債	四〇一
第二十四章	公費卜公益價值	四〇九
第二十五章	結論(中產主義)	四一三
餘論	列國經濟財政大勢	四二三

附錄諸表

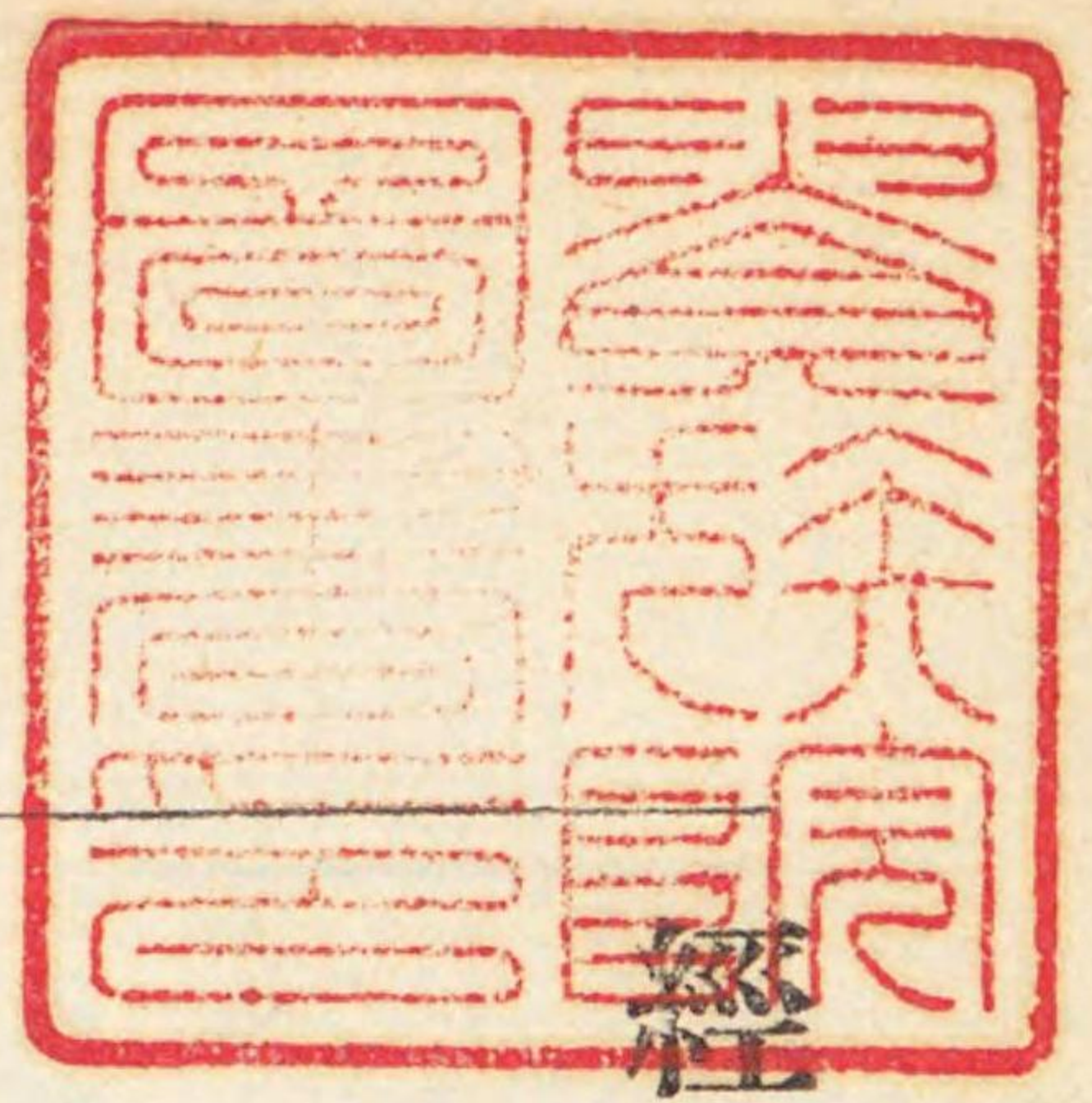
第一表	四六七
第二表	四七〇
第三表	四七一
第四表	四七二
第五表	四七三

第六表……………四七三
 第七表……………四七四

經濟通俗講演 目次終

經濟通俗講演

法學博士 小林丑三郎 述



經濟ハ人間生活ノ一方面ニ要スル物質價值ヲ取扱フノデアリマスカラ、此ノ經濟講演ニハ價值ノ整理ニ當タル財政ノコトマデ含マセテアリマス、併カシ皆何レモ簡單ニ大要ヲ述ブル丈デアリマス、最初ノ中ハ少シ哲學メヘタコトヲ述ベマシガ、經濟ノ根本ガ其レニ在ルノダカラ已ヲ得ナイ、其レカラ逐次實用問題ニ入りマシテ、往々統計ノ援用ヲ要スルカラ、重要ノモノハ附録別表ニ掲ケテ置キマシタ、



海峽谷

小林正三

第一章 經濟概念—客觀經濟ト主觀經濟

此ノ經濟概念ト云フ所デ、先ヅ第一ニ經濟及經濟學ト云フコトノ意義ヲオ話シ
 シマス、然ルニ此ノ概念ニ付キマシテハ舊來ノ思想ト最近ノ思想トガアツテ、二ノ
 異ナツタ系統ニ分レテ居ルノデ、ソレガ爲メニ經濟ト云フ意義ガ自ラ違フノデア
 リマス、從來古カラ立テラレテ來タ經濟ノ概念ハ客觀經濟說デアリマス、之レニ對
 シテ今日新シキ說、否ナ昔カラ少シハアツタノデスケレドモ今日最モ時ヲ得顔ニ
 盛ンニナリツツアルノハ主觀經濟說デアリマス、先ヅ客觀經濟說ト主觀經濟說ト
 ノコトヲ、少シ碎イテ説明シ、最後ニ自分ノ見ルトコロヲ申述ベテ、而シテ經濟及經
 濟學ノ概念ヲ獲得スルコトニイタシタイト思ヒマス

客觀經濟說ト稱セラレルノハ從來古ク考ヘラレタ經濟學デアリマシテ、經濟ヲ
 總テ客觀的ニ見ル經濟說デアリマス、其レハ經濟ノ中心ヲ富財即チ物質ノ上ニ置
 ク、從ツテ經濟學ノ對象ハ有形ノ富財デアル、ソノ富財ノ増進ヲ計ルト云フコトガ
 經濟ノ目的デアルガ、之ヲ達スル人間ノ行動ハ自然科學ト同様ノ法則ニ支配サル

ル此ノ自然ノ法則ニ從ヒ人爲ノ因果律ヲ講究スルノガ經濟學デアル、而シテ個人ガ物質的慾望ヲ充タスコトヲ目的トシテ物質的利福ヲ増進スルト云フコトハ自然ニ社會ノ幸福ニ一致スル、——從來ノ經濟學ハ、皆悉ク斯ウバカリデモアリマセシガ大體斯ウ云フ概念テ取扱ハレテ居ツタモノデアリマス、物質ニ重キヲ置イテ、富財ノ増進ノミヲ目標トナシ個人ノ自利的、物質的慾望ヲ無批判ニ取扱ツテ而シテ個人ノ行爲ヲ自由ニシ個人的利福ノ増進ヲ計リサヘスレバ必ず社會ノ幸福ニ一致スルトシタノデアリマス——トコロガ、昔モ今モアリマス通り、一方ノ思想ガ極端ニ流行シテ往クト、必ズ他方ニ其反對思想ガ擡頭シテ來ルノハ歴史ノ常デアリマス、大戰前永イ間ノ客觀的經濟思想ガ極端ニ走ツテ、政治上ニモ道德上ニモ物質的利害ガ混入シタ弊害ヲ生ジテ來タノデ其反動ニ主觀經濟說ガ大戰後諸般ノ變革ト俱ニ旺盛ヲ示スニ至ツタノハ怪シムニ足リマセン、併カシ此ノ主觀的經濟思想トテモ果シテ何時マデ長ク盛ンデアルカハ勿論分ラナイ、歴史ハ始終繰返スノデアリマス、彼ノ政治上ノ思想ナゾヲ見マシテモ、國家主義、共同主義、統一主義ガ盛ンデアアルカト思ヘバ、或時ハ個人主義、分離主義、自由主義ガ盛ンニナリマス、時代

々々ニ依ツテ、一方ガ勢力ヲ得、他方ガ衰退ヲ來スト云フヤウナ譯デ、大戰前ハ軍國主義、國權主義、保護主義、統一主義ト云フ思想ガ盛ンデアツタガ、其レガ大戰後ニハ一變シテ、反對ニ平和主義、人道主義、自由主義、國際主義ト云フノガ時ヲ得顔ニ咲狂ツテ居リマス、ケレドモ此レガ此勢ヒデ到底長ク續クモノトハ考ヘラレヌ、見ヨ佛蘭西革命後ノ十數年間ハ今日ヨリモ極端デ過激ナル自由平等、共有等ノ思想ガ流行シマシタガ、其後ハ漸次鎮靜シテ大戰前ハ既ニ統一主義、保護主義、國權主義ニ變ツテ居タノデアリマス、亦タ獨リ政治上ノ思想バカリデハアリマセン、總ベテ積極ト消極統一ト分離獨立ト協同ト云フヤウナ相反スル思想ハ始終歴史ヲ繰返シテ更代的ニ一消一長シテ居ルノデアリマス、經濟上ノ思想モ、ズツト昔ハ矢張り主觀說ガ流行リマシタ、總テ經濟ハ人ノ良心ニ基カネバナラヌト云フノデアツタ、トコロガ十八世紀ノ中葉カラ客觀說ニ變ツテ參リマシテ自然、物質、功利ト云フ風ニ傾イテ來タノデアアル、其レガ今マ又々大戰後ニハ反動ヲ打ツテ、再ビ古イトコロノ、寧ロ希臘羅馬アタリニモ、其レカラ中世紀頃ニモ隨分盛ンデアツタ主觀良心說ヲ復興サシテ來タノデアリマス

主觀經濟說ト云フノハ經濟ノ中心ヲ人間ニ置ク、經濟學ノ對象ハ富財デナクテ人間ノ意思デアアル、精神上ノ満足ガ價值デアアル、財産ト云フノハ物質ノ蓄積デナクテ意思ノ自由デアアル、自由ノ精神デアアル、價值ノ標準ハ貨幣デナクテ生命ノ完成度デアアル、生命ノ完成ハ意思ノ自由ノ人格デアアル、經濟ノ秩序ハ自然ノ法則ヨリモ人間ノ思意即チ人爲ノ政策デ支配サレネバナラヌ、必然的因果律ニヨルノデナクテ批判的ノ倫理ニヨツテ動カネバナラヌ、貴キハ慾望ノ直進デナクテ良心ノ選擇デアアル、物質的ノ幸福ヨリカ寧ロ良心ノ満足ガ大切デアアル、良心ノ満足ハ人間人格ノ價值デアアル、人格ハ人間價值デアツテ又々其ノ生命價值デアアル、生命ハ意思デアリ意思ハ行爲デアアル、行爲ハ勞働デアリ、勞働ハ犠牲デアリ、創造デアリ奉仕デアアル、ツマリ經濟學ハ人間ノ意思行爲即チ勞働ノ學デアツテ、物ナル資本ノ學デアツテハナラヌト、是レガ主觀經濟說ノ大意デアリマス、故ニ主觀經濟說ハ勞働學說デアルトモ云ハレル、經濟ヲ客觀的ニ物質ノ變動ト見ナイデ、主觀的ニ人類意思行爲ノ活動デアリ、意思ニ依ツテ左右セラレ又々左右サルヘキモノデアルト云フノガ此說ノ特徴デアツテ大戰後ノ今日ハ特ニ旺盛ヲ來タシツツアルノデアリマス、併シ主

觀經濟說ハ餘リニ人間ノ唯我獨尊主義デ、人間ノ意思效力ヲ過信シテ自然ヤ物質ガ人間ノ意思ヤ行爲ヲ支配スルコトノ頗ル大ナルモノアルコトヲ無視シテ居ル是レデ經濟ノ全體ヲ蔽ハントスルノハ無理デアリマス、經濟ハドウシテモ物ノ質量ニ關係ヲ有シナイ譯ニイカヌ、勿論物ノ質量ハ人爲ノ結果ニ依ルモノ少クナイガ自然ノ結果ニ依ルモノモ頗ル多イ、從ツテ何事モ人ノ意思又ハ良心一點張リデ生産ヤ物價ヤ貿易ヤ勞銀ヤ地代等ノ問題ヲ解決スルコトハ出來ナイノデアリマス、現ニ主觀經濟學者ハ、マダ其ノ主觀論デ以テ經濟學ノ全體ヲ科學的ニ構成サセテ居ナイ、唯或ハ分配ノ問題デアルトカ、或ハ特殊ノ問題ニツイテ個々のニ意思的解釋ヤ良心的批判ヤ正義的論斷ヲ爲シテ居ル丈デアリマス、經濟學全體ノ構造ヲ全然人ノ意思ダケデ、——物ノ變化ヲ眼中ニ置カナイデ、組立ツルト云フコトハ到底出來ナイ、若シ強ヒテ組立ツルトスレバ全然抽象的ノ空論ニナツテ、實際ノ經濟トハ殆ンド關係ナキ學問トナツテ仕舞ヒマス、論者中ニハソレ故ニ經濟學ヲ心理學ノ一部トサヘ云フモノガアリマスガ私シハ決シテ其レヲ採リマセン

無論經濟學ハ人ヲ基本トシナケレバナラヌ、人ヲ離レテ經濟ナシト云フコトハ

主觀經濟學派ノ説ヲ待ツマデモナク當然デアアル併シ人ノ何ンデアアルカト云フコトヲ考ヘナケレバナラス、人ノ事デアアルト云フダケデハ盡サレ得ナイ、人ノ何デアアルカト云フコトヲ確メナケレバナラス、人ノ學ト云フダケデハ道德學ダツテ左ウデアアル、心理學ダツテ左ウデアアル、化學ヤ物理學ハ別トシテ、政治學デモ、法律學デモ、社會學ハ勿論醫學モ、獸物ノ醫學モアルガ、矢張り人間ノ學問デアアル、ソコデ人ノ何デアアルカヲ明ニスルノガ學問ノ對象トシテ必要デアアル、コレニ付イテ經濟ト云フノハ、人ノ物質生活デアアル、此レガ其特色デアリマス、トコロガ人ノ生活ニ二アル精神的生活ト物質的生活トデアアル、哲學、道德、宗教、思索、發明、藝術等ノ屈托ハ精神生活デアリマス、物質的生活ト云フノハ物質デナケレバ満足シ得ナイ、人類慾望ヲ充サントスル屈托デアリマス、經濟ハ此ノ二ノ生活中物質的生活ニ當ルノデアリマス、生活ハ人ニ附クガ、ソノ生活ノ手段ハ物質デアリマスカラ、人ノ物質的生活ト云フノデ、其レガ經濟即チ「暮ラシ」ノコトデアアル、人ハ自我デ主觀デアアルガ物ハ他體デ、客觀デアアル、サウスルト經濟學ハ決シテ客觀ノミデハイカナイケレドモ亦主觀ノミデモ不可ナリト云フコトニナル、經濟ハ人類ノ物質的生活ト

云フ以上經濟ノ要素ハ人ト物デアアル、人バカリデモ、物バカリデモ經濟ノ全意義ヲナサス、人ノ心ト物——所謂物心兩觀ノモノデアアルト云フコトガ經濟ノ概念トシテ最モ妥當デアアルト信ジマス、從テ私ノ説ハ客觀經濟説ニモ偏セズ、主觀經濟説ニモ偏セス、兩觀併用ノ説デアツテ、物心兩關係ト云フ見方デアアル、人ヲ以テ經濟ノ目的トシ基本トスルケレドモ、人ノ生活ヲ取扱フノデアツテ、ソノ生活ヲ物質的生活ニ限ルノデアアル、而シテ其ノ經濟學ノ中ニ於テ取扱フベキモノハ物ノ性質、數量、其レト人ノ生活トノ關係デアアル、價值、價格、所得、財產、貧富等ノ事柄ヲ講究スルノデアリマス、是レガ經濟學デアリマス、然シテ其ノ人ト云フノハ孤獨ノ人デハナイ、社會ニアル人デアアル、故ニ其ノ生活ハ社會生活デナケレバナラス、其レデスカラ、人間ノ社會的、物質生活ガ、經濟デアアルト云フコトニナリマス、是ノ概念ニ於テ物質生活ヲ講究スルモノガ經濟學デアリマス、個人ガ孤立シテ居ル生活ヲ經濟學ハ扱フノデハナイ、社會ノ中ニ住ンデキル人間ノ生活ヲ扱フノデアリマス、從テ經濟學ハ個人カラ見テモ批判スルガ結局ハ社會カラ見テ論斷スルノデアアル、詰リ社會觀デアアル、個人ヲ見ルニモ社會ニ住ンデ居ル一人トシテ見ル、社會ノ共同生活ヲシテキル中

ノ一成分トシテ見ルノデアアル、其ウ云フ見方デ經濟學ヲ取扱ハナケレバナラヌト考ヘマス、之レガ經濟及經濟學トシテ——餘リ抽象的ナ話バカリデスケレドモ——其ノ概念ノ大要デアリマス、ソウ論定シマスト然ラバ經濟學ハ人間ノ精神生活ヲ如何スルヤト問フ人ガアリマセウ、之ニ對シテ經濟學ハ學問ノ分科上精神生活ノコトハ他ノ學問ニ讓ルノ外ハナイト答ヘルノデアリマス、經濟學ノ範圍ハ人間ノ物質生活ト云フトコロニ置ク、ソウ答ヘルト餘リ經濟學ハ低級卑近デアルト云フカモ知レマセンガ、ケレドモ經濟學ノ範疇ハ飽マデ物質生活デアアル、物質ノコトハ何ンデ低級デアリマスカ、學問上ノ對象ニ卑近ダノ高尚ダノトノ區別ハナイ筈デアリマス、唯ダ經濟學ハ斯ウ云フコトヲ考ヘテ居ル、經濟ハ人間生活ノ全部ジヤナイ、唯ダ物質方面ノ事柄ダケヲ經濟ガ充實シテ行クノデアアル、完全ナル人間生活ノ達成ヲ期スルニハ精神生活ノ満足及向上ヲ必要トスルコト勿論デアアルガ、其レニハ其ノ基礎トシテ物質生活ノ充實ヲ要シナケレバナラヌト考ヘテ居ル、其ノ充實ハ社會全體トシテ豐富デアアルバカリデナク、各個人ニアツテモ豐富デアアルコト即チ全體トシテモ個人トシテモ豐富ナル物質生活ノ充實ト云フトコトガ眼目デア

ツテ、ソレガ人生ノ基礎デアアル、コノ基礎ノ上ニ立タナケレバ精神生活モ健全ニ向上スルモノデハナイ、此ノ基礎ナクシテ徒ラニ文化ニ耽ケル精神生活ハ文弱、空誕淫靡、浪漫ノ生活デアツテ、ソレハ昔ニ能クアツタコトデアアル、ソレデ良ケレバ昔ヘ戻ルノガ良イコトニナル、併シソレガ爲ニ國ハ幾度カ興亡シ文化ハ幾度カ浮沈シテキル、眞ニ人生ヲ健全ニシテ社會ヲ文化サセテ行クニハ先ヅ物質文明ガ充實シテ、然ル後ニ否ソレト相俟ツテ精神文明ヲ進メテ行カナケレバ順序ヲ誤マル、ドウシテモ文明ノ極致ニ到ル爲メニ通ツテ行カナケレバナラナイ軌道ハ、此ノ物質文明ノ軌道デアアル、勿論此レガ終點デハナイ、ケレドモ通ツテ行カナケレバナラヌ軌道デアアル、ソレヲ通ツテ行カナケレバ完全ナル精神文明ニ達シテ行クコトガ出來ナイト云フコトヲ經濟及經濟學ノ方面デハ確信スル、ソレデ經濟ノ立場ハ飽マデ物質的生活ト云フコトニ限定シ、ソレ以外ヲ經濟ノ範圍ニ入レヨウトハシマセン宗教ヲ引張ツテ來タリ、倫理學、道德學、政治學ヲ引張ツテ來テ、而シテ何ダカ皆ナ悉ク自分ノ畑ノモノノ如クスル八百屋商賣ノ經濟學ニシタクナイ、經濟ト云ヘバ何處迄モ人類ノ物質生活ト云フコトニ其範疇ヲ劃サネバナラヌ、此レガ自分等ノ言

第二章 哲學對觀——平等觀ト差別觀

經濟學ハ昔カラ哲學ノ感化影響ヲ澤山ニ受ケテ居リマス、貨幣ニ就イテモ、資本ニ就イテモ、富ニ就イテモ、價值ヤ價格ニ就イテモ、經濟學ニハ哲學的ノ諸說ガ多ク入ツテ居リマス、就中哲學上ノ唯心論對唯物論ガ經濟上ニモ八釜シイ問題トナツテ居ル、併シ唯心論對唯物論バカリデナク、形式論對素材論モ平等觀對差別觀モ自然說對人意說モ自由論對干涉等モ、經濟ノ中ニ入ツテ經濟ヲ支配シテ居リマス、經濟ガ哲學ヲ支配スル様ナコトハ餘リ有リマセンガ、哲學ガ經濟ヲ動カシテ居ルコトハ澤山アルノデアリマス、故ニ經濟ヲ本當ニ研究セントスルニハ哲學ヲ研究シナイトイカス、經濟ガ變ツテ來ルノハ、元ヲ質スト、ソノ當時流行ツテ居タ哲學ノ爲メデアアルコトガ少クアリマセン、例ヘバ經濟上ノ自由放任說ト云フ如キハ從前非常ニ流行ツタモノデアリマスガ、ソレハ哲學ノ方ニ自由意思說ガアツテ、ソレガ經濟ノ方ニ及ンデ來タノデアリマス、其後ソレガ保護主義ニ變ツテ來タガ是レモ哲學ノ方ニ力ヲ信ズル說ヤ實驗ヲ尊ブ說ガ起ツタ爲メデアアル、其レカラ哲學デ自然

科學ヲ重シ總テ自然科學デナクテハナラヌト云フ自然科學主義ガ盛ンニナルト、ソレガ又々經濟ノ方マデ移ツテ來タ、哲學上ニ功利主義實用學派ガ起レバ經濟上ニモ效用說、限界利用論ナゾガ盛ンニナツテ來ル、其レカラ今度ハ哲學上デ主觀的理想論ノ認識、靈感、本能、衝動、自己表現、人格、創造等ガ流行ツテ來ルト、其レガ又々經濟ノ方ヘモ浸漸シテ認識說、人格主義、勞働主義、社會奉仕論ガ流行ツテ來ルト云ツタ様ナ譯デ、哲學ノ變化ガ經濟ノ變化ニ非常ナ關係ヲ及ボシテ居リマス、デスカラ經濟學ヲ根本的ニ究ハメ様ウト云フニハ何ウシテモ哲學ヲ研究シナケレバナラヌノデアリマス、其コデ經濟原理ノ研究ハ中々難シイ、經濟ノ歴史ト共ニ併セテ哲學ヲ知ラナケレバナラヌカラデアリマス、現在ノ經濟現象ハ皆ナ歴史ニ關係ヲ有ツテ居リマス、故ヘニ歴史ヲ研究シテ其潮流ヲ察シナケレバナラズ、ソシテ其ノ潮流ヲ知ル爲メニハ哲學ヲ攻究シナケレバナラヌノデアリマス、是等ノ事ヲ沿革的ニオ話スルノモ興味アル事業デハアリマスケレドモ、ソレハ別ノ講演ニ譲リマシテ、茲ニハ哲學上ノ諸對觀中稍々重大ナルモノ二三ヲ舉ゲ、而シテ其レト經濟トノ關係ヲ少シ批評シテ置キタイト考ヘマス、私ガ斯ウ云フ哲學論ヲシマスノハ、今

日ハ共產主義、人格主義、文化主義等種々ナ新說ガ勃興シマシテ、獨リ勞資關係ノ問題バカリデナク、所有制度、其レカラ價值、價格、貨幣、利子等經濟上ノ重要問題、竝ニ此等ノ上ニ立脚シ又ハ此等ヲ批判スル道德正邪ノ問題ニマデ、根本的變革ヲ來サントスル傾向ガアツテ頗ル重大デアルカラデアリマス、特ニ今日ノ日本ハ盛ンニ幾多ノ外來思想ガ混入シ來ツテ、模倣、雷同、輸入好キノ民衆心理ヲ撼搖シ、正邪ノ判別ヲ顛倒シ、經濟組織ヲ根本カラ變ズルニ至ルカモ知レナクナツテ來タカラデアリマス、餘リニ抽象的ニ偏スル様デアリマスガ、モウ少シ諸君ノ御辛抱ヲ乞ハネバナリマセン、ソコデ、哲學上デハ先ツ第一ニ絕對觀ト相對觀ト云フノガアリマス、眞理ヲ絕對ト見テ永久の普遍ノ妥當性デアルトスルノト、眞理ニハ絕對ノモノナク、時ヤ空間ヤ他ノ事情ニ相對的ナル妥當性デアルトスルノトガアル、最近流行ノあいんすたいん氏ノ相對性原理ハ宇宙間ニ絕對ノモノナシトスルモノデ後者ニ力ヲ添ヘテ居リマスガ、此問題ハ哲學上ニ於テ頗ル強イ爭議デアル、氷炭相容レナイ而シテ何レガ勝ツタ、敗ケタト云フ如ク決定的デナク謂ハハ一消一長デアリマス、一方ハ絕對ヲ主張シ、他方ハ相對ヲ主張スル、天ノ高キヲ望ンデ宇宙的絕對觀ヲ主張

スルモノガアレバ、又々地ノ低ニ伏シテ萬物的相對觀ヲ提唱スル者ガアルノデア
ル、ソレガ又一方ニ於テハ自我一元ノ説トナリ、他方ニ於テハ萬象多元ノ説トナッ
テ、其結果ガ經濟上デハ理想ト現實トニ別レルノデアリマス、現實ニ即スルカ、理想
ニ即スルカ、ソレニ依ツテ經濟ノ思想ガ分レテ行ク、私ハソノ中ヲ折ルト云フノデ
ハナイガ、一方ニ偏スルノハイカナイ、即チ現實ニ立脚シテ理想ヲ求ムルノガ妥當
デアルト思フ、經濟ノ思想ハソウ行カナケレバナラス、勿論理想ニ盲目デハイカス、
理想ニ開眼シテ而シテ現實ノ上ニ立タナケレバ適當デハナイト考ヘマス、其レカ
ラ次ギニ第○二ハ哲學上ノ唯心論ト唯物論デアル、コレハ中々經濟ト密接ナ關係ガ
アリマス、彼ノぶらとんヤありすとてれすナゾカラ既ニ分レテ居リマス、ぶらと
んハ唯心的理想派、ありすとてれすハ格物的科學派デアリマシタ、ソレ以來ズツ
ト今日ニ至ル迄、唯心論對唯物論ハ常ニ相争ツテ居ルノデアリマス、結局唯心論ハ
何事モ人ノ精神、認識ノ結果デアル、人ノ意思ノミデ事物ハ皆ナ左右サルル、物ガア
ロウガ無カロウガ又々物ノ性質ガ何ウアロウガ關係ハナイ、否ナ物ノ存否及品質
迄モ人ノ意思ノ所産ニ外ナラヌト云フノデアアル、之ニ反シテ唯物論ハ人間自體既

ニ物デアアル、其精神ハ物質綜合ノ結果、組織カラ自ラ發生スル力ニ過ギヌ、從ツテ物
質ニ依ツテ人ノ意思ハ常ニ支配サルルモノデアルトスル、彼ノ經驗哲學派、自然科
學派乃至まゝるくす氏ノ唯物史觀ノ如キモ之レニ根柢ヲ置イテ居ル、此ノ爭論ハ經
濟學ニ移サレテ到ル處ニ紛糾シテ居ル、例ヘバ、經濟學上ノ資本論デ資本ノ意義ヲ
定ムルノニ、物ノ性質デ意義ヲ定ムルカ、之ヲ使用スル人ノ意思デ定ムルカ、物ノ種
類デ定ムルノガ唯物論デ人ノ意思即チ使用目的デ定ムルノガ唯心論デアアル、又貨
幣ナドニツイテモソウデアアル、何ンデモ人ノ意思デ貨幣ト定メタモノガ貨幣デア
ル、實質ノ如何ハ關スル所デナイ、人ノ意思即チ約束又ハ法律デ貨幣トスルモノハ
皆ナ貨幣デアアル、必ズソレガ金デナケレバナラス、銀デナケレバナラヌコトハナイ
ト云フ、之レガ唯心論ノ系統デアアルガ、之ニ對シテ、イヤ貨幣ト云フモノハ金、銀ノ如
キ實質アルモノデナケレバナラス、實質ヲ具備セヌモノハ決シテ貨幣デハナイ、ト
云フノハ唯物論デアリマス、又々價值ニ付イテモ人ノ心デ認ムルモノデアアルカ、物
ノ持つテル性質デアアルカ、價值ハ物ダ、少クトモ物ノ性質デアアル、從ツテ不變デア
ルト云フ唯物論者モアルガ、之レニ反シテ、價值ハ物デモナケレバ物ノ性質デモナイ

全然人ノ思想ノ結果デ、人ノ認識デアアル、從ツテ常ニ可變デアルト云フ唯心論者モアル、此ノ爭議ハ價值論ノ所デ論ズルコトニシマスガ經濟上大變ニ關係ガ深イ、要スルニ哲學上ノ唯心論對唯物論ハ經濟上ニ於テ認識ト事實トニ別レ、精神ト物質トニ別レテ意思說ト物質說トノ爭議ヲ爲スノデアリマス、物質ヲ尊ブカ、意思ヲ尊ブカ、之ガ經濟上、多大ノ關係ヲ持ツノデアリマス。之ニ對シテ私ハ物心兩關說ヲトルノデアリマスカラ、物心兩條件ヲ必要トスル、何ヅレモ缺クコトノ出來ナイモノトデアルト云フコトヲ主張シマス、其レカラ第三ハ哲學上ニ於ケル平等觀ト差別觀デアアル、之レモ亦難カシイノデアリマシテ、平等ハ畢竟絕對觀デアリマス、總テ一律無差別ニ見ル、之ニ對シテ差別觀ハ萬事ヲ別々ニ取扱フデアリマス、從ツテ平等觀ハ絕對觀、一元論デ、差別觀ハ相對觀多元論ニナルノデアリマス、別々ニ幾ラデモ違ヒガアレバ分ケル、差別觀ハ分析的デ平等觀ハ大同的デアアル、詮ジ詰ムレバ平等ニ差別アリ差別ニ平等アリト云フコトニナリマスガ觀念ハ全ク別デアリマス、ソシテ此ノ區別ガ經濟上デハ先ヅ第一ニ共產主義ト私有主義トノ別レニナリマス、共產ハ一元平等ノ共有デアリマス、私有ハ皆ナ別々ノ所有權ヲ認ムル多元的ノ

差別有デアリマス、眞ノ共產制ハ誰レモ有シナイノデ、皆デ持ツノデアアル、國有ハ共有デハナイ共有ハ世界總人類有デナケレバナラス、私有制ハ大體各人各別ノ能力ニ應ジテ各人別々ニ持ツノデアリマス、前制ノ下ニハ交換ナキニ後制ノ下ニハ賣買ガ行ハレマス、何レガ良イカト云フ問題ハ詳述ノ限リデアリマセンガ、併カシ經濟デハ原則トシテ差別主義ノ私有制ヲ取ルノ外ハアリマセン、物ガ餘ル程、豐富ナ時代ニハ、平等共有デモ良ク又タ可能デアリマスガ、物ノ不足勝ナル時代ニハ萬物ノ共有ハ到底不可能デ、能力其他ノ原因ニ依リテ差別ヲ設ケ所有ヲ異ニシ節約ト勤勉トヲ刺激シ物ノ不足ヲ調和シ公平ニ能率ヲ増サセル私有主義ヲ採ラネバナラス、獨リ所有ノ場合バカリデハナク、價格ヤ所得ノ問題ニ於テモ經濟ハ平等觀ニ依レナイデ差別觀ニ依ラネバナラス、何トナレバ平等觀ニハ因果律ガナク、差別觀ニハ因果律ガアルカラデアアル、因果律ニ依ラヌモノハ不公平デ、因果律ニ依ルモノハ公平ト云ヘル、今マ社會主義的學說ガ「勞働ニ應ジテ報酬ヲ與ヘズ必要ニ應ジテ配給ヲ與ヘル」ト云フノハ確カニ此ノ平等觀デアリマス、働イテモ働カナイデモ、必要ノ給與ヲ各人一律ニ與フルカラデアアル、平等一律デハ因果的公平ガ保テナイ、之

ニ反シテ差別觀デハ賢愚巧拙勤怠ニ應ジテ因果的ニ差別的報酬ヲ與フルコトニナル、故ニ差別觀デ行クト公平デアリマスガ平等觀デ行クト不公平ヲ免レナイ、不公平ニハ不平ガアル、其レヲ一律ニスレバ自由ヲ拘束スル、平等ノ報酬ハ唯生キルト云フ生存權ダケノ保障デアルガ、公平ノ報酬ハソウデハナイ、賢愚勤怠巧拙ニ依ツテ與ヘテ行クノデ、意義アル生存權ノ保障ニナル、不公平ハ能率ヲ阻害シ公平ハ生産ヲ獎勵スル、要スルニ平等觀對差別觀カラシテ茲ニ經濟上ニ於テ共產制ト私有制、分配ノ不公平ト公平、次イデ生産能率消長ノ差異ヲ惹起シテ來ル、故ニ經濟上ニ於テハ物資不足ノ關係カラ差別主義ヲ採ラナケレバナラヌ、法律上デハ平等主義ヲ採ルノガ宜イ、法律ハ權利ノ問題デアリマシテ、權利ハ皆平等デアリ、又アラネバナラヌ權利ノ平等ハ必要デアリマス、權利ヲ平等ニシテ置カナイト、幾ラ努力シテモ甲斐ガナイカラ各人ノ能率ハ上リ得ナイ、然ルニ經濟ハ平等デアツテ、經濟ノ平等ノ發達ニ良イノデアリマス、法律ノ平等ハ原因ヤ機會ノ平等デアツテ、經濟ノ平等ハ物資又ハ生活ノ平等デアル、人ハ何人モ刑法、民法、商法ノ前ニ立ツテ同等ノ權利ガアリマス、賢愚勤怠巧拙如何ヲ問ハズ皆平等ノ權利デアリマス、併カシソレハ機

會ノ平等デアツテ、事實ノ平等デハナイ、原因ノ平等デ、結果ノ平等デハナイ、權利ハ同等ニシテ置カスト、始メカラ「ハンデキャップ」ヲ付ケラル、カラ努力ヲ促カシ生活ヲ進メル希望ガ起セナイ、故ニ總テ法律上デハ權利ハ平等デアルトセネバナラズ又タ實際ニ概シテ權利ハ平等ニシテアリマス、ソレヲ社會主義的學說ハ佛國革命デ吾人ノ權利ハ平等ニナツタガ權利ノ平等ハ事實ノ平等デナイ、更ラニ此レヨリ事實ノ平等ニ關スル經濟革命ヲ期成セネバナラヌト主張シテ居ルガ、經濟即チ生活ノ平等ハ不可能デ且ツ不得策デアル、經濟ハ差別的、公平デナケレバナラヌ、ソレガ法律ト經濟ト違フ所デアリマス、法律上ノ權利ハ平等ナルベク經濟上ノ生活ハ公平ナルヲ要スト云フノガ至當デアルト信ジマス、右ノ外第四ニ創造說ト正義說ト云フノガ哲學上ニアリマス、之レヲ經濟上ニ移シマス、生産ニ重キヲ置クカ分配ニ重キヲ置クカト云フコトニナリマス、創造說ハ即チ經濟上ノ生産主義デ、正義說ハ分配主義ニナリマス、故ニ是又タ經濟上ニ余程重要ノ關係ヲ以テ居リマス之レニ付イテハ澤山生産スルノガ良イカ、物ハ澤山出來ナイデモ分配ヲ正義ニ從ツテ公平ニスレバ良イカ、昔カラ經濟學者ガ爭ツテ居リマス、昔時ハ生産主義デ産

業ヲ保護シ生産物ヲ増加スル生産増進論ガ専ラ流行シマシタガ、十九世紀ノ半バ頃
カラ、餘リ生産ガ増進シテ、一方ニハ大資本家ガ出來ルカト思ヘバ、一方ニハ非常ナ
貧乏人ガ出來キテ來タ、ソコデ生産主義ハ不可デアアル、只生産ガ増加スレバ良イト
云フノハイカス、生産ノ結果ガ如何ニ人民各自ニ分配サレテ居ルカト云フコトヲ
注意センケレバナラヌ、生産ノ増進ヨリモ分配ノ公正ガ重要デアルト云フ論ガ十
九世紀ノ半バ頃カラ盛ンニナツテ來タノデアリマス、斯クテ今日モ尙ホ經濟上ニ
於テ生産主義ニ重キヲ置クモノト、分配公正主義ニ重キヲ置クモノトノ爭論ガアル
ノデアリマス、學者ニ依リテハ貧弱ナル公平ヨリカ豊富ナル不公平カ宜イト論ズ
ルモノガアリ其ノ意味ハ少シ位分配ガ不公平デモ豊富デアレバ各人ガ以前ヨリ
モ多ク分配ヲ受クルカラ良イト云フノデアリマス之レニ對シテ分配主義デハ物
資ハ貧弱デモ各人ノ分配ガ公平デアレバ正義ガ立ツテ氣持ガ良イカラ宜イデハ
ナイカト云フノデアリマス、要スルニ豊富ノ不公平ト貧弱ノ公平ト果シテ何レガ
宜イカト云フ爭論ニナルガ、私シハ何ニモ惡イ方バカリノ消極的比較ヲスル必要
ハナイ、積極的ニ經濟ノ根本目的カラ批判スベキデアルト考ヘマス、ソウスルト經

濟ハ何處迄モ社會幸福カラ見テ行カナケレバナラヌ、其デ社會全體カラ見マスル
ト社會人類ノ物質的生活ニ充分ナル物量及價值ノ發増ガ經濟ノ第一要件デアリ
マス、此要件ヲ充タスモノハ生産デアリマス、生産ハ創造デアルト云ヘル、之ニ對シ
テ分配ハ物及價值ノ發増ニハナラナイ、分配ハ價值ノ移轉ニ過ギナイ、斯ル點カラ
見ルト經濟上ニ於テハ生産ヲ第一義ニ置カナケレバナラヌト云フコトニナリマ
ス、物ノ交換ダノ、分配ダノ、所有ダノト云フコトハ創造デナイ、唯既ニ存スルモノニ
法律關係ヲツケル又ハ法律關係ヲ變更スルト云フダケデアアル、謂ハ、形式關係デ
アツテ實質關係デハナイ、ダカラ最近經濟學說ノ趨勢ハ復タ又タ昔時ノ如ク生産
ニ重キヲ置ク傾向ガ生ジテ來タ、此レハ大戰中物質ガ缺乏シテ、ドウシテモ物ヲ多
ク拵ヘナケレバナラヌト云フ思想ガ多少根柢ヲナシテオルノデアリマスガ、兎
ニ角モ大戰前ニ於ケル分配主義的學說ノ反動デ生産増進論ガ復興シツ、アリマ
ス、英米佛ノ實際界ニ減費増産主義ノ高唱サル、ハ其ノ適例デアリマス、學說上デ
モ厚生經濟說、幸福經濟說ガ盛ンニナツテ來タノデアリマス、サウ云フ風ニナツテ
來テ居リマスガ、併カシ分配主義モ大切デアリマス、生産主義ニ比スレバ經濟ノ第

二義デアアリマスガ、第二義デアルト同時ニ亦實ニ其目的デアリマス、生産ハ第一義デアルケレドモ終局デアナイ、分配ハ第二義デアルケレドモ殆ンド終局ニ近イ厚生又ハ幸福ノ決定的意義デアリマス、一國全體ノ豊富ハ生産デ達セラレマスガ各人ノ豊富ハ分配ニ依ラネバ定リマセン、且ツ分配ハ之ヲ公平ニスレバ生産ニモ役立つテ行クデアリマス、分配ヲ公平ニスルト云フコトハ單ニ正義ノ道德ニ副ナフバカリデナク、因果律ニ依ツテ人ノ努力ヲ喚起スルノデ、必ズ其結果ハ更ニ多産増富ノ能率ヲ高メ、生産主義ニモ一致スルコトニナリマス、此ノ見地カラ見ルト分配ト云フコトハ第二義トハ云ヒナガラ、徹底セル生産主義ト一致スル時ニハ第一義トモナルノデアリマス果シテ然リトスレバ生産主義ト分配主義トハ何レヲ優リ何レヲ劣レリト定メ難ク、同等且ツ互助ノ關係ヲ爲スベキモノデ併行サセナケレバナラヌト云フ結論ニ達スル、此ノ併行ヲ増産正配主義ト稱スルノデアアル。尙ホ外ニ自愛論ト他愛論、本能説ト倫理説、競争ト共同、自治ト統一ト云フ如キ相反シタ思想ガ哲學及政學等カラ經濟學ニ傳移シテ相争ヒツ、アリマスガ、經濟上ニ於テ尤モ重要ノ關係ヲ存スルノハ第五ニ個人觀ト社會觀トノ別デアリマス、否

ナ此區別ハ哲學上、政治上、道德上及經濟上ノ諸主義ニ對シ批判ノ總括及解決ノ關鍵ヲ爲スモノデアルト考ヘマス、以上哲學諸觀ニ於テ諸思想ノ優劣ハ結局此區別ニ依テ批判シ個人的ノモノハ不可デ、社會的ノモノハ良シト云フコトニナリマス、特ニ經濟上ノ問題ニ於テハ然リデアリマス。

個人觀ト云フノハ個人個々ノ立場カラ觀察シテ宜イトスル批判デアツテ、社會觀ハ社會全體ノ見地カラ觀察スル選擇デアアル、一ハ部分觀デアリ他ハ全部觀デアアル、部分ハ全部中ノ部分デアアル、共同生存ノ同意識カラシテ部分ノ意思ガ全部ノ意思ニ從ハネバナラヌコトハ當然ノ事デアアル、併シ又タ部分アツテノ全部デアアル、全部ハ畢意部分ノ綜合デアアル、部分ノ個人ヲ離レテハ全部ノ社會ガ存在シナイ關係カラ、個人ノ部分的意思モ或ル程度迄ハ自由ノ表現ヲ許サレネバナラヌガ、其ノ表現ヲ許スモ許サヌノモ、皆ナ全部的社會觀デ決定スベキモノデアアル、但シ哲學的主觀説ニ依レバ其社會觀的批判モ選擇モ亦是レ個人的主觀ノ作用ニ外ナラナイト云フデアラウガ、斯ウ云フノガ一元絕對論ノ空論デアツテ形式論理ノ遊戲ニ過ギヌ、寧ロ差別的ニ個人觀對社會觀ノ區別ヲ認メテ個人觀ヨリ社會觀ヲ重シトス

ルガ適切デアリマス、個人觀ト社會觀ハ又タ自己觀、他人觀、若クハ小我觀、大我觀トモ稱セラレマス、同ジ一ツノ欲望ナリ、愛ナリガ個人觀ニスレバ自利又ハ自愛トナルガ社會觀ニスレバ社會利又ハ他愛トナルデアリマス、ソコデ社會ニ於ケル個人トシテハ此ノ社會愛ト個人愛トヲ公正ニ評價シテ互讓スルヲ期セネバナラヌ若シ個人ガ自ラ互讓セヌトキハ社會ガ互讓サセテ宜イノデアアル、唯問題ハ實際ニ臨ンデ個人ハ幾何ノ利益ヲ社會ニ讓ツテ、ソノ中ノ幾割ヲ自利トスヘキヤノ歩合如何デアリマス、事實問題トシテソノ解決ハ頗ル困難デアルコト勿論デアリマ스가、兎ニ角モ社會的自利又ハ個人利ノ社會化ト云フコト、之レガ何ウシテモ調和點デアアルニ相異ナイ、社會的ノ自利ト云フカ、自利ノ社會化ト云フカ、コレガ吾人社會生活ノ極意デアリマス、畢竟スルニ社會ヲ愛シツ、自己ヲ愛スルト云フコトガ普遍的妥當性デアルト考ヘル、此レハ難シイ様デアリマスガ、ソナニ難シイモノデハナイ、實際ガ社會ヲ利セナケレバ個人ヲ利セラレナイ、種々ナ商賣ヲシテ居ル人ヲ見テモ、或ル店ハ大層榮エル、ソレハ何故カ、社會ノ氣ニ入ル様ナモノヲ作ツテ居ルカラダ、然ルニ或ル他ノ店ハ失敗シテ閉鎖スル、ソレハ何故カ、社會ノ需要ニ應ジ

ナイ商賣振リデアルカラダ、勿論例外ハアリマスケレドモ大體ガ社會ノ需要ニ應ズレバ榮エ、社會ノ需要ニ應ゼザレバ衰ヘル、此レガ社會ノ實情デアリマス、而シテ社會ノ需要トハ何ンデアアルカ、社會ノ利益ト云フコトデス、他人ノ利益ト云フコトデアアル、社會ト云フコトハ他人ノコトデス、需要ト云フコトハ其ノ利益デアリマス、社會ノ需要ニ應ズルト云フノハ社會ノ利益ニ從フト云フコトデ而シテソノ店ガ榮エルト云フノハ個人ノ自利ニ當ルコトデアアル、今日ノ社會組織ハ大體ニソウナツテ居リマス、シテ見ルト、社會ヲ利シツ、自己ヲ利スト云フヨリ以外ニ吾人ニ取ツテ確實ニ社會ニ生活シ行ケル道ノナイコトハ明カデアアル、ソレデ社會ヲ愛シツ、自己ヲ愛スト云フコトガ人生ノ常道デアアルコトハ判ツタガ、倍テ其割合ハドウナツテ行クカ、二宮尊徳氏ノ報徳記中ニ互讓ト云フコトガアツテ社會ニ對スル個人ノ分度ハ四ト一トノ割合ダト云フテ居リマスガ、此レハ到底一律ニハ行カナイ、併カシ各業自ラ一定ノ平均利益率ハアル筈デアリマスカラ、各業ハ皆ナ各々此ノ率ニ從ヒ社會ヲ利スル程度ニ應ジテ自己ヲ利スルト云フ勞功相應主義ノ公正ナル評價デ其分度ヲ定ムレバ宜イノデアリマス、此レハ後ニ述べマサル社會的功利主

義ニ一致スル原則デアリマス、以上ハ大體、個人觀對社會觀ノ區別ト調和ノ御話デアリマスガ、此ノ個人觀ト社會觀カラシテ經濟上ノ重要事項ガ大ニ分レマス例ヘバ交換ハ個人觀ノ事項デアアルガ生産ハ社會觀ノモノデアリ、價值ハ社會觀ノモノデアアルガ價格ハ個人觀ノモノデアリマス、就中價值ト價格ノ區別ハ最モ大切デアリマス、價值ニモ個人觀ノモノガ考ヘ得ラレマスガ經濟學ガ最モ重要トスルモノハ社會觀ノ價值デアリマス、コノ事ハ先へ行ツテ詳シク申述ベマスガ茲デ御記憶ヲ願ツテオキマス、此ノ社會觀ノ價值ガ經濟及經濟學ノ目標即チ批判標識ニナルノデアリマス、總テ社會價值ノ大小ヲ見テ批判シ取捨ノ選擇ヲスルコトニナリマス、勞働問題デモ何ンデモソウデアアル、勞働ガエライカ、エラクナイカト云フコトハ社會的ニ價值ガアルカナイカ、社會價值觀ノ鏡ニカケテ始メテ決定スルノデアリマス、價值ニ個人價值ト社會價值トアリトスレバ、個人價值ヨリモ社會價值ニ重キヲ置カナケレバナラス、私ニハ必要ナモノデアツテモ社會ニ必要ノナイモノガアリ又タ私ニ採ツテハツマラナイモノデ、社會カラ見テ大變ナ價值ノアルモノガアル、此ノ社會價值ガ眞ノ經濟的價值デアリマス之ニ反シテ價格ハ個人的ノモノバ

カリテ社會的ノモノハアリマセン故ニ價格ノミヲ重要視スル從來ノ價格經濟學ハ完全デナイ、然ルニ社會價值ハ畢竟社會ニ對スル役立デアリマス、役立ハ奉仕デ奉仕ハ即チ善デアアル、善ト云フ言葉ハ自ラ付ケル自贊デハナイ必ズ他カラ付ケル批判デアアル、善惡ハ社會的批判デアツテ、自己ガ銘々ニ自己ノ爲メ判斷スルモノデハナイ、所謂善ハ社會價值觀ノ精神化シタモノ即チ精神的社會價值デアツテ經濟上ノ物質的社會價值ト相竝ビ相補完スルモノデアリマス、又タ社會價值ハ社會利デアリ、善ハ社會善デアリマス、一ハ經濟上ノ價值デアツテ、他ハ道德上ノ價值デアルト云フニ過ギナイ、ココニ至ツテ經濟上ノ價值ト道德上ノ善トハ社會觀ト云フ立場ニ於テ同一デ、精神的ト物質的ト云フコトノミデ其ノ差違ヲ存スル、要スルニ社會價值觀ハ批判ノ標準トシテ、日月ノ如ク物質界ト精神界ニ臨ミ、物心兩界ノ歸趨ヲ支配スルモノデアリマス

第三章 經濟主義——社會價值

經濟主義ト云フノハ社會ニ生活スル個人即チ社會的個人ノ經濟行爲ヲ普ネク支配シテ居ルトコロノ指導的原則ヲ云フノデアリマス、普ネクト云フノハ廣ク且ツ長クト云フ意味ヲ含ンデ居ル、時ノ古今バカリデハナイ、場所ノ東西ヲモ含ンデ廣クト云フ意味デ、吾人ノ物質的慾望即チ經濟慾望ニ依ル行爲即チ活動ヲ支配スルノ方針ヲ云フノデアリ、其レガ經濟主義デアリマス、之レニ付イテ、今マデハ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ結果ヲ得ルト云フコトガ指導的原則ニナツテ居タノデアリマス、アノ人ハ經濟主義ノ人ダナゾト能ク云ヒマスガ、其レハ節約主義ト云フコトデ、最少ノ勞費ト云フコトニ當リマス、其ニ依ツテ最大ノ結果ヲ得ヨウト云フ意味ニモ通ジテ居ルノデアアルガ、斯ウ云フ個人主義ノ方針ハ決シテ嚴格ナル經濟目的ニ合致スルモノデハアリマセン、謂ハハ唯ダ通俗的ニ稱ヘラレタニ過ギナイノデアツテ、能ク研究セラレタモノデハナイ、從ツテ、個人的ノ考察ナラ之レデ宜イカモ知レナイガ、社會的ニ見テ參リマスト妥當且ツ有效ノ原則トスルコトハ出來マセ

ン何ントナレバ餘リニコレハ個人、自我ニ偏シテ居ルノミデナク、理窟ニ合ハナイ、
條理ニ外レテ居ル、因果ノ律ニ合ハナイ、何故因果ノ律ニ合ハナイ、條理ニ箴マツテ
居ラナイカト云フト、最少ノ勞費デ最大ノ結果ヲ得ルト云フコトハ、小ナル原因ヲ
以テ大ナル結果ヲ得ントスルモノデ、所謂因果ノ律ニ合ハナイ、不條理デアルカラ
デアリマス、因果律ト云フノハ、因アレバ即チ果アリ、因ナケレバ果ナク、因少ナケレ
バ果少ニ、因大ナレバ果大ナリト云フ比例的ノモノデナケレバナラス、然ルニ最少
ノ勞費ヲ以テ最大ノ結果ヲ得ルト云フノハ、勞ナクシテ功ヲ得ントシ、勞少ニシテ
功ノ大ナランコトヲ期スルモノデアツテ、通俗的ニ云ツテモ餘リニ慾ノ深イ自我
的、貪婪的デ甚シク理智ニ盲デ條理ヲ缺イテ居ル、所謂因果ノ律ニ反シテ居リマス、
經濟上社會的ノ原則ナルモノハ決シテ不條理デアツテハナリマセン、故ニ是レハ
修正ヲ加ヘナケレバナラス、如何ニ修正ヲ加ヘルカト云フト、勞費ニ相應スル所ノ
結果ヲ期待スルト云フコトニ直サナケレバナラス、私ハ之レデ始メテ眞ノ社會的
經濟主義デアルト思フ、假リニ從前ノヲ少勞多功主義ト云ヘバ此レハ勞功相應主
義ト云フコトニナリマス、斯クナレバ個人的自利ニ偏セズ、又チ因果律ニモ外レズ

理智ニモ明ラカニ、條理ニ適ツテ居ル所ノモノデアリ且ツ能ク社會的價值主義ト
一致スルコトニナリマス、勞ト云フノハ所謂社會ニ提供シタ勞デアル、此ノ提供セ
ル勞ニ相應シテ社會カラ功ヲ得ント期待スルノデアアル、社會ニ勞シタ丈ノ程度ニ
應ジテ功ヲ得ントスル所ノ主義デアアル、所謂社會價值ヲ増加シテソノ社會價值増
加ノ勞ニ相應シテ自己ヲ利スルト云フ主義、即チ社會的個人利又ハ個人利ノ社會
化トモ云フヘキモノデアリマス、之レハ又チ社會的功利主義ト云フ他名ヲ附シテ
モ宜イト思ヒマス、併シ唯ダ功利主義ト云ヘマスト此ノ頃デハ隨分非難ガアリマ
ス、元來此ノ功利主義ハ有名ナ英國ノ哲學者ベンゾビ氏ガ社會ノ最大幸福ト云フ
コトヲ以テ總テ人生ノ目的トスルト説カレタノニ淵源シタモノデアアルガ、先ヅ第
一ニ近時ノ本能衝動論ヤ文化人格主義ノ學說ハ反對シマス、其ノ譯ハ功利ト云フ
ハ何カノ爲メニナルト云フ目的主義デアツテ因果應報ノ思想ニ囚ハレテ居ルカ
ライカヌ、身ノ爲メトカ國ノ爲メトカ云フノハ佛教ナゾノ小乘ニ屬スルモノデア
ル、人生ノ哲學ハ凡テ爲メトカ利益トカノ觀念ヲ超越シテ、個性本能ニ立脚シ、人格
美ヲ完成スルニアラネバナラスト高調シテ、小乘的功利主義ヲ罵倒スルノデアリ

マス、此ハ素ヨリ少數ノ學者デアリマスガ、多數ノ學者ハ又タ功利主義ヲ以テ營利主義ノ如クニ解釋シ、功利主義ト營利主義トヲ混同シテ、功利主義ハ唯物主義デアリ物質主義デアリ、金儲主義デアリ、我利主義デアリ、競争主義デアル、故ニ之レガ爲メ幾多ノ弊害ヲ派生シテ、今ヤ全ク行詰リノ状態ニ在ルトト誹議シテ居リマス、勿論功利主義ハ其ノ初メべんざむ等ノ提唱シタトキハ最大多數ノ最大幸福主義デ、社會的意義ノモノデアリマシタガ、初メヨリ物質的實利ヲ主トシテ居ツタ爲メト其後ニ段々曲折シ濫用サレテ個人的意義ニ解釋サル、様ニ轉訛シタ爲メニ、個人的物質的營利主義トシテ批難ヲ受クルニ至ツタ事情ハアルノデアリマス、併シナガラ根本ノ社會的、最大幸福主義ハ決シテ誤マツテ居ラスノデアリマス、最近復興ノ氣味アル所謂厚生經濟說、幸福經濟說、繁榮經濟說ノ如キハ皆ナ社會的功利主義ニ外ナランノデアリマス、社會ノ最大幸福主義ガ總テノ理想デアルコトハ當然デアリマス、個人的功利主義ハ良クナイガ社會的功利主義ナラバ決シテ惡イ筈デアリマセン、若シ單ニ功利主義ト云フテ惡ク響ビク様ナラバ社會的功利主義ト修正スレバ良イ、即チ社會的、最大幸福主義ト云ヘバ更ラニ良イ、個人バカリノ功利幸福主

義ハ素ヨリイカヌ、社會的功利幸福デナケレバナラス、ソレデ始メテ社會價值主義ト一致シテ來ルノデアリマス、要スルニ社會觀、社會化又ハ社會的ト云フコトガ最も大切デアルノデアリマス、ソレハ兎ニ角モ勞功相應主義ガ差別的因果的公平主義ノ原則ナルコトハ爭ハレナイ、即チ賢愚、勤怠、巧拙、良否ノ原因能力ニ從ヒ之ニ應ジテ差別的評價及分配ヲスルト云フコト是レガ即チ公正デアル、公正ハ即チ差別的公平デアツテ無差別ノ平等ト違フコトハ既述ノ如クデアル、公平ハ原因ノ異ナルニ從ツテ結果ガ違フノデアアル、因果律ニ從フノデアアル、是レニ依ツテ始メテ人生ハソノ賢愚、巧拙、勤怠ニ應ジテ各々其ノ所ヲ得、物ハ良否ニ從ツテ、各ソノ價值ヲ得ルト云フコトニナル、是ガ經濟上ノ因果律デアリマシテ、是レアツテ始メテ經濟及生産ハ發達シ、而シテ各人ハ愉快ニ、且ツ何人モ不平ナク働クト云フコトニナリ、益々經濟ノ發展、人生ノ幸福即チ社會價值ノ増進ヲ來ス所以デアリマス、此點ハ頗ル重大ナルトコロデアリマス、何故カト云ヘバ共產主義的學說ノ多數ハ全ク此反對ヲ採ツテ無差別平等主義ヲ原則トシテ居ルカラデアリマス、現ニレトニん政府ノ如キハ此ノ平等主義ヲ聲明シテ居リマス之ニ依リマス、ト勞働ニ應ジテ報酬ヲ與

ヘナイ、労働ニ應ジテ報酬スルノハ労働ヲ汚贖シ労働ノ人格ヲ侮辱スルコトニナル、故ニ須ラク労働ニ應ジテ報酬セズ労働ハ能力ニ應ジテ奉仕スベク給與ハ生存ノ必要ニ應ジテ行フベシ、労働ト報酬——換言スレバ因ト果トノ縁ヲ切ルニ限ルト云フノデアアル、因果律ノ絶縁デアアル、労働ハ義務トシテ行ハシメ報酬ハ生存ノ必要ニ應ジ權利トシテ受ケサセル、否ナ報酬デハナイ配給デアアル、働イタ労働ハ善カロウガ、悪カロウガ、賢愚、勤怠、巧拙ノ差別ヲシナイ、受クル必要ノ生存權ニ從ヒ一律平等ニ配給ヲ行フベシ、ソレデ始メテ労働ノ人格ガ認めラレ労働者ハ賃銀奴隸デナクナルノデアアルト高唱スルノデアリマス、併シ平等ハ必ず自由ヲ失ハセル、平等ニ自由ナシ、平等ハ何ウシテモ強制ヲ意味シテ來マス、強制ナクシテ平等ハ出來ナイ、既ニ強制ノ労働タル以上ハ労働者ノ人格ナゾ如何ウナルカ亦是一種ノ奴隸トナルノデハナイカト云フ疑義モ生ズル、ソレハ兎ニ角トシテモ強制ノ労働デハ果シテ労働ノ能率ガ上ガルカ何ウカ、素々因果律ヲ踏外シテ掛ルノデアアルカラ現在ノ人情デハ、トテモ能率ノ上ガル等ガナイト思ハレル、サウ云フト社會主義派ノ多數ハ其レコソ大違ダ、總ベテ労働ヲ苦痛デアルト思フカラ左ウ云フ結論ニナ

ルノダ、労働ハ愉快ナモノダ、働クト血液ノ循環モ良クナツテ來テ氣持モ良イ、決シテ苦痛デハナイト主張スル、故ニ差別的ノ労働相應主義デ行カナクトモ労働ハ決シテ強制ニハナラナイト云フノデアアル、ソウスルト労働苦痛説カ、將タ労働愉快説カノ根本問題ガ生ジテ來ルノデアリマス、從來經濟學者ノ多數ハ皆ナ労働苦痛説デ労働ハ疲勞スル、犠牲デアルトシタ、彼等ハ此前提ノ上ニ價值モ所有モ經濟自然ノ制裁ヲモ説明シテ居ルノデアリマス、社會主義者ノ中ニモ労働苦痛説ヲ取ツテ居ル者ハアル、ぎるど社會主義ノ如キハ其レデアアル、彼等ニ依レバ經濟學者一般ノ云フ通り労働ハ苦痛デアアル、犠牲デアアル、犠牲ナレバコソ労働ハ社會奉仕トナルデアアル、其社會奉仕ガ人ニ無限喜悅ヲ感ジサスル、ソレデ筋肉上ノ有限的苦痛ハ精神上ノ無限的喜悅ニ依ツテ打勝タレ斯克テ労働ハ愉快ニナルノデアルト斯ウ云フ詭辯ヲ爲シテ居リマス、併カシ社會主義ノ夢想派、ユウトビヤニスト「ナゾハ極端ナル労働愉快説ヲ採ツテ居ル、曰ク元來労働ハ愉快ノモノデアアル、今日實際労働ガ苦痛デアアルノハ自由ガナクテ束縛ヲ受ケテ居ルカラデアアル、特ニ長時間束縛サレルカラデアアル、今日ノ労働ハ時間ガ餘リ長過ギテ居ル、之レヲ短クスレバ決シテ苦痛

ニハナラヌ、先ヅ毎日二時間位ヅツナラバ最モ愉快デアルモノダ、短カイト云フコト、變化ノ多イコト、共同デ働クト云フコト此ノ三條件ガ揃ヘバ労働ハ非常ニ樂デ愉快ニナル、唯ダ獨リ々々デ長時間無變化ニ労働スルノデナク、多勢デ共同的ニ歌デモ歌ヒナガラ而シテ毎日二時間バカリ、今日ハ此ノ仕事ヲヤリ、明日ハ又々他ノ仕事ヲスルト云フ様ニスレバ労働ハ愉快デ、皆ガモウ明日ノ仕事ヲ待遠シク思フ位ニナル、之レニ對シテ人或ハ其ンナコトデ生産ノ能率ガアガルカ何ウカ、生産ハ必ズ之レガ爲メニ激減スルデアラウト考ヘルカモ知レナイガ、ソナ事ハナイ、何故カト云フニ、今ノ總人口ノ中デ大部分ハ皆ナ遊ンデ居ルノダ、先ヅ第一ニ婦人ハ殆ンド皆ナ遊ンデ居ル、貴族カ全ク遊ンデ居ル、地主ガ遊ンデ居ル、資本家モ遊ンデ居ル、老人子供婢僕亦皆ナ皆遊ンデアル、斯ウイフ様ニ遊ンデ居ル者ガ澤山アル、ソレガ働ケル者丈デモ總體デ皆二時間ヅツ働ケバ、餘ル位生産ガ出來ル、働ケルモノハ一人モ労働セザル者ナシト云フコトニナレバ二時間働キデ充分ダト云フノデアリマス、サウ云フコト迄言ツテ居ル社會主義派モアルガ、併カシ物理學上カラ労働ハ「エネルギー」ノ消耗デアルコト疑ナク、生理學上カラ見テ勢力ノ消耗ハ疲勞デ

アツテ、疲勞ガ苦痛デアルコト、從ツテ労働ハ人情ノ嫌忌スルモノデアルコトハ疑フ容レヌ、此レハ人間バカリデハナイ、馬ヲ見テモ牛ヲ見テモ荷車ヲ牽カセル、厭ガル、ソレデ後カラ鞭ヲアテ、行ク、此等カラ推シテモ労働苦痛説ノ有力ナコトガ分ル、若シ労働ガ苦痛デナク、人ノ嫌厭セナイモノナラバ、共產政府ノ労働強行モ社會政策ノ八時間制限モ何ノ必要アルカヲ解シ得ナイ、其ノ他現在行ハルル經濟上政治上社會上ノ諸制度ハ殆ンド説明ガ出來ナイコトニナリマス、人間ノ性情ガ變ツテ來レバ格別、左ウデナイ以上ハ労働苦痛説ヲ以テ當レリトセネバナラヌ、ソウシテ見マスト、勞功絶縁ノ平等デハ能率ハ上ラヌト云フ結論ニ到達シマス、勞功相應ノ差別的公正ノ方が能率ヲ促進スル、從ツテ又々勞功絶縁ノ強制平等ニ依ル分配ハ無創造デアアルガ、勞功相應ノ任意公平的分配ハ創造ノ意義ヲ有スト云ヘル、要スルニ經濟主義ハ社會價值創造主義デアツテ、社會價值ハ社會幸福デアリ、社會幸福ハ増産且ツ正配主義デアアル、結局經濟主義ハ勞功相應ノ因果律ニ依ツテ、生産増進分配公正ヲ計リ、以テ社會全體トシテ且ツ各人トシテノ生活上ノ幸福ヲ期成スルノ主義デアルト云フコトニナリマス、是レガ大體經濟主義ノ説明デアリマスガ之

レニ對シテ、尙ホ少シ申シ添ヘテ置キタイノハ、近來カウ云フ事ヲ云フ人ガアル、此ノ社會的勞功相應主義、即チ社會價值主義ハ、因果律ニ依ツテ行クモノデアアル、然ルニ因果應報ノ說ハ宿命說デアアル、必然說デアアル、從ツテ進化主義ニ反スル、世ノ中ノ段々ト思想モ制度モ進化シツツアルカラ進化主義デアラネバナラヌ、然ルニ其レガ唯ダ必然的ノ因果應報ヲ迷信シ自然ノ運命ニ任セルト云フノハイカスト言フ非難デアリマス、併シ一向反對ノ關係デハナイ、因果律ハ自然律ト云フコトデハナイ因アレバ果アリト云フコトハ之レハ條理デアツテ、努力スレバ進化シテ行クト云フコトモ因果律ノ中ニ含ンデ居ルノデアアル、進化主義モ畢竟因果律ノ一ノ適用ニ過ギヌ、次ギニ又タ今日哲學上デ衝動本能主義ヲ説ク人ガアリマス、尙ホ文化主義、人格主義ト云フ說モアリマスガ、ソレト社會的功利主義、社會價值主義、就中因果相應主義トノ關係ヲ申シマス、衝動本能主義ト云フノハ人間ノ本能カラ直覺的ニ出ル衝動ヲ神聖ノモノト考ヘ、之ニ從ツテ各自個性ノ本能ヲ全ウシナケレバナラヌ、之ヲ全ウスルノハ人間ノ幸福デアルト云フノデ、彼ノ表現主義、新浪漫主義、戀愛神聖說ノ如キハ此ノ一派ニ屬スルノデアリマス、之レト社會幸福因果主義トハ

全ク反對デアアル、此レハ心ノ儘ヲ端的ニ表現スル刹那的放漫主義デアリマス、個人情意ノ露骨ナル發動ヲ其儘マ善ト見ル憧憬爛漫主義デアアル、少シモ批判ノナイ無目的ノ主義デアアル、本能ニモ衝動ニモ善イノモアレバ、惡イノモアルノニ、ソレヲ皆善イト見テ否ナ美ト見テ其美ヲ完成サセヤウトスル主義デアアル、惡イモノヲ完成シテ行ツタ日ニハ何ウナルカ、因果主義ハ決シテサウデナイ、斯ウスレバ斯ウナルト云フ因果律ハ畢竟批判ノ準備デアリマス、批判ニ依テ社會價值ガ定マリ善惡ガ決スルノデアアル、ヨク哲學ノ方デハ獨逸語デ「*Sollen*」アル等、在下云フ「*Sollen*」アラネバアラヌ、當爲ト云フ言葉ヲ用ヒル、前者ハ直說法デ、後者ハ命令法デアアル、一ハ解釋デ他ハ規範デアアル、所謂衝動本能ノ說ハ「*Zein*」等、在ノ方デアアル、然ルニ功利主義、最大幸福主義、社會價值主義ハ斯ウナケレバナラヌト云フコトヲ意味シテオル、ゾ「*Sollen*」(當爲)デアアル、ソシテ因果律ハ其ノ「*Zollen*」ノ準備デアアル、此ノ準備ノ上ニ道徳上ノ善惡ガ規範トシテ立ツノデアアル、是レガ本能主義ト因果律トノ間ニ存スル區別デアリマス、其レカラ人格主義、文化主義ト云フコトモヨク唱ヘラレマスガ、先ヅ人格主義ハ人間價值ノ完成ヲ期スルト云フ主義デ、誇リト「愛」トノ渾一ヲ努ムル

ノデアリマス、誇リト云フノハ、天子呼ビ來レドモ船ニ昇ラズト云ツタ意氣デ、自由ノ極致デアル、併カシソノ自由ハ放縱無制限ノ自由デハナイ、愛ノ責任アル自由デアル、愛ハ與フルノ善デ、社會奉仕デアル、此ノ自由ト奉仕トガ人格ノ双面ヲ成スト云フノデアリマス、文化主義ト云フノモ骨子ハ人格主義デアリマスガ、コレハ餘程神秘的ニナツテ居ルノデアリマス、價值ハ人間ノ理想形式デアル、等在デナクテ當爲デアル、眞ハ理智價值デ、善ハ倫理價值、美ハ藝術價值デアル、人間ノ生命價值ハ此眞善美ノ諸價值ヲ全具スル靈デアリ、靈ハ完全、絶對、永遠ノ大價值デアルト云フ主義デアリマス、何レモ結構ナ事デアルニ相違アリマセン、併シナガラ我等カラ見レバ此等ハ皆ナ何レモ餘リニ個性主義、非社會的、非物質的意義ガ勝チ過ギテ居ル様ニ思ハレル、人ノ心靈ヲ美成スル、ソレハ藝術美デアル、藝術ハ趣味デアリ、直觀ノ美デアル、美ト云フコトガ善ト云フコトニナルカ、ドウカ、若クハ善ヨリモ美ノ方が優ツテ居ルカドウカ、自己ノ個性人格ヲ綺麗ニスルト云フコトハ畢竟個性美デアル、此ノ個性美即人格價值ガ果シテ社會善美即チ社會價值ヨリモ優レルヤ否ヤ、彼等ハ自我ニ偏シナイ愛ノ奉仕、否ナ自由ト奉仕トノ渾一ナゾト辨シ、又ハ眞善美全具

ノ靈ナドト唱フルガ、其レハ言語上ノ渾一デハナイカ、此ノ諸素ハ言語上デハ容易ニ渾一サレテ人格ダノ全靈ダノト爲リ得マスガ、實際問題トシテ考ヘテ行ク場合ニハ却々其渾一ガ難シイ、一身ノ上ニ自由ト奉仕トガ兩立シ得ナイ場合ガ生ジテ來ル、此時一身ハ其二者中孰レノ一ヲ取リテ他ヲ棄ツベキカ、論者ハ兩立兩備ト見テ、兩素ヲ對等ニ取扱フモ斯ノ如キハ空言虚語ニ過ギナイ、之ニ反シテ吾人ノ社會價值主義ハ此場合ニ處シ個性ノ自我ヲ犠牲ニ供シテ社會奉仕ノ方ニ軍配ヲ擧ゲ様ト云フノデアリマス、眞善美デモ到底渾一ガ出來ナイ場合ガアル、ソノ點ヲ考ヘルト文化主義若シクハ人格主義ヨリモ社會價值主義ノ方が決定的解決ヲ與ヘテ能ク選擇ト方針ヲ指示スルモノデアル、

第四章 經濟物件——自然財ト人爲財

此レカラ徐々本論ニ入りマス、經濟物件ト云フノハ經濟即チ物質的生活ノ客體
(資料)トナルモノデアリマス、經濟活動ノ目的物デアリマス、此レハ外界ノ有形物デ
ス、外界トハ人間ノ外ニ在ルモノデ有形物トハ明確ノ形アル物質デアリマス、無形
ノモノハ經濟物件トハ申シマセン、コレニ付テハ議論ガ澤山アリマス、特ニ主觀經
濟學派ハ必ズ反對シマス、無形ノモノ例ヘバ權利ダノ、信用ダノト云フ如キモノモ
經濟物件トスルデアラウ、ケレドモ其レデ始終一貫的ニ經濟ノ各部門ヲ説明シテ
行ク學者ハナイ様デアアル、少クトモ經濟物件ノ生産トカ其レノ生産費トカ云フ時
ニ權利ノ生産或ハ信用ノ生産費ト云フコトハ説明ヲ爲シ得ナイ、殊ニ信用ダノ、權利
ダノト云フモノハ、單ニ經濟物件ヲ移動スル條件デアルニカ過ギナイ、唯擬似的又
ハ代表的ノ經濟物件ト云フコトハ出來ルカモ知レナイガ眞ノ經濟物件其自身デ
ハナイ、勿論權利ヤ信用デモ彼ノ有價證券ノ如ク明確ナル形式ヲ有スルモノデア
レバ價值モ生ジ價格モ附セラルルカラ單純ナル無形ノモノト區別シテ、有形化サ

レタ準有形物トスルコトハ出來キマスガ此トテモ代表デアツテ本物デナク個人財ト云フヘキモ決シテ社會財デハナイト云フノガ正當デアル左ウ云フ次第デ經濟物件ハ先ヅ外界的有形物トシテ論ズルノガ適當デアリマス是レガ一般ニハ財ト稱セラルルノデアリマス併シ私ハ別段ニ財ナゾト云フ文字ヲ使ハヌデモ宜イ外界ノ有形物ト云フ丈ケデ澤山ダト信ジマス否ナ外界モ有形モ當然ノコトデスカラ唯ダ物ト云フ丈ケデモ宜イト考ヘマス物ト云フノハ既ニ商法ニモ民法ニモ他ノ學科デモ使ツテ居ル用語デ何ニモ經濟學バカリデ財ナゾト云フ別稱ヲ附スル必要ハナイ一般ノ經濟學者ハ財ト稱シ財ハ價值アル物件ダト定義スルノデアリマス是レハ物ト價值トヲ混同スルモノデアツテ誤ツテ居ル物件ハ常ニ始メカラ價值アルモノデハナイ物ガ先ヅ出來テカラ價值ハ生ジ又ハ變ズルノデアアルソシテ其價值ハ物件ガ變ハラナイデモ屢々變化スルモノデアリマス價值ガアルト思ツタモノデモ澤山ニ存在スルトキハ價值ハ無クナツテ仕舞フダカラ初メヨリ價值アル物件ダナゾト云フコトハ出來ヌ唯ダ單ニ物件ト云フノ外ハナイノデアアルシテ見ルト嚴正ノ意義ニ於テハ財ナル名稱ハ全ク不要デアアル故ニ外界ノ有形

物ト云フ意味ヲ簡單ニシテ物又ハ物件ト云ヘバ良イノデアリマスソノ有形物即チ物ニ價值ガ生ズル場合ト價值ガ生ゼヌ場合ト又タ生ジテモ變動スル場合アリト云フノガ正當ノ觀念デアリマス嚴正ニ申セバ斯ウナルノデアリマスガ財ナル語ハ既ニ古ルク使用サレテ居リマスカラ價值ト區別シテ即チ單ニ外界ノ有形物ト云フ意味デ財ナル語ヲ使用スルノハ餘計ノコトデアアルガ一敢ヘテ差支ハアリマセンソコデ私ハ斯ウ致シマス經濟物件トハ外界ノ有形物ナリ之レヲ又タ財ト稱スト是レデ宜イノデアリマス其ノ有形物即チ財ニハ二種アリマス其第一種ハ自然財デアリマス此自然財ト云フノハ自然ノ性狀自然ノ位置ノ儘デ人類ノ物質的生活上ノ慾望ヲ充タスニ適スル狀態ヲ備ヘテ居ル有形物ヲ云フノデアリマス其ノ例ヲ云ヘバ土地、礦物、樹木、果實、鳥魚類ハ是レデアリマス次ニハ第二種ハ人爲財デアリマス人爲財ト云フノハ注意シテ聞取リテ願ハナケレバナリマセン此レハ人爲バカリデ出來ル物ト考ヘテハイカス自然財ハ自然ノミデ出來テ居ルモノデスガ人爲財ハ人爲ノミデ出來ルモノデアリマス自然ニ人爲ヲ加ヘテ出來ルモノヲ云フノデアリマス自然ニ人爲ヲ加ヘルト云フコトハ生産デアリマス故ニ

人爲財ト云フノハ生産物ト云フコトト同ジデアリマス。生産物ニハ粗製品、半成品、全成品ト云フ區別ガアリマスガ粗製品ト云フノハ多キ自然ト少ナキ人爲ノ結果デアリ、半成品ハ人爲ト自然ガ相半セル産物デアリ、全成品ハ人爲ガ多クテ自然ガ少ナイ財ヲ云フノデアリマス、ソウシテ見マスト凡テ財ト云フモノハ一トシテ人爲ノミノ結果デアルモノハナイ、必ズ自然ノ結果ガ含マレテ居ルモノデアアル、即チ第一ニ自然財ハ全然人爲ニヨラナイ、自然ノミノ財デアリ、土地ノ如キ何人モ其然ルヲ認メナイモノハナイ、否ナ土地ハ自然ノ別稱トシテ經濟學者ニ唱ヘラレテ居ル、社會主義的學派、「まるくす」一派ノ人々デモ土地丈ハ自然物トシテ自然價值ヲ認メテ居ル、次ニ第二ノ人爲財モ粗製、半成、精製ノ別コソアレ、皆人爲ト自然トノ結果デアリ、單ニ人爲ノミノ財デナイト云フ點ハ同一デアリマス、然ルニ此ノ人爲財ニ關シテ社會主義的學派特ニ「まるくす」一派ノ如キハ總テノ商品即チ價值ハ皆ナ悉ク勞働即チ人爲ノミノ結果デアルトシテ居リマス、一般ノ經濟學者中ニハ自然財、人爲財ノ區別モセズ凡ソ財即チ價值ハ皆ナ一ニ勞働ニ依ツテ作出スルモノデ、勞働ノ結果デアルト論ズルモノガ少クナイノデアアル、此等ノ學派ハ常ニ財ト價值ヲ

同一視シテ、能ク左ノ如キ例ヲ引キ出シテ説明シテ居リマス、曰ク山奥ニ寶石ガアツテモ瓦礫ト均シク殆ンド價值ハナイ即チ財デハナイ、其レヲ人ガ勞力ニ依リ持チ來ストキニ於テ始メテ財トナル、即チ價值ガ生ズルノデアアル、故ニ財即チ價值ト云フモノハ皆ナ勞力ヲ以テ初メテ生ズルモノデ即チ勞力ノ結果デアルト云フノデアリマス、此レヲ皆サンガオ聞キニナルト、成程サウダ財又ハ價值ハ皆ナ人間勞働ノ結果ニ相違ナイト合點サルルカモ知ラヌガ、茲ヲ能ク論理學的ニ考ヘテ戴カナケレバナラヌノデアリマス、即チ勞力ト云フ人手ヲ經ナケレバ生ゼヌト云フコトハ人手ノミノ結果デアルト云フノト同ジデハナイト云フコトデアリマス、如何ニモ人手ヲ經ナケレバ價值が出ナイト云フコトハ間違ツテハ居リマセン、ケレドモソレヲ直グニ人手ノミノ結果デアルトスルノガ間違テ居ル、先ヅ自然ノ原物ガアツテ、之ヲ人爲ノ勞力デ運出シタ、是レニツノ原因デアリマス、凡ソ二以上ノ原因デ出來タ結果ノモノハ、其中一ツ無クツテモ出來ナイノハ當然デアアルガ、他ノ一ガアレバ出來ルトハナラナイ、必ズ二ツ以上ナケレバ出來ンノデアアル、其レヲ一ツノミデ出來ルト解スルノハ論理上ノ誤謬デアアル、勞力ヲ經ナケレバ出來ヌト云フガ

勞力ガアツテモ自然ノ原物ガナケレバ財即チ價值ハ出來ンデヤナイカ、山奥ニ寶石ガアツテ其レヲ人手ヲ經テ持來シタラ、價值ガ生ジタ、ソレハ勞力ノ結果ダト云フナラバ、其レナラバ同ジ山ノ奥ニアツタ瓦礫ヲ寶石ト一緒ニ持ツテ來テ見タナラバドウナルカ、寶石ト瓦礫トヲ一緒ニ持ツテ來テ市場ニ出シタ時ニ、其レガ俱ニ同ジ價值ヲ生ズルカ否カト考ヘタラ直グ判カル、必ズ二物ノ價值即チ財ハ違ヒマズ、併シ人手ノ勞費ハ同ジ事デス、同ジ位ノ大イサデ、同ジ位ノ重サノ物デ、同ジ勞力デアツタトスル、ソレデ一方ハ十萬圓一方ハ二錢五厘、何ウシテ斯ウ違フノカ、若シ財即チ價值ガ人ノ投ジタル勞働ノ結果ノミナラバ、同ジ價值ガ此ノ二ノ物ノ上ニ生ジナケレバナラヌ、然ルニ一方ハ十萬圓一方ハ二錢五厘ト云フノハ、是レ即チ一方ニハ大ナル自然ノ結果ガ含マレテアルガ、他方ニハ小ナル自然ノ結果シカナイカラデアアル、モツト實際的ノ例ヲ云ヘバ杉ノ樹、ソレガ自然ニ生長シタトスル、之レハ天產物即チ自然財デスガ、若シ之レガ價值ニ生ズレバ其財即チ價值ハ自然價值、自然ノ結果タル財デアラネバナラヌ、又タ其ノ杉ノ樹ハ人ガ植エテ生長サセタモノダトセンカ、之レハ人爲財ニ相違ナイガ杉ノ苗ト云フモノハ一本三錢位デアアル

而シテ植エル手間ハ、八王子アタリデ聞イテ見ルト、勿論平均デアアルガ、一本約七厘位デアアルトノコトデアアル、左ウスルト杉苗一本ヲ山ニ植エ付ケルノニ三錢七厘掛ル、是レ丈ガ人爲デアアル、其レカラ後ハ何ニモシナイデ十年乃至十五年モ經ツト自然ノ氣候ヤ雨露ノ惠ミデ自然ニ成育シテ行キマス、何ニモ勞力ハナイ、人爲ノ勞費ハ元々三錢七厘シカ投ゼラレテ居ナイノニ、十年十五年經過スルト山元デモ五圓ヤ六圓ニハ賣レル、左ウスルト百何十倍カノ財即チ價值ニナリマスガ、其レガ皆ナ人爲ノ結果ダト云ヘマスカ何ウカ、自然ノ力ガ大部分手傳ツテ居ルコトハ明カデアアル、利子ヲ計算シテモ三錢七厘ノ元金ニ對シテ十年ニ二倍スト見テ七錢位デス、ソレガ山元デ五圓六圓ニ賣レト云フノハ土地ト氣候ト雨露ト云フ自然ハ成育シテクレタ、其レデ其ノ價值アル杉ガ現ハレテ來タノデアツテ、人爲財ガ自然ト人爲ト結合ノ結果(價值又財)デアアルト云フ證據デアアル、要スルニ私ハ財ニ自然財ト人爲財アリ、自然財ハ自然ノミノ財デ、人爲財ハ自然ト人爲トノ合體財デアアルト主張スルノデアアル、其結果ハ價值論ニ至ツテ自然財ノ價值ハ自然價值デアツテ、人爲財ノ價值ハ自然價值及人爲價值ノ合體價值デアアルト斷ズル前提ニナルノデアアル、然ル

ニ社會主義的學派特ニ「まるくす」一派ハ、自然財ノ自然價值ハ兎モ角クモ、普通商品即チ人爲財ハ皆ナ勞働ノミノ結果デ其ノ價值ハ人爲價值デアアル、從ツテ商品ノ全價值ハ勞働者ノミノ獲得スベキモノナルニ、其ノ剩餘價值ヲ資本家が利潤トシテ取得スルノハ是レ勞働結果ノ搾取デアルト主張スルノデアリマス、故ニ此吾人ノ分類法ハ「まるくす」派ノ勞働價值論ニ對スル根本的否定トナリ、又々從ツテ勞資分配問題ノ關鍵トナルベキ重要ノ關係ヲ有スルモノデアリマス、財即價值ノ中ニハ自然價值ガアツテ皆人爲ノ價值ノミデハナイトナルト、まるくす氏等ノ云フ資本家が搾取スルノハ勞働ノ價值デナクテ、自然ノ價值デアアルカモ知レヌ、自然ノ價值デモ資本家ノミニ分配スルノハ正義デナイガ、勞働ノ搾取デナイコト丈ハ明カニナル譯デアアル、此等ハ後段ニ至リ價值論及分配論ニ於テ詳説スルコトニナリマスガ、其根本ハ本章ニアルノデアリマスカラ特ニ諸君ノ留意ヲ乞フノデアアル、

以上ヲ以テ大體經濟物件ノ分類ヲ述べ終リマシタガ、實際ノ適用上尙ホ詳説ヲ要スルモノガアリマス、其レハ勞働ト貨幣トノコトデアリマス、先ツ勞働ハ人爲財中ニ屬ストスルノガ適當デアリマス、勞働ハ勞働者ノ生産スル有形物ト見ラルル

カラデアリマス、貨幣ハ自然財ニモ人爲財ニモ屬サセナイデ、財ノ代表タル代表財トスルノガ適當デアリマス、有價證券モ代表財中ニ入レルノデアリマス、勞働ヲ人爲財トスルノハ甚ダ具合ガ善クナイノデアリマスガ、經濟學デハ左ウ扱ツテ置ク外ハナイ、但シ左ウ申シマス、勞働ハ商品ニアラズト主張スル人々ガ怒ルカモ知レマセンガ、經濟學デハ勞働ヲ商品ト見テ宜イノデアリマス、勞働者ヲ商品ト見ルノデハアリマセン、否チ人間デモ學問ノ分科ニ依ツテハ物ト見テ差支アリマセン一々人格ニ依ツテ取扱ヲ殊ニスル必要ハナイ、醫學ナドハ人間ヲ何ント見テ居ルカ、物件ト見テ居ルデハナイカ、車夫ハ人間ヲ重量ダト見ル、床屋ニ行ケバ頭バカリ見テ居ル、其ノ方面々々デ違フテ宜イノデアリマス、經濟學デハ勞働ヲ勞働者ノ人格ニ依ツテ區別シテ取扱ハナイ、日々勞働者ガ其ノ攝取スル衣食住ノ消耗ニ依ツテ體外ニ産出スル物件ト見ルノデアアル、而シテ此ノ勞働即チ物件ノ效力如何ニ依ツテ之ヲ價值付ケルノデ、人格ニ依ツテ勞銀ヲ定ムルノデハナイ、聖人デモ仙人デモ勞働ノ效力次第定メルノデアリマス、勞働者ハ勞働ノ主體デ、勞働ハ其ノ人體カラ日々ニ出テ行ク力(エネルギー)デアアル、其ノ力ハ衣食住品ノ消費カラ生ズルノ

デ、衣食住品ハ流動資本デア、此ノ流動資本ガ労働トナツテ外界ニ現ハルル、茲ニ於テ勞資ハ結局一如トナリマス、故ニ労働ハ資本ト均シク人爲財ト見ルノヲ適當トシマス、ツマリ労働ハ物件ナノデス、物件ト見ルノハ卑シイト云ヘマスガ、物件ガ何故ニ卑イノデア、ルカ、卑イカ、卑クナイカハ效用ニ基ク價值ノ大小デ定マルノデアリマス、次ギニ貨幣ハ有價證券ハ本當ノ財デハナイ、故ニ代表財トスルノ外ハナイト述べマシタ、一般ノ學者ハ貨幣ヲ財トシテ居リマスガ、貨幣ハ財ニアラズ、貨幣ニ依ツテ得ラルルモノガ財ナリト云フ確言モアリマス、貨幣ハ唯ダ財交換ノ場合ニ於テ交換ノ一方ヲ代表スルニ過ギナイ、從ツテ交換ナケレバ貨幣ナシデアリマス、貨幣ノ作用ハ實能デナクテ、代表能ニ過ギマセン、故ニ貨幣ニハ實能即チ對内效力ガ無く唯ダ代表能即チ對外效力アルノミト云ハルルノデアリマス、之ニ反シテ財即實物ハ人類ノ生活的欲望ニ對シマシテ、或ヒハ食用ニ或ハ原料ニ或ハ道具用ニ、夫々特別ノ實能ヲ有シマス、貨幣ハ斯ル特別ノ直接ノ效力ヲ有シナイ、唯ダ一般ニ他ノ實物ト交換セラレ、之ニ依ツテ間接的ニ生活欲望上ノ役立ヲ爲スノデアリマス、故ニ貨幣ハ各人又ハ各單位ノ經濟カラ觀テ、之ヲ外ニ出シテ他ノ何かト替ヘ

ラレテコソ效力アレ、内ニ在ツテハ何等ノ役立ヲモ爲スモノデナイ、衣食ノ用ヲ爲サズ原料用ニモ道具用ニモナラヌモノデア、是レガ貨幣ノ特色デアツテ彼レガ單ニ代表財ニ過ギナイトサルル所以デアリマス、以上デ經濟物件ノ説明ヲ述べ終ツタノデアリマス

第五章 經濟行爲——技術ト取引

經濟行爲ト云フノハ人類ガ物質生活上ノ欲望ヲ充足スルノニ必要ノ行爲ヲ云フノデアリマシテ、其レニハ直接行爲ト間接行爲トノ二種ガアリマス、其中デ直接行爲ト云フノハ社會ノ各人ガ直接ニ物質的欲望ヲ充足スル行爲デアツテ、財ノ生産及消費ノ如キガ其レデアリマス、生産モ消費モ直接ニ人ガ物ニ對シテスル行爲ダカラ、對物行爲、人對物ノ行爲又ハ技術行爲ナゾト稱シマス、之ニ反シテ間接行爲ト云フノハ各人ガ自ラ財ヲ生産シテ直接ニ消費スルノデハナク、他ノ生産セル財ヲ交換又ハ貸借等ノ取引ニ依ツテ獲得シ、以テ間接ニ自己ノ物質的欲望ヲ充足スル行爲デアリマシテ、交換及分配ノ行爲ガ之ニ該當シマス、故ニ學者ハ之ヲ對人行爲、人對人ノ行爲即チ取引行爲トモ稱シマス、要スルニ直接行爲ハ對物の技術行爲デアツテ、間接行爲ハ對人的取引行爲デアアルノデアリマス、眞ノ共有制ノ社會ニ在リマシテハ此ノ技術的行爲デアアル生産及消費ノミガ經濟行爲デアアルガ、私有制ノ社會ニ在リマシテハ取引行爲ノ交換及分配モ亦タ經濟行爲デアリマス、從來多數

ノ經濟學者ハ經濟ヲ以テ人對人ノ交渉即チ交換取引ノ行爲トノミ狹解シ、交換及分配ハ經濟行爲デアアルガ生産及消費ハ單ナル技術デ經濟行爲デナイト唱ヘテ居リマスガ、是ハ餘リニ個人經濟ニ偏シタ謬見デアツテ、苟クモ社會經濟ノ見地ニ立テ考ヘマズレバ、生産及消費ノ技術行爲コソ、欲望充足ノ直接行爲デアルカラ經濟行爲トシナケレバナラヌ、少クトモ欲望充足ノ間接行爲タル交換及分配ヲ經濟行爲トナシナガラ直接ノ充足行爲ヲ特ニ除外シテ經濟行爲デナイトスル理由ガ何處ニ在ルカ、故ニ私シハ此ノ社會經濟的見地ニ立ツテ、生産消費ノ技術行爲モ、交換分配ノ取引行爲モ直接又ハ間接ニ欲望充足ノ方法デアリ、從ツテ共ニ經濟行爲ト認ムベキモノト信ズル、依ツテ左ニ經濟行爲トシテ生産、交換、分配及消費ノ各行爲ヲ説明スルデアリマス、

第一ニ生産ト云フノハ物ノ效力及分量ヲ増進スル技術的行爲デアリマス、之ヲ詳言スレバ價值發增ノ意思デ物ノ性質、形狀、位地及數量ニ直接ノ變化ヲ與フル對物的行爲デアルト云フデアリマス、即チ採取培養、變形加工、運輸移轉ノ行爲ハ皆ナ生産行爲デアリマス、採取培養ハ性質ノ生産行爲デ、變形加工ハ形狀ノ生産行爲

デ、運輸移轉ハ位地ノ生産行爲ニ該當スルデアリマス、此等ノ生産行爲ニハ自用生産ト他用生産トノ二種ガアル、自用生産トハ自家デ消費又ハ使用スルガ爲メノ生産デ、自用品ノ生産ヲ云ヒ、他用生産トハ他ニ消費又ハ使用サセル爲メノ生産デ販賣品又ハ賃貸物ノ生産デアリマス、自用生産ニ在ツテハ品性が良ク又ハ分量多キ本質的價值ヲ目的トスルガ、他用生産ニ在ツテハ效力又ハ分量ノ如何ニ拘ラズ唯ダ販賣又ハ賃貸ノ取引的價格ヲ目的トスルコトニナリマス、謂ハバ前者ハ使用ノ效力ヲ主トシ、後者ハ取引上ノ利潤ヲ主トスル傾向ニ分カレマス、又タ生産ハ概シテ其ノ目的トスル通り價值ノ發增ヲ結果スルノモノデアリ、從ツテ創造行爲デアルト稱シ得ルデアアルガ、實際ノ結果カラ見レバ常ニ必ズシモ價值ノ創造ヲ持チ來サヌコトガアル、此ノ點ハ特ニ注意ヲ要スルコトデアアル、蓋シ如何ナル生産デモ必ズ一定ノ消費ヲ必要トスル、ソコデ通例ハ消費シタル價值ヨリカ生産シタル價值ガ大ナルモノデアアル、是レ増産又ハ増價值ノ生産デアツテ又タ實ニ創造的生產、社會的生產デアリマス、然ルニ若シ此場合ニ於テ消費シタル價值ト生産シタル價值トガ略ボ等大デ、消費シタル丈ケ生産シタル丈ケ消費スルト云フトキハ決シ

テ増産又ハ増價值、創造生産トハ云ヘヌ、無創造ノ生産即チ社會的無生産ト稱セネ
 バナラヌ、是レハマダ良イガ更ラニ一步ヲ進メマシテ、消費シタ價值ヨリカ生産シ
 タル價值ガ小ナル場合ガアル、斯クノ如キハ減産又ハ減價值ノ逆生産デ、社會的損
 失ノ生産ト云ハネバナラヌ、奢侈品、不衛生品、不道德品ノ生産ハ減産ヨリカ寧ロ惡
 生産デアアル、其レ丈必需品、衛生品及道德品ノ生産ヲ抑制シ此等ノモノノ價格ヲ騰
 貴サセ益々社會ノ幸福生活ヲ妨害スルカラ、惡生産ト云フノ外ハナイノデアリマ
 ス、一樣ニ生産ト云フテモ能ク之ヲ至細ニ分析スルト以上ノ如ク種々ニ分ルルノ
 デアルカラ、却々注意ヲ要スルノデアリマス、

第二ニ交換ト云フノハ物ノ移轉デハナクテ、物ニ關スル權利ノ轉換ヲ云フノデ
 アル、物ノ事實的移轉ハ地位ノ生産トシテ既ニ生産中ニ屬セシメテアルカラ、茲ノ
 交換ニハ屬セナイノデアアル、移轉ハ對物的技術行爲デ、交換ハ對人的取引行爲ダカ
 ラ別種ノモノトセネバナラヌ、移轉ハ共有制ノ社會ニモ私有制ノ社會ニモ存在シ
 且ツ必要デアアルガ、交換ハ私有制ノ社會ノミニ存在シ且ツ必要トサルル、私有制ノ
 社會デハ物ニ關スル權利ガ各人差別的ニ所有サレテアルカラ此ノ權利ヲ轉換ス

ル交換ガナケレバ物資ノ有無相通ヲ爲スコトガ出來ヌ、要スルニ交換ハ私有制ニ
 必要デアツテ又タ同時ニ私有制アルガ爲メ存在スルモノデアリマス、私有制ガナ
 ケレバ權利ノ差別有モナク、權ノ差別有ガナケレバ權利轉換タル交換ノ必要モナ
 イノデアリマス、眞ノ共有制ニハ交換ノアルベキ筈ガナイ、共產露國ニハ澤山ノ交
 換ガ行ハレテ居ルカラ此レハ眞ノ共有制ト稱シ得ナイ、疑モナク露國ハマダ私有
 制ノ存在スル社會デアルト云ハネバナリマセン、

交換ノ目的ハ元來實物ト實物トノ權利轉換ニ在ツテ、昔時專ラ行ハレタモノデ
 アルガ、之ヲ物々交換又ハ實物經濟ノ時代ト云フノデアリマス、然ルニ此ノ物々直
 接ノ交換ハ不便極マルノデ、貨幣ノ中媒ニ依リ間接ニ交換ヲ了スルコトトナツタ
 是レガ貨幣經濟ノ時代デアアル、貨幣ノ中媒ニ由ル交換ハ賣買デアツテ、半交換的取
 引ト稱スベキモノデアアル、貨幣ニ由ル賣買トナツテカラ經濟行爲ハ益々營利行爲
 トナリ、生産ハ愈々他用生産トナツテ來タ、元來交換ハ概シテ兩者ノ利益ニ於テ行
 ハルルモノデアアルガ、時々然ラザル場合ガ生ズル、是レ主トシテ交換當事者ノ知識
 ヤ勢力ガ相異ルニ依ルモノデ、其間ニ搾取ガ行ハレ眞ノ本質價值ニ一致シナイ價

格ガ成立スルカラデアアル、特ニ貨幣ノ中媒ニ由リ交換ガ賣買トナルニ至ツタ爲メニ一層其弊ノ甚シキヲ見ルノデアアル、貨幣ノ多寡ノミヲ目的トシテ賣買スルコトニナルカラデアアル、貨幣經濟ガ更ニ進歩スルトキハ信用經濟ノ時代トナル、信用經濟ト云フノハ貨幣ヲ直接ニ提供シナイデ、信用ニ依リ取引ヲ了スルノヲ云フノデアツテ、交換ハ賣買デナク、貸借トナルノデアアル、左ウナルト交換ハ多量ニ行ハレ、生産モ増進スルケレドモ、投機ヲ獎勵スルコトトナツテ弊害モ一層甚シキヲ來ス恐レガアル

第三ニ分配ト云フノハ價值ノ分配デアアル、生産結果ノ分割ト云フテモ宜イ、財ガ生産サレマシテモ、其產物ハ其儘ニ之ヲ生産ノ參加者ニ分配スルコトハ出來ヌ、ソコデ便宜ノ爲メ產物ノ價值ヲ價格ニ見稱リマス、茲ニ產物ト價值トハ分離シテ、產物ハ其儘マ前項ノ交換行爲デ他ニ賣却サレ、社會ニ流通スルガ、殘コサレタ價值ハ生産參加者ニ分配サレ、彼等ヲシテ其分配サレタ價值ヲ以テ各自必要ノ財ヲ社會ノ隨所ニ就イテ購買サセルコトニナル、故ニ個人的ニ云ヘバ價值ノ分配デアアルガ社會的ニ云ヘバ猶ハリ生産物ノ分配ニナリマス、

價值ヲ生産參加者ニ分配スルト申シテモ全價值ヲ彼等ニ分配スルノデアナイ全價值ノ中カラ先ヅ少クモ其生産ニ要シタル資本價值ヲ控除シ、ソシテ後ノ生産ヲ繼續スルコトガ出來ル様ニシ其餘ノ増價值(殘價值)丈ヲ分配スルノデアリマス、茲ニ謂フ生産參加者ト云フノハ地主、資本主、企業主及勞働者ヲ云フノデアリマス、此ノ分配ハ勢力ノ懸隔アル組織ニ於テハ概シテ物ノ所有者バカリニ偏重シ、物ノ非所有者ニハ極微又ハ皆無ノ分配ヲ見ルノ欠陥ガアツテ、甚ダ不公平ヲ極メテ居ルカラ之レヲ公正ニシナケレバ生産ノ發達ヲモ妨害スル恐ガアル、此等ノ詳論ハ別ニ説ク所ニ譲リマス、

第四ニ消費ト云フノハ價值ノ減却テアツテ物質的欲望ノ充足其者ヲ意味スル、價值ノ減却ニハ二種アリマス、一ハ物自體ノ消耗デアツテ、物ノ存在ガ減スルカラ價值モナクナルノハ當然デアアル、學者ハ之ヲ有形ノ消費ト云フテ居ル、二ハ欲望ノ廢棄即チ廢用デアアル、價值ハ物ト心トノ相關關係デ成立スルモノデアアルカラ、縱令ヘ物自體ハ存在シテモ之ニ對スル欲望ガ廢棄サレテ、廢物トナレバ價值モ亦タ減却セザルヲ得ナイ、學者ハ之ヲ無形ノ消費ト云フテ居ル、流行ノ衰退シタ物件又ハ

期限後ノ入場券ノ如キハ其適例デアリマス、

廣義ノ消費ニハ生産的消費ト不生産的消費トガ含まレマス、併カシ生産的消費ハ生産ノ爲メノ消費デアツテ、其レハ資本ダ、從ツテ其消費ハ生産上ノ手續デアツテ、寧ロ生産ト云フ語中ニ含ムモノダトスルガ適當デアル、ソウスルト狹義ノ消費ハ謂ユル不生産的消費バカリデアアルガ其中ニハ生活必要上ノ消費ト奢侈的消費不道徳的消費等ガ含まレテ居リマス、生活必要上ノ消費ハ素ヨリ必要デアアルガ、他ノ消費ハ節省スルノ餘地ガアル、此節省如何ニヨリテ貯蓄ノ多少ガ定マツテ來ル、之レガ貯蓄サルレバ其丈ケ生産的ノ資本ヲ増加シマスカラ更ラニ生産及生活上ノ必需品ヲ多量ニ増産シ此等ノ價格ヲ低安ニスルコトガ出來ル道理デアル、

第六章 産業及三要素

第一ニ産業ニ付イテ述ベマス、産業ト申シマスト生産ノ業ト云フヨリハ少シク廣イ意味ヲ有チマシテ生産又ハ交換ノ業ヲ總稱スルコトニナリマス、實業ナゾト云フ字ト同ジデアリマス、交換ヲ業トスルト云フハ自ラ生産モセズ消費モセヌ物ヲ取引シテ収益ヲ目的ニ交換スル業デアルカラ、一名又タ之ヲ収益業若クハ營利業ト云ヒマス、要スルニ産業又ハ實業ハ生産業ト此ノ収益業トヲ含ミマス、生産業ハ個人經濟ニモ社會經濟ニモ價值ノ發増ヲ持來ス創造行爲ノ業デアツテ、農業工業、交通業ノ如キ之ニ屬シマスガ、収益業ハ個人經濟ニノミ収益ヲ持來スバカリデア、大體社會經濟ニハ増價值ヲ與ヘナイ無創造ノ業トサレテアル、商業、金融業ノ如キ之ニ屬シマス、併カシ収益業モ生産業ノ遂行ニ必要ダ、大ニ其發達ヲ補助スルモノデアアルカラ社會的ニモ生産補助業ト見ネバナリマセン、ソコデ共ニ之ヲ産業又ハ實業ト稱スルノデアリマス、以下此等ノ各業ニ關シテ細説シマス、

先ヅ農業、一是ハ廣イ意味デアリマシテ、穀物、蔬菜、桑茶等ヲ作ル耕作農業ノ外、林

業、漁業、牧畜、鑛業ノ如キ原始産業全體ヲ含ムノデアリマス、農業印チ此等ノ原始産業ハ自然ト努力トヲ多ク使ツテ資本ヲ使フコトハ極メテ鮮ナイ、然ルニ自然ハ限リガアリマス、努力ノ方ハ人口ノ増加ト共ニ増シテ行クノデアリマスガ、如何ニセシ、農業上最モ依頼セネバナラナイ自然ノ土地ガ面積ニ限リノアル上ニ、使用スレバ、スル丈、其地力ガ減耗シテ行クノデアリマス、從ツテ農業ハ段々生産費ノ割合ニ收益漸減シテ行ク傾向ヲ有ツテ居リマス、農産物ハ高クナリマスガ、高クナツタ結果ハ地主コソ地代ノ騰貴デ利益ガ多クナリマスモ、實際ニ生産ヲスル農業者ハ生産費ノ増加甚シキ爲メニ其資本及労働ニ對スル報酬即チ收益ガ漸減スル次第デア、ル、故ニ農業ハ收益漸減法ニ支配サレルト云フノデアリマス、勿論自作農ハ地主兼農業家デア、ルカラ地主トシテノ利益ヲ受クル計算デハアルガ、産額全體ノ生産費騰貴ニ基ク不利益ヲ被フムルノデ、程度ガ少シ小作農トハ違ヒマスモノノ、矢張り收益漸減法ノ支配ヲ受ケネバナリマセン、

次キニ工業。―是レモ廣義デアリマシテ製造業、工事業、交通業等ヲ含ミマス、此等ノ工業ハ其使用スル所ノモノガ主トシテ多額ノ資本ト多量努力デアツテ、自然ハ

極メテ僅カデア、ル、即チ大體ニ資本ト努力トガ要素デアリマス、然ルニ資本ト努力トハ世ノ進歩ト共ニ益々増加シテ行クノデア、ル、先ヅ努力ハ人口ノ増加ニ比例シテ増加スル、何處ノ國デモ大抵人口ノ中デ十六歳カラ六十歳位ノ者即チ労働ニ適スルモノガ約半數ヲ占ムル例ヘバ日本ノ如キハ總人口ノ四割八歩ヲ占メテ居ルト云フノデアリマスカラ、總人口ガ増加スレバ其レニ比例シテ労働能力者數モ増加スル譯デア、ル、日本ノ總人口ハ年々百分ノ一、三乃至四宛増シテ行ク、六七十年ニシテ倍ニナル傾向ヲ持ツテ居ル、日本ハ割合ニ多イノデアリマス、佛蘭西ハ最モ増加率ガ少ナイ、最近ニ於テハ死亡率ガ多ク、却ツテ減ツテ行クトサヘ言ハレテ居ル、佛國ハ例外デアリマスガ、他ノ國ハ大抵百分ノ一或ハ二、二位デア、ル、然ウスルト七八十年ニハ倍ニナル、從ツテ努力モ七八十年後ニハ倍數ニナル譯デアリマス、然シ努力ヨリモ資本ノ増加ハ更ラニ著シイ、是ハ殆ンド無限デア、ル、資本ハ十年位ニシテ倍位ニナル、是ハ國ニ依ツテ著シク違フカラ一概ニ率ヲ見出シ得ナイガ、資本ノ増加ガ非常ニ速イコトハ疑アリマセン、斯ノ如ク資本ハ無限ノ増加、努力モ先ヅ一定ノ率ヲ以テ増シテ行ク、世ガ進ムニ從ツテ資本ノ利息ハ下ガリ、努力ノ賃銀(實質的

ノモ下ルベキ傾向ヲ以テ居リマス、然ウ云フ傾向デアリマスカラ、製造業ハ品物ヲ造リ、交通業ハ其ノ製品ヲ運搬スルニ何レモ生産費ガ益々下ガツテ行クノデアリマス、生産費ガ下ガリマスカラ其所デ工業ノ利益ハ増加シマス、澤山ノ資本、澤山ノ勞力ヲ使ツテ而シテ澤山ノ物ヲ拵ヘテ、廉價多賣デ一個當タリノ收益率ハ薄クナツテ行クケレドモ、多量生産、多量販賣ガ出來ル爲ニ收益高ハ漸増スル傾向ニ在リマス、故ニ工業ハ收益漸増法ニ依ツテ支配サレルト云フノデアリマス、先ヅ是デ生産業ノコトハ大體述ベタ譯デアリマス、

次ハ商業—是レハ生産業デナク、收益業デアリマス、收益業ト云フノハ自ラ生産ハシナイ、自ラ生産シナイデ人ノ生産シタ物ヲ買フナリ、借リルナリシテ、夫レヲ他ニ賣ルナリ貸スナリスル、而シテ取引上ノ利益ヲ得ルノデアリマス、商賈、中買業、金融業ノ如キガ含まレマスコトハ既ニ申シタ通りデアリマス、此等ノ商業ハ何レモ皆大部分ハ資本ガ要素デアリマス、普通商業モ放資業デアツテ、資本ヲ運用スル企業ニ外ナランノデアアル、勿論多少ノ勞力モ使用シマスシ店舖ノ敷地ニハ自然ノ地面モ幾クラカ使ヒマスガ、最モ多ク要スルノハ仕入用ニ用キル資本デアリマス、商

業ハ店ニ色々ナモノヲ列ベテ居ルガ、是ハ一萬圓ナラ一萬圓ノ金ヲ持ツタ者ガ、夫レヲ郵便局ナリ銀行ナリニ預ケルノハ詰ラヌ、夫レヨリカ—自分ハ多少米ノ事ナリ材木ノ事ヲ知ツテ居リ、經驗モアルカラト云フノデ—米ヲ仕入レ又ハ材木ヲ仕入レ、而シテ時ヲ待チ高ク賣ツテ一萬二千圓ニ賣上ダタトスル、其二千圓ハ一萬圓ノ資本ニ對スル利子ト見テ二割ニ當ルカラ此方ガ宜イ、ト然ウ云フ様ナ考案デ商業ハ營マレルノデアリマス、ソレデ自分ノ要セザル物ヲ買ヒ若クハ借リ、自ラ生産シナイ物ヲ賣リ若クハ貸スノデアリマス、貸借ノ方ハ金融業デ銀行ノ如キガ夫レデアアル、自ラ貯蓄スルノデナイ、人ノ貯蓄ヲ預金トシテ借リ受ケ、五分ノ利息ナリ六分ノ利息ナリヲ拂ツテ其レヲ自ラ使用シナイデ他人ニ貸シ其人カラ八分トカー割トカノ利息ヲ取ル、其利鞘ヲ收益トシテ生活スル、其生活ヲスル爲メニ店舖、用具其他ノ資本ヲ用意スルノデアアル、故ニ是レ亦所有資本ノ利用又ハ利殖方法ニ外ナラナイ、然ウ云フ様ニ既成産物ヤ貯蓄資金ヲ賣買貸借スルノガ商業デアツテ、夫レガ爲メニ物財ハ直接ニ生産サレナイ、即チ皆ナ生産業デハナイ、出來タ物ノ權利ノ移轉ニ過ギナイ、勿論之レアルガ爲メ延イテ物ノ實際的移轉ヲ惹起シマセウガ、兎

ニ角ク直接ニ増産スルモノデナイノデアアル併シ増産シナイカラト云ツテ無要ナ
モノト云フ事ニハナラヌ、社會主義的學者ハ商業ヲ非常ニ惡シク云ヒマシテ、無要
ノ害惡ト見做シ廢止ヲ提唱シテ居リマスガ、是ハ必要且ツ利益ノ點ヲ計算セズニ、
唯ダ單ニ弊害ノ點ノミヲ見ルカラデアアル、決シテ商業ハ不要ナモノデハナク、却々
社會經濟ニ利益ヲ與ヘテ居ルモノデアリマス、商業ガナケレバ農業家ナリ工業家
又ハ消費者ナリガ自ラ個々別々ニ其ノ仕事ヲヤラナケレバナラヌ、夫レハ非常ニ
不便デ且ツ不經濟デアリマス、夫レヨリ中間適當ノ位地デ、少數ノ者ガ纏メテ賣
買貸借ノ中媒ヲナスナラバ生産者モ消費者モ其丈ケ費用ヲ減シ利益スル譯デア
リマス、商業ハ生産者ノ要スル所ノ肥料ナリ原料ナリヲ、何所カラカ買集メテ來テ、
其ノ原料ナリ肥料ナリヲ生産家ニ供給シ、又々生産家ガ作り上タ産物モ、生産家、自
身ガ一々方々ヲ持ツテ廻ル不便ヲサセナイデ、一纏ニシテ多數ノ消費者又ハ使用
者ノ手ニ渡シマス、殊ニ生産家ノ中ニハ小サイ者ガ多イ、小サイ者ハ早ク金ニシナ
ケレバナラヌ、然ウ云フ時ニ商業ガアレバ早ク金ニスルコトガ出來マス、早ク金ニ
ナリマスレバ此ノ金デ直グニ再ビ原料、材料、用具ヲ買ヒ勞力モ雇ヒ續ケ、直グ自分

ノ業ヲ續ケテ行クコトガ出來マス、勿論小生産業者モ販賣組合ヲ設ケラレマスガ
大抵資力が貧弱デアリマスカラ、充分ニ前拂ハ出來ズ、又々直接ニ消費者ニ賣渡マ
デ持ツテハ居レズ、更ラニ商業ノ手ヲ經ナケレバナリマセン、又々之ヲ消費者ノ側
カラ考ヘマシテモ、消費者ガ直接ニ生産地ニ往イテ必要ノモノヲ買求ムルト云フ
コトハ却テ費用モ多ク且ツ時間ガ許ルナイコトハ言フマデモアリマセン、ソコデ
消費組合ヲ設ケテ消費者ガ共同シテ、生産地カラ直接ニ買入レ、組合員ニ實費デ分
配スル方法ガ附イテ居リ此レハ中々大規模ニ行ハレモスルシ、又々極メテ有效デ
アリマスガ此レニハ取扱フ物品ニ一定ノ範圍ガアリマシテ、何物デモト云フ譯ケ
ニハイカヌ、一定範圍内ノ物品デモ餘程金融ヤ交通ノ設備ガ完具シテナイト、到底
圓滑、敏速ニイカヌノデ却テ非常ノ不便ヲ消費者ニ與ヘマス、勿論ソレデモ商人ノ
暴利ヲ牽制スル作用ハ必ズ爲シマスカラ決シテ不要デハアリマセンガ、之レアル
ガ爲メニ一般商業ヲ捨テテモ宜イト云フコトニハナラヌ、歐洲諸國ニハ隨分有力
デ大規模ノ消費組合ハアルガ、商業モ亦依然トシテ般賑ヲ續ケ居ルノヲ見テモ明
瞭デアリマス、特ニ我國ノ消費組合ノ如キハ真正ノ使命ヲ爲シテ居ナイ、卸賣、大商

業カラ仕入レテ來ル小賣組合ニ過ギナイ境遇デアリトス、是レ商業ガ社會上カラ見テモ必要有益ナル所以デアリマス、併カシ其必要有益ト云フノハ商業ガ生産者ト消費者トノ中間ニ在ツテ、兩者ノ費用及不便ヲ節省セル點ニアルノデ、若シモ消費者ガ直接ニ生産地ニ往イテ産物ヲ買ヘ來ル場合ノ原價及ヒ費用ノ合計ヨリカ商人ノ賣ルノガ高價ニ付ク様デアラバ、殆ント其存在ノ理由ナキモノデアアルコトヲ忘レテハナラス、社會主義的學派ノ云フ如ク個人業トシテハ禁止シテモ宜イト云フコトニナリマス、然ルニ元來商業ハ其個人ニ取リマシテ、既述ノ如ク一種ノ放資方法ニ外ナラヌノデ、收益不定ノ投機性ヲ有シテ居リマスカラ、何ウシテモ個人的營利主義ニ支配サレ價格ヲ操縦シテ暴利ヲ擧ゲントスル傾向ガ類々ニ現ハルルノデアリマス、

商業ニハ種々ノ分類ガアリマスガ、重要ノモノハ問屋商業ト小賣商業トノ別デアリマス、問屋商業ハ毎時ニ巨額ノ賣買ヲ取引スル大商業デアツテ、小賣商業ハ毎時ニ小額宛ヲ取引スル小商業デアリマス、小賣商業ハ概シテ問屋商業ヨリ仕入レテ來ルノデアリマスガ、其ノ價格ハ著シク高クナルモノデアリマス、良ク小賣商ノ

價格ガ割合ニ高クテ暴利デアルト云ハレマスガ、一定ノ範圍マデハ高クナルベキ理由ガアルノダカラ、多少斟酌シテヤラネバ酷ニ失シテ小賣杜絶ノ恐レガアル、ドウシテモ問屋ノ巨額取引ハ巨額ヲ一度ニ賣買スルカラ多量デモアリ資金ノ回收モ早イノデ一個當リノ價格ハ安く出來マスガ、小賣商ハ問屋カラ巨額ヲ仕入レテ來テ、小額宛ヲ消費者ニ賣捌クノデアラカラ、資金ノ回收ハ遅々トシ、未回收ノ資金即チ毎日賣殘ツテ行ク大部分ニ相當スル資金ハ高キ利子ヲ負擔セネバナラス、其中ニ仕入品ハ汚損シタリ、流行ガ過ギタリ、腐敗シタリ、變色シタリ、破損シタリ、モノガ出來ルシ又賣レナクナルモノモ少クナイカラ、賣行ク物品ニ其丈ノ負擔ヲ加ヘテ賣ラナケレバナリマセン、其他ニ課程等種々ノ原因モアリマスガ、先ツ資金回收ノ遲速金融ノ事情ガ最モ關係スルモノデアリマス、近時物價調節等ノ關係カラ暴利取締令ナルモノガ施行サレテ居リマスガ、暴利ト云フコトハ容易ニ斷定出來ナイコトヲ考慮センケレバナラス、之ヲ以テ脅威スルノハ宜イガ實行ハ容易ニスベキモノデハナイ、其レヨリカ物價調節トシテナラバ、生産者ニハ販賣組合ヲ、消費者ニハ消費組合ヲ設置サセ、特ニ消費組合及公設市場ノ普及ガ有效デアリマ

ス、組合ヤ公設市場デ廉賣シテ競争スレバ小賣商ノ暴利ヲ牽制スルコトガ出來ネ
 バナラヌ、其レガ出來ヌ位ナラ小賣商ハ暴利デナイノデアルト云ハネバナラヌ、其
 ハ兎ニ角クモ、更ラニ重要ナルハ小賣商業ニ對シテ低利ノ資金ヲ得サセ、即金デ間
 屋カラ仕入レルコトガ出來ル様ニスルコトデアリマス、此レガ爲メニハ商工的信
 用組合ノ普及ヲ要シマス、又タ良ク世人ハ小賣商ノ高價ヲ調節スル方法トシテ消
 費者ガ自ラ商店ヤ公設市場等ニ往ツテ買フノガ宜イト云ヘマスガ、一概ニ贊成ス
 ルコトハ出來ナイ、成程商店ノ方ヨリ消費者ノ戸々ニ品物ヲ持チ行ク爲メニハ番
 頭トカ小僧トカ荷車トカヲ要シ其給料ヤ費用丈ケ價格ガ高クナル譯デスガ、多數
 ノ消費者ノ方カラ買ニ往ツテ銘々品物ヲ持チ歸ル場合ノ消費者負擔ヲ考慮スル
 ナラバ不經濟極マル非文明ノ方法デハアルマイカ、元來多數者ノ方カラ少數者ニ
 往クノハ個人觀デモ社會觀デモ不利益、不合理ノコトデアル、如何ナル商品ニ付テ
 申シマシテモ賣人ヨリ買人ノ數ハ必ズ多イ、即チ商人ヨリモ消費者ノ數ノ多イノ
 ハ何物デモサウデアリマス、數ノ多イ方カラ出掛テ行ツテ物ヲ買ウト云フノハ文
 明ノ逆轉ト云ハネバナラヌ、昔シ鎮守ノ森ヤ、オ寺ノ庭デ賣ツタ時代ノ縁日商業ノ

様ナモノナラバ、商人ガ其日丈ケ巡回出張シテ居ル所へ、消費者即チ街ノ者ヤ田舎
 ノ者ガ集マリ來ツテ買ヒ溜ヲシテ往イタコトモアルガ、今日ノ商業ハソナ事デ
 ハナラヌ、消費者ノ方カラ多衆ガ買ヒニ出掛ケルト云フコトハ成程幾ラカ價格ヲ
 安ク買ヘ得ルデアロウガ、消費者ハ其ノ爲メニ二時間モ三時間モ時間ヲ空費スル、
 多數ノ消費者ガ他ノ仕事ヲ止メテ時間ヲ空費スル損失ヲ考ヘナケレバナラヌ、ソ
 レヲ考ヘタナラバ、番頭ノ一人ヤ小僧ノ數人位ヲ商家ノ方デ使ツテ貰ツタ方ガ、其
 丈ケ費用ヲ價格ノ上ニカケラレテモ、社會ノ全體カラ見テ非常ニ安ク行ク、直接ニ
 買品ノ價格ニハ現ハレナイガ、一般ノ消費者ガ空費スル時間ノ損失價格ハ大變ナ
 モノデアリマス、結局消費者ノ方カラ買ニ行クノハ文明ノ履キ違イデアル、商店ノ
 方カラ出掛ケテ來サセルノガ本當ノ經濟的デアルト思ヒマス、郵便ノ配達ノ場合
 ヲ考ヘテ御覽ナサイ、アレヲ各自ガ取リニ行クトナルト大變デアル、成ル程郵便局
 ハ費用ガ掛カラナイデ郵便料ヲ安クシテモ良イダロウガ、各自ガ時間ヲ空費スル
 所ハ何ンデ償ヒマスカ、要スルニ經濟上デハ少數者ノ方カラ多數者ノ方ヘ廻ツテ
 行カナケレバナラヌ、公衆ノ方カラ出掛ケテ行クトハドシナ事デモ大體不利デ

アリマス税金ナゾモ稅務署カラ各戸ニ取リニ來ルノガ本當デアリマス、以上ヲ以テ商業ニ關スル大要ヲ終リ同時ニ産業ノ全種類ヲ述ベタ譯デアリマス

以上産業即チ生産業及收益業ノ外ニ國民ノ生活方法(即チ職業)ハ他ニモアリマス、其レハ第一、ニ、産業ヲ保護シ又ハ補助スル職業デアアル、此レヲ補助職業ト稱シマス、保護ト云フノハ政府及地方團體等ノ機關ニ於テ産業ヲ保護スル爲メニ働イテ居ル所ノ官吏、軍人、裁判官等ノ仕事ヲ云ヒ補助ト云フノハ民間ノ各種機關ニ於テ産業ヲ裨補スル所ノ教員、辯護士、醫士、政客、藝術家等ガ行フ仕事デアリマス、何レモ皆ナ智能的勞働者ト云フヘキ者ノノ職業デアリマス、此ハ産業ニ對シ筋肉勞働ヤ資本ノ如ク直接ノ效力ハナイガ、間接ナガラモ其産業ヲ裨補スル效力ハ廣汎且ツ永遠デアツテ、寧ロ其社會的價值ハ偉大デアリマス、次ニ、尙ホ國民ノ生活方法トシテハ此等補助職業ノ外ニ娛樂業ト稱スベキモノガアル、此職業ハ産業者及補助業等一般ニ對シ慰安又ハ娛樂ヲ提供シテ生活スルモノデアツテ、或ル範圍マデハ社會的ニ必要デアリマスガ、效害相半バスルモノト云ハネバナラス、唯以上此等ノ者モ生活スル以上ハ、産業ガ直接ニ生産又ハ收益スル國民的總價值ノ中カラ分配ヲ

受ケネバナラスガ、其分配ニハ自ラ異レル法則ガアリマス、其中、産業ノ參加者ハ生産ノ結果ニ最モ近イカラ第一分配ヲ受ケ、而カモ分配ノ割合モ地代、利子、勞銀、利潤ト云フ如ク夫々適確ノ標準アル報酬ノ分前デアアルガ、補助業ヘノ分配ハ此等第一分配ノ再分配デアツテ、第二分配トモ稱セララル、其分配ノ割合ハ彼等ノ仕事ガ各個ノ産業ニ專屬シナイカラ、第一分配ノ如ク明確ノ標準ヲ得ガタイガ第一分配ニ於テ智能勞働者ガ受クル給料ノ等級ニ比準シテ略ホ權衡ヲ得ラルベキ程度ノ標準ハアル筈デアリマス之ニ反シテ第三ノ娛樂業者ハ第一第二兩分配ノ再分配デ第三分配ト稱スベキモノデアリマス、此等ハ各産業ノ價值作成ニ最モ遠隔シ且ツ必要程度ガ極メテ不定デアアル爲メニ、分配ノ割合ナゾハ全ク不明確且ツ不規則デアリマス、國民生活ノ全般カラ見レバ斯カル法則ノ區別ガアルモノデアアルカラ右ノ如キ職業ノ種別ハ必要デアリマスガ然シ經濟デハ主トシテ産業ニ關係スル所謂生産業ト收益業ト此ノ二ツヲ眼目トシテ最モ多ク攻究スルノデアリマス

第二ノ産業要素ト云フノハ産業即チ農工商業ヲ通ジテ其成立及發達ノ根本

原素トナルベキ經濟物件ヲ云フノデアツテ、既ニ前段ニ於テ其名稱ヲ現ハシテ置キマシタガ、性質及效力ノ全部ヲ盡クサナカツタカラ、茲ニ其點ヲ詳説スルコトニ致シマス、先ヅ産業ノ第一要素ト云フベキハ何ウシテモ自然ト人力トデアリマス、自然ト言ヘバ土地ハ無論デアリマスガ土地ノ外デモ自然ノ鑛物樹木果實魚類等ノ原物ナラ之ヲモ含ム譯デアリマス、人力トハ智能及筋肉ニ依ル一切ノ人間勞力ヲ云フノデアリマス、自然ハ土地ニ依ツテ代表セラルルモノト見テ經濟學デハ土地ヲ自然(自然財)ト稱シテ居リマス、ソシテ土地ト勞力トヲ生産ノ第一要素ト稱シマス、實ハ生産業バカリデナイ收益業ノ要素デモアリマス、斯クテ其ノ自然ニ人力ヲ加ヘテ出來ル物ガ產物デアツテ、是ヲ生産物ト稱シマス、一名之ヲ人爲財ト稱スルコトモ既ニオ話シタ通りデアリマス、其ノ人爲財ガ二ツニ分カレ、消費財ト資本財トナリマス、消費財ト云フノハ人類ノ欲望目的ヲ直接ニ充足スル終局的目的デアリ、資本財ト云フノハ生産又ハ收益ノ用ニ使用セラルル中間的手段物デアツテ、夫レニ依ツテ生産シ又ハ取得シタモノヲ後チニ直接消費ニ充テサセル作用ヲナスモノデアリマス、兩財何ヅレモ結局ハ皆ナ人類ノ欲望ノ目的ニ合フ所ノ消費

物ニナルノデアリマスガ、直チニ消費スルノト、後チニ消費スルトノ別ガアツテ直ニ消費サルル様ナモノヲ消費物ト云ヒ、夫レヲ使ツテ他ノモノヲ拵ヘ依ツテ出來タモノヲ人間ニ消費サセル様ナモノヲ資本物又ハ單ニ資本ト申シマス、而シテ今日ノ經濟ニ於テハ何ントシテモ此資本ヲ第二ナガラ産業ノ要素ニ數ヘナケレバナラヌコトニナツテ居ル、此ノ資本ガナケレバ先ヅ何ウシテモ人間ノ勞力ヲ維持シ産業ニ從事サセルコトガ出來ナイ、特ニ今日ノ經濟ハ毎時現在丈ノ需用ヲ充タス様ナ産業ヲ存スルノミデナク將來ノ需用ヲモ充タスヘキ見越産業ヲ澤山ニ持ツテ居ルカラ何ウシテモ資本ガナケレバナラヌノデアリマス、故ニ、今日ノ經濟デハ土地、勞力及資本ノ三者ヲ同列ノ産業要素トスルノデアリマス、モウ今日デハ如何ナル産業ト雖モ土地ト資本ト勞力トガナケレバ出來ナイ、否ナ昔時ト雖モ果シテ歴史學者ガ云フ如ク土地ト勞力バカリノ時代ガアツタカドウカ、殆ンド想像ニ過ギンノデハナイカ、何時如何ナル時代カラ資本ガ始メテ現ハレタノデアるかハ證明シ得ナイノデアル、唯ダ理論ノ上デ資本ハ自然ニ人力ヲ加ヘテ出來タ人爲財デアルトスルカラ、最モノ初メニハ資本ガナカツタ時代ガアツタト想像スルニ

過ギナイ様デアアル併カシ其最モ始メノ勞力ヲ維持シタ資本ハドウシタノデアアルカト想像スルト鳥ト卵ノ前後ヲ考フル如ク行詰ラナケレバナリマセン其ハ兎ニ角ク歴史以後ニ於テハ土地ト勞力ト資本トガ揃ツテ居ナケレバ一ツノ生産モ出來ナイト云フコトハ確カデアリマス微々タル紙屑買ノ様ナモノデモ多少ノ資本ヲ要スルノデ佛蘭西ノガルニトアト云フ學者ガ層屋ノ資本調ベヲシテ驚イタト云フ話ガアリマス要スルニ何ンナ微々タル職業デモ資本ハ要ル勞力ハ無論要ル而カモ亦地面ガナクテハナラヌ疊半疊ノ面積デモ土地ハ土地デアリマス之レガナケレバ立ツテルコトモ出來マセンダカラ土地ト資本ト勞力ハ産業ノ要素デアリ且ツ具備要件デアリマス三者ノ中一又ハ二アレバ宜イト云フノデナク何ンナ産業モ此三者ガ皆ナ揃ツテ具備シナケレバ出來ヌト云フノデアリマス此點ハ勞資問題ニモ關係アル重要ノコトデアリマス故ニ良ク御注意ヲ乞ハネバナラヌ所デアリマス、

自然ニ付テハ此上別ニ説明ヲ要シマセンガ勞力ト云フコトニ付テハ尙ホ少シク説明ヲ加ヘナケレバナラヌ勞力ハ勞働能力デ勞働ノ源本デアアル此ノ勞力ヨリ

出テ來ル個々ノ働作ヲ勞働ト云ヘマス勞働ハ勿論人間ノ働作デアアルガ勞働ト云フノハ唯ダ人體ノ活動ト云フ丈ケデハナイ謂ユル意識アル勞働デ精神ト筋肉ト合併活動デアアル精神勞働ト筋肉勞働トハ區別シテモ宜シイガドンナ筋肉勞働デモ幾分カノ精神意識ガナケレバナラヌ又タ精神勞働デモ必ず有形ノ筋肉活動ガナケレバナラヌ哲學者ガ唯ダ腦裡ニ考ヘテ居ル丈デハ勞働デナイ必ずヤ之ヲ文章又ハ言語デ外部ニ發表シ有形化シタモノデナケレバナラヌ次ギニ又タ何レノ勞働デモ活動其物ヲ目的トスルモノハ經濟デ云フ所ノ勞働デハナイ所謂經濟上ノ勞働ハ産業要素トシテノ勞働ヲ言フノデ手段トシテノ勞働デアアル遊技運動ノ如キハ活動自體ヲ目的トスルモノデアアルカラ經濟上ノ勞働ニ屬シナイ手段トハ何ンノ手段デアアルカト云ヘバ産業ノ手段ダカラ生産及収益ノ手段トナル勞働ヲ云フコトニナリマス補助業ノ勞働モ之ニ準シテ勞働ト云フテ宜イノデアリマス否ナ補助業ノ勞働ハ概シテ皆ナ精神的勞働デアリマスカラ産業ノ結果ニ對シテ間接且ツ無形デアリマスガ其ノ價值ハ廣遠且ツ偉大デアリマス筋肉勞働ガ有形且ツ直接ニ土ヲ掘リ木ヲ削ルヨリモ精神勞働ガ科學藝術ヲ創作シ政務ヲ決定

シ又ハ事業ヲ經營スル方ニ大ナル價值ノアルコトハ疑フ容レヌ、
 古クカラ労働ニ付テ生産的労働及不生産的労働ノ區別ガ説カレ生産的労働ニ
 ハ産業労働ノミヲ置キ、保護補助ノ無形労働ヲ不生産的労働トシテ居リマスガ、是
 レハ甚ダ狹見デアリマス、唯ダ農商工の産業労働ハ直接産業的デ補助業労働ハ
 間接産業的デアルト云フ差丈ケニ過ギヌ、後者モ決シテ不生産的デハナイコト
 上述ノ通りデアリマス、故ニ兩者ハ共ニ經濟上ノ労働トスルノガ至當デアリマ
 ス

併カシ此ノ經濟上ノ労働ト云ツテモ、批判ノ立場カラ見マスト種々アリマシテ
 皆ナ同様ニ價值ノ大ナルモノバカリデハナイ、先ヅ筋肉の有形労働ヨリモ精神的
 無形労働ノ價值ノ大ナルコト既述ノ通りデアルガ、又タ其ノ何レノ中ニモ第一ニ
 奢侈的労働トシテ價值ノ劣レルモノガアリマス、是レハ奢侈品ノ製造ニ從事シ奢
 侈及娛樂業ノ補助ニ從事スル労働デアル、此等ハ如何ニ筋肉労働トシテ汗水ヲ垂
 ラシ、精神労働トシテ苦心ヲシマシテモ、社會的價值ハ大ナルヲ得ナイ、第二ニハ又
 タ損勞若クハ徒勞ト云ハネバナラヌモノガアル、如何ニ農業工業ノ生産業ニ労働

シテモ、生産スルニハ消費ヲセネバナラヌ、然ルニ其ノ生産ノ結果ノ價值ガ消費シ
 タル價值ヨリ大ナレバ増産的ノ創造デアルガ若シ生産シタ價值ガ消費シタ價值
 ヨリ小ナルトキハ損勞デアル、又タ生産スル丈、消費シ消費スル丈ケ生産スルニ止
 マルトキハ徒勞デアル即チ損失又ハ無創造ノ労働ト云ハネバナラナイ、而カモ實
 際ニ於テ特能アル熟練労働ハ別トシ不熟練ノ普通労働ニハ此ノ徒勞ニ屬スルモ
 ノガ多イ、一方ニ價值ヲ増加スル丈、他方ニ價值ヲ消費スルモノデアリマス、以上ハ
 經濟上ノ労働ト稱スルモノノ中デアルガ、經濟上ノ労働ト云ヘナイ即チ非經濟的
 労働ガ此ノ外ニアリマス、破壊的労働、同盟罷工、窃盜其他不道德労働ノ如キハ是レ
 デアツテ惡勞ト云ハネバナラヌ、社會主義又ハ労働學者ハ唯ダ無差別、無詮索ニ勞
 働々々ト云ツテ非常ニ偉大ノ價值アルモノバカリノ如ク吹張スルケレドモ、謂ユ
 ル労働ハ皆ナ決シテ社會的ニ創造價值アルモノバカリデハナイ、奢侈的労働アリ
 損勞アリ、徒勞アリ、惡勞アリデ、ソシテ此等ノ無創造労働ノ多イ丈ケ、其丈ケ他ノ生
 産的又ハ創造的ノ労働ヲ減少サセ、必要的ノ生産ヲ抑制シ、創造労働ヲシテ長時間
 働カネバナラヌ様ニ強イ、眞ノ産業労働ヲ涸渴サシテ仕舞フ結果トナルノデアリ

マス、要スルニ勞働ハ皆ナ悉ク創造デハナイ、勞働ハ創造ナリ創造ハ奉仕ナリト云フノハ社會價值アル勞働デナケレバナラヌ、即チ消費シタル價值ヨリモ生産シタル價值ガ大ナルモノデナクテハナラヌ、總テ批判ノ目標ハ社會價值ノ如何ニ依ルノデアリマス、

次ニ資本ハ亦之レ唯ノ財デナク、産業ノ手段トナル財デナケレバナラヌ、而カモ其ノ財ト云フノハ自然又ハ自然財デハナク自然ニ人爲ヲ加ヘテ出來ル人爲財デアアル、故ニ資本ノ定義ハ産業手段即チ生産及收益ノ手段タル人爲財デアルトスルノガ良イト云ハレル、自然ハ資本デナイノデアリマス、人爲財中産業ノ手段タルモノガ資本デアアル、此レハ多數ノ學説ガ皆一致シテ居ルト云フテ宜イ、從ツテ土地ハ資本トハ見ナイノデアリマス、經濟學ハ自然ト人爲トヲ嚴格ニ分ケル、何故分ケルカト云フト、自然ノ結果ト人爲ノ結果トハ之レニ對スル經濟上ノ法則ヤ取扱ガ異なるナルカラデアアル、地代ノ如キハ自然ノ報酬デアツテ人口増加ト共ニ無限ニ昇上スルモノトナツテ居ル、從ツテ之ニ對スル租稅ハ人爲ノ結果ニ對スルモノヨリカ餘程高クテモ差支ナイト云ヘル、此レハ一例デアリマスガ、斯ウ云フ關係ガアルノデ

經濟上デハ自然ト人爲トヲ嚴正ニ區別シマス、ソレデ既ニ自然ハ自然トシテ獨立シターノ産業要素ト爲セル以上ハ自然ニ人爲ヲ加ヘテ出來ル人爲財中ノ資本ヲ之レト混同スルコトハ許サヌ、故ニ自然ハ資本デナイト云フノガ正當ニナリマス、或ル學者米人ヱリイ資本ヲ『生産セラレタル産業ノ手段』デアルト定義シテ居マシガ人爲財中手段トシテ使用サルモノダト云フノデ最モ良イ定義デアリマス、要スルニ資本ハ産業ノ手段タル人爲財ト云フコトニナルノデアリマスガ、一層嚴正ニ解シマスルト實ハ其ノ人爲財ノ價值デアルト申シタイノデアリマス、即チ資本ハ財其ノ物デナクテ其ノ財ヲ作り又ハ得ル爲メニ投ゼラレテ財ノ中ニ含まレテ居ル貯蓄價值即チ投下費用デアルト云フノガ正當ノ觀念デアリマス、例ヘバ機械其物デナクテ、機械ノ製造又ハ取得ニ投下セル費用即チ生産價值(原價)ヲ資本ト云フノデアリマス、生産手段ナラバ生産費、收益手段ナラバ原價ニ當ルノデアリマス、左ウシマスルト、手段タル財其者例ヘバ機械自體ハ何ト云フカト云ヘバ、資本ト云ハナイデ、資本物ト云フベキモノデアリマス、嚴正ニ物ト價值トヲ區別スレバ、斯ウナルノデアリマスガ、面倒デアリマスカラ一般ニハ資本物ヲ押サヘテ資本ト云フ

扱テ資本即チ資本物ニハ色々別ケ方ガアリマスルガ、流動資本、固定資本ト區別スルノガ一般ニ行ハレテ居リマス、流動資本ハ産業上一回ノ使用ニ依ツテ消費シ去ラルル資本デアツテ、消費シタ價值ハ變形シタ新價值ノ中ニ全部ヲ現ハスモノデアアル、故ニ變形ノ新産物ガ賣レルト其ノ代價カラ其資本ハ全部回收セラレマス、産業ノ期間ヲ以テ云ヘバ一期内ニ消費サレ變形シ、一期内ニ價值ヲ回收サルル資本ガ流動資本デアアル、例ヘバ生産業ノ原料材料勞働維持ノ生計品(實物勞銀)及ヒ收益業ノ商品ノ如キ是レデアリマス、茲ニ謂フ勞働ハ筋肉勞働ノミデナク智能勞働ヲモ含ミ會社デ云ヘバ專務取締役、支配人、技師、事務員、職工、傭夫等デ、其ノ給料及賃銀費用ガ流動資本ニ屬シマス、此等ハ皆ナ一期内ニ全部回收サルルモノデアリマス、之レニ反シテ固定資本ト云フノハ長期存續シテ同一ノ産業上ニ使用サレ、長ク變形シナイ資本デアツテ、言ヒ換ヘマスレバ長期間無變形ノ儘マ同一ノ生産又ハ收益用ニ手段トシテ使用サルルモノデアアル、例ヘバ生産業ノ使用スル土地改良費用、機械、用器、家畜、交通機關及ビ收益業者ノ貸貨商品ノ如キガ是レデアリマス從ツ

テ此レ等ノ價值ハ一期内ニ全部ノ回收ガ出來ナイデ、毎期内ニ一部分宛生産又ハ收益デ回收シ、長期間ノ後チ始メテ全部ノ價值ガ回收サルルモノデアリマス

通貨ハ多數ノ學者ガ流動資本ニ屬サセ、或ル學者ガ個人的ニハ毎回消費サレル流動資本ナルモ社會的ニハ長ク存續スルカラ固定資本デアアルトシテ居マスガ兩説共ニ正當デナイ、通貨ハ如何ナル場合デモ他ノ代表デアツテ、真ノ財デナク從ツテ實資本デナイ、單ニ資本ヲ集散サスル代表價值デアアル、以テ資金トハ云フベクモ資本ト云フベキモノデナイ

固定、流動兩資本ノ關係ヲ見マスルニ、先ヅ同一産業ニ於テ固定資本ヲ多ク使フトキハ品物が安く出來ルガ、流動資本ヲ多ク使フトキハ品物が高クナル、夫レハ固定資本(主トシテ機械)ハ同一期間ニ多量ノ産額ヲ生ジ而モ回收ハ一部分デアツテ各個當リノ生産費ガ少ナク、流動資本(主トシテ勞働)ハ同一期間ニ僅少ノ産額ヲ生ジ而モ回收ハ全部デアツテ、各個當リ生産費ガ割合ニ多イ故デアアル、同ジ十萬圓ノ資本デ營ム事業デモ其十萬圓ヲ固定資本ニ八萬圓用イテ流動資本ニ二萬圓用イ

ルノト、流動資本ニ八萬圓使ヒ固定資本ニ二萬圓用イルノト比較スルト固定資本ヲ以テシタ方ハ産額ガ多イニ回收ハ二萬八千圓位デ足ルモ、流動資本ヲ以テシタ方ハ産額甚少ナキニ回收ハ八萬二千圓位ヲ要スルカラ、何ウシテモ一方ハ産物ノ價ヲ低クシ得ルニ他方ハ産物ノ價ヲ高クセネバナラヌ、併カシ固定資本ハ流動資本カラ出來ル、固定資本ハ流動資本ヲ固定シタモノデアアル、流動資本ノ固定ヲ固定資本ト云フニ過ギヌ、例ヘバ横濱ト新橋トノ間ニ鐵道ヲ架ケルトスル、鐵道ハ固定資本ニナルガ鐵道ヲ架ケル爲メニハ枕木、土工、レール等ノ材料ヤ手間ガ要ル、此等ノ材料ハ勿論手間モ勞働維持ノ生計品デアアルカラ流動資本デアアル、鐵道バカリデハナイ、船舶又ハ機械器具ノ如キ固定資本モ皆ナ斯ウデアツテ、材料ト手間ノ流動資本ヲ使用シ、此等ヲ投下シ固定シタモノニ外ナラナイ、要スルニ固定資本ハ皆ナ流動資本ヲ固定シタモノデアツテ、其丈ケ流動資本ヲ減少スルモノデアアル、從ツテ急激ニ固定資本ヲ増加スルコトハ出來ヌ、假リニ強イテ固定ヲ増加スレバ流動資本ガ非常ニ缺乏シテ兩者ノ割合ガ取レナイ、其結果、機械ナゾハ運轉スルコトガ出來ズ謂ユル機械ノ空廻リト云フコトニナル、如何ナ固定資本デモ流動資本ガナケ

レバ出來モセズ、出來テモ運轉ノ用ヲ爲サヌト云フ關係ニアリマス、ソレデ例ヘバ外國カラ無理ニ輸入シテ急激ニ固定資本ノ増設ヲ試ムルトキハ其ノ運轉ニ要スル國內ノ流動資本ガ非常ニ缺乏シテ、必ズ暴騰シマス、ソウスルト暴騰シタ流動資本即チ原料ヤ石炭ヤ手間ヲ買フベキ資金ヲ多ク要スル、從來百萬圓ノ流動資金デヨカツタ會社ガ二百萬圓ノ流動資金ヲ要スルコトニナル、各會社ガ斯様ニ流動資金ヲ多ク要スルコトニナレバ、銀行ノ貸出需要増加シテ、金利ハ必ズ高騰シ、事業ノ企畫ヲ防害シ、固定資本ノ活用ヲ抑制シ、失業者ヲ生ジサセルコトニナリマス、大戰後日本ノ恐慌ハ戰時中ヨリ急激ニ固定資本ヲ増加シ強イテ外國カラ輸入シ、爲メニ國內ニ於テ流動資本ノ價格ヲ騰貴サセ、海外ヨリモ多量ノ原料ヲ輸入シ國內ノ金融ヲ著シク逗迫サセタノガ主要ノ原因デアリマス、固定資本ト流動資本トハ常に能ク其割合ヲ保ツ様ニセネバナラス、

資本ノ分類ニハ尙ホ種々アル、自由資本ト投下資本、創業資本ト作業資本、生産資本ト收益資本、個人資本ト社會資本、可變資本ト不變資本及貸付資本ト企業資本等ノ分類ガ諸多ノ學者ニ依ツテ提唱サレテ居ル、然カシ今ハ其詳述ヲ省キマス、唯ダ

注意スベキハ資本ト財産トヲ混同セヌコトデアアル、學者就中流通經濟學派ハ資本ヲ財産ト同視シ、財産ナラヌ資本ハナイ、又々資本ハ皆ナ個人的デ且ツ皆ナ收益的手段デアアルカラ、資本ニ社會資本ヤ、生産資本ト云フベキモノハナイト論斷シマスガ、資本ト財産トハ概念ガ違ツテ居リマス、資本ハ産物ヤ收益ノ元本ト云フコトダ、財産ハ私有制下ノ所有デ資本バカリデナク享用品ヲモ含ムノデアアル、共有制下ニ財産ハナイガ、資本ハ産物ノ元本トシテ共有社會ニモ存在シ得ルシ、又々必要デアアル、共有社會ニナイト云フノハ收益ノ元本タル資本ダケデアアル、産物ヲ生ズル技術的ノ生産資本ハ共有社會ニモ存シマス、勿論現代ハ皆ナ私有制ダカラ、資本ハ生産資本モ收益資本モ皆個人ノ所有タル財産ニナツテ居リマスガ、生産資本ハ個人ニ收益ヲ得サセルト同時ニ社會ニ産物價值ヲ創造スルカラ社會資本ト稱シ、收益資本娛樂商品ノ如キハ個人ニ收益ヲ生ズルノミデ、社會ニハ産物價值ヲ創造セヌカラ之レヲ個人資本ト稱シテモ宜イト思フ

以上三要素ト人トノ關係ヲ見マスルニ自然ノ土地ヲ所有スル人ハ地主ト稱シ資本ヲ所有スル人ハ資本家デアリ、勞力ヲ所有シ勞働ヲ出ス人ハ勞働者デアリマ

ス、然ルニ此等ノ中地主及資本家ノ所有ナルモノハ單ニ法律關係デアアルカラ、何時デモ身體ト所有トヲ分離スルコトガ出來ルケレドモ勞働者ノ勞力所有ハ自然關係デアアルカラ其所有ト身體トヲ分離スルコトガ出來ナイ、從ツテ勞働者ハ自己ノ所有スル勞働ヲ自己ノ身邊ニ集積スルコトガ出來ナイ、一人デ何人分ノ勞働ヲ兼有スルコトハ出來ナイガ、地主、資本家ハ自己ノ身邊ニ澤山ノ地面又ハ資本ヲ集積シ且ツ保存スルコトガ出來ル、何人分デモ何日分デモ蓄積シ得マス、且ツ勞働ハ貯蓄ガ出來ヌ勞働シテモ勞働シナイデモ毎日消失シテ仕舞フ、今日休ンダラ其分ヲ明日ニナツテ明日分ト併セテ二日分働クト云フコトハ出來ナイ、甚ダ脆キ商品ノ如ク毎日幾何ニテモ賣ラナケレバナラヌ關係ニ在リマス、到底土地ヤ資本ノ如ク蓄積シテ價ヲ待ツト云フ如キコトハ出來マセン、勞働者ハ斯ル不利ナル事情ヲ有スル、然ルニ勞働ハ産業上欠クベカラザル要素デアツテ勞働者コソ眞ノ生産者ト申シテ宜イノデアリマス、勿論此勞働者ト云フ中ニハ肉體的、精神的ノ兩方ヲ含ンデ居ルトシテノオ話デアリマス、産業ノ計畫、監督及執行ハ皆此等ノモノガスルノデアリマス、之ニ反シテ地主及ビ資本家ハ産業ニ關シテ斯クノ如キ密接ノ關係ガ

ナイ、土地及資本ハ産業ノ要素トシテ勞動ト均シク重要ノ關係アルコト勿論デア
 ルガ、其レハ法律關係ノ所有形式ニ過ギナイ、人其者ハ産業ノ遂行ニ何等直接的、技
 術的ノ關係ヲ有シテ居ラヌ、彼等ハ産業ノ參加者トハ云ヘ得マセウガ、勞動者ノ如
 キ産業者又ハ生産者トハ云ヘヌ道理デアリマス、彼等ハ土地又ハ資本ヲ産業用ニ
 提供シタ丈ケデ自分ハ直接ニ産業場ニモ出勤セズ、心配位ハスルダラウガ別ニ事
 業ノ成敗ヲ支配スル程ノ盡力ハセズ、自己ハ別ニ自己ノ業務ニ従事スルカ又ハ唯
 ダ遊眠徒食シテ居ルノデアアル、勞動者ニハ然ウ云フコトガ出來ナイ、人ニ勞動ヲ貸
 シテ自分ハ化身デ遊ンデ居ルト云フ譯ニハ行カヌ、夫レダカラ資本家ヤ地主ハ生
 産者デハナイ、彼ガ提供シタモノハ生産ノ要素デアルガ人其者ハ生産者デナイ、他
 ニ小作サセテ居ル地主ヤ會社株主ノ大部分ハ皆是レデアリマス、債權者デアツテ
 産業者デハナイノデアリマス、唯々私有制度ガアル爲メニ他トノ權衡上出資債權
 ニ對スル利子ヲ得サスルコトハ不可ナキモ、其以上利益ノ配當ヲ受クベキモノデ
 ハナイ、然ルニ今日ノ地主及株主ハ出資債權者ニ過ギナイノニ産業者タル資格モ
 フモ兼併シ産物モ全有又ハ半有シテ居ルノデアアル、地主ガ小作料トシテ折半的穀

量ヲ取ツテ居ルノハ産物ノ半有デアアル、株主ハ産物ノ全有デ其實上カラ配當ヲ受
 ケテ居ル、何故ニ地主ヤ資本家ガ單純債權者デアリナガラ、産業者ノ位地ヲ奪ツテ
 生産結果ノ全有又ハ半有スルコトニナツテ居ルヤト云ヘバ資本勢力ノ餘影デア
 リマス、勢力ノ爲ニ眞生産者ヲ壓シテ、生産利益ノ分配ニマデ喰入ツテ居ルノデア
 リマス、自分等ハ生産者デハナイガ利益ノ配當マデ與レナケレバ出資ヲシナイト
 云フノデ、ソレデハ利益ノ配當ヲ上ゲルカラ此株ヲ引受ケテ與レヨ其地面ヲ貸シ
 テ欲シイト云フ事ニナツタノデアアル、併カシ此等ノ點ニ關シテハ未ダ尙ホ攻究ス
 ベキ餘地ガアリマスカラ、別ニ述ブルコトト致シマス、要スルニ純地主、純資本家ハ
 生産者ニ非ズ、智能及筋肉勞動者(企業勞動者ヲ含ム)コソ眞ノ生産者デアリマス、斯
 ウ云フ區別ヲシテ置ク必要ガアル、殊ニ勞動者ハ經濟人格デアアル、勞動ハ商品デ差
 支ナイガ、勞動者マデ勞動ト均シク商品ト混同サレ易イ、否ナ實際ニ然カク混同サ
 レテ居ルコトヲ申シテ置キマス

産業ハ勞動ノミノデ行ハルルノデハナイガ、經濟及文明ノ進歩ニ伴レ自然ハ漸
 次減耗シテ資本ト勞動トガ産業ノ大部分ヲ占メ而カモ資本ハ亦少許ノ自然ニ大

量ノ勞働ヲ加ヘテ出來ル結果デアアルカラ、結局現今産業ノ要素ハ勞働ヲ以テ最モ主要ノモノデアルトセラルルノデアアル、左レバ社會主義的學派ノ謂ユル「勞働セヌ者ハ食スベカラズ」ノ確言ハ洵ニ至當デアアルノデアアル、大體勞働ヲ經テ衣食ハ出來ルノデ、勞働セズニ衣食スルモノガアツテハ、因果公正ノ條理ニ反スルバカリデナク國民ノ生活ハ更ニ欠乏ヲ甚シクサレル、又々實際モ大體ニ於テ勞働セネバ衣食ガ出來ヌコトニナツテ居ル、故ニ社會主義的學說ナゾガ提唱スル迄モナク、從來カラ「働カネバ食ヘヌ」トハ既ニ一般ノ相戒ムル所デアツタ、併カシ此語ヲ文字通り嚴格ニ適用シテ勞働者以外ノモノハ衣食シテハナラヌ、衣食ハ皆ナ勞働スル者ノミ自由ニスベキモノデアルトスルハ至當デナイ、勞働スル時點ト衣食スル時點ハ必シモ同時デアアルコトヲ要セナイ、何人ト雖モ勞働シナガラ衣食スルモノハナイ、勞働ト衣食トノ間ニ時間ノ隔ガアツテモ差支ナイトセネバナラヌ、既ニ勞働ト衣食トノ間ニ時間ノ隔ガアツテモ差支ナイトスレバ、今マ衣食丈ケシテ後チニ勞働スル子供ノ生活モ差支ナク又々往時勞働シテ今其ノ結果デ衣食スル老人ノ生活モ差支ナイコトニナル、若シ必ズ勞働時ト衣食時ト同時デアアルヲ要ストスルナラバ子

供ヤ老人ハ生活シ得ナイコトニナラネバナラヌ、ソナ道理ハ決シテアルベキ筈ガナイ、ソコデ問題ガ起ル、縱令ヘ老年ナラズトモ先キニ勤勉シテ成功シタ富豪ガ今マハ勞働セズニ其ノ富力デ衣食スルノハ敢テ差支ナキヤ否ヤ又々更ラニ一歩ヲ進メテ其富豪ガ自身バカリデナク勞働セザル家族ニモ衣食サセテ差支ナキヤ否ヤ又々既ニ富豪ガ生前家族ニ衣食サセルバカリデナク餘レル富力ヲ死後其遺族ニ與ヘテ衣食サスルコトモ差支アルヤ否ヤ一ハ扶養ノ問題デ他ハ相續ノ問題デアアルガ、相續ヲ否定スレバ扶養モ否定セネバナラヌ、扶養モ否定スレバ勞働シナイ配偶者ノ衣食モ子供ヤ老人ノ衣食モ否定セネバナラヌ、必ズ個人自己ガ勞働スル時丈ケ衣食シ得ルノミトスル究屈ナル絶對個人主義トナラネバナラヌ、社會主義的學派ハ如何ニ彼等ノ此文句ヲ解釋スルデアラウ乎

第七章 産物及貿易

今度ハ物産及貿易ト云フオ話ヲシマス、前來所論ノ結果ト致シマシテ産業デ生産ガ行ハレ、ソノ生産ノ結果デ産物ガ出來、産物ガ出來マシテ貿易モ行ハルル順序デアリマス先ヅ産物ノ種類ハ色々ニ分タレマスガ、最モ重要ナル分類ハ之ヲ農産物ト工業品トノ二ツニスルコトデアリマス、ソシテ國ノ經濟ガ發達シテ工業ガ進ンデ來ルト、自然ニ工業品ガ多クナルガ、未ダ工業ガ幼稚ナル時代ハ何レノ國モ農産物ノ方ガ多イノデアアル、茲ニ農産物トハ廣義ノ原始的粗生品デアツテ其中ニ食用農産物、工業原料用農産物及ビ林牧原産物ヲ含ミマス、其工業品ノ中ニモ又區別スベキ重要ノモノガアツテ、半成工業品ト全成工業品トノ二ツニナリマス、半成工業品ガ多ケレバ工業ノ進歩ハマダ幼稚ナモノト言ハネバナラス、又タ夫レ丈ケ國民ノ益スル所モ少ナイ、是レニ反シテ全成品ガ多クナレバ夫レ丈ケ工業ガ進歩シ發達シタコトヲ證明スルモノデアアル又タ今一ツハ家内工業品ト工場工業品トノ區別モ大切デアアル、家内工業ハ概シテ手工業デアアルガ、工場工業ハ概シテ器械工業

デアアル、家内手工品デハドウシテモ粗製濫造ノ弊ヲ免レナイ、工場ノ機械工業品トナルト製品ガ一定スルカラ特ニ粗製濫造シヨウトシテモ出来ナイコトニナル、近來粗製濫造ト云フ聲ガ八釜シイノデ商業道德ト云フ事ガ廣ク唱ヘラレテ居リマス、是レモ必要デアアルガ、然ウ言フ精神的宣傳ノ外ニ先ヅ第一工業組織ノ擴大ヲ試ミナケレバナラス、我國ノ如キハマダ家内的手工的半成品工業國デアアル、工場工業ナリ機械工業ナリガ行ハレテ居ルト云ツテモ、何ニセ纖維工業ガ大宗デアツテ家内賃機賃繰又ハ工場内ノ手工的的操作ガ未ダ盛ンデアアル、紡績ニシテモ製糸事業ニシテモ然ウデアアル、紡績ハ佳ナリ機械工業ニナツテ居ルガ、マダ割合ニ手間掛ガ多イ、製糸業ニ至ツテハ繭カラ糸ヲ採ルノガ無論手工業デアアル、糸ヲ粹ニ掛ケテ絢ルノハ機械デヤルガ、製織ニハ家内賃繰ガアツテ農村ノ副業トナツテ居ル程デアアル、故ニ日本デハマダ外國ノ様ニ眞實ニ機械的工業ガ進ンデオラズ、從ツテ製品ガ一定シナイ、製品ガ一定シナイノダカラ粗製濫造ト云ハルルノデアリマス、而カモ日本工業ノ成品ハ半成品ガ多イ、現ニ綿糸ハ半成品デアアル、織物ニナツテ居ラズ織物モ拵ヘハスルガ綿糸ノ儘デ外國ニ輸出シテ居ルモノモ少クナイ、生糸ハ大輸出品

デアアルガ半成品デアアル、羽二重ノ如キモマダ決シテ全成品デナイ、我工業ノ二大宗タル紡績ト生糸トガ何レモマダ斯ウ云フ有様デアアルカラ、日本ハマダ手工業及半成品工業デ工業幼稚國ト言ハレテモ否ナムコトハ出来ヌ、然乍ラ農産物ト工業品ヲ比較シテ見ルト、時ニ依ツテ違ヒマスルガ、内務省デ民力調査ト云フノヲヤツタ時、大正四年ノ調査デアリマスガ、其調査ニ依ルト日本全體ノ生産總額ガ四十三億圓ト云フノデアツテ、其中工業品ガ二十三億、農業品ガ二十億圓ト云フノデアリマシタ、幼稚トハ云ヘナガラ我國モ工業國ニナリツツアルコトガ知レマシタ、其時各縣ヲ農業縣ト工業縣トニ分ケテ見マシタラ、静岡縣ガ丁度中心デアツタ、静岡縣ハ一億圓ノ産物總額デ、工業品ガ五千萬圓、農産物モ亦タ五千萬圓ト云フ數デアリマシタ、半農半工ノ縣デアリマシタ、最近大正十年度ノ統計ニ依ツテ私ガ調べタ所ヲ申上グルト今日ハ日本全國産物ノ總額ガ八十四億圓トナツテ居ル、其中デ耕地ノ農産物、狭イ意味ノ農産物デスガ、是ガ三十六億六千萬圓デアアル、未ダ米價ガ餘リ下ガラナクツテ三十五六圓ノ時ダカラ、米麥額ダケデモ二十七億圓ト云フ數ガ出テ居ル、他ハ製茶ダノ砂糖ダノ繭ダノト云フノデ繭ハ三億六千三百萬圓ニナツテ居

ル、兎ニ角ク此等ヲ含シテ耕地農産物ガ上記ノ三十六億圓デアリマス、ソレカラ畜産物ガ八千四百萬圓、林産物ガ一億八千百萬圓、漁獲物ガ二億一千三百萬圓、ソレカラ工業品即チ製造品ガ三十七億五千六百萬圓ト云フ數デ之ヲ耕地農産物ニ比較スルト多額ニナツテ居リマス、次ニ尙ホ鑛産物ガアツテ其レガ五億六千六百萬圓ト云フノニナツテ居マス(附録第一表參照)斯ウ云フ統計デアリマス、ソコデ耕地農産物、畜産物、林産物先ヅ是レヲ廣イ意味ノ農業品ト申シテ宜イト考ヘマス、之ニ對シマシテ製造工業品ト鑛産物トヲ合セ之レヲ廣義ノ工業品ト解スルノハ至當デアリマセウ、漁獲物ハ問題デアリマス是レハ二億一千三百萬圓デアリマスガ農業ニモ工業ニモドツチ付カズト見ネバナラント思ヒマス、此中ニハ鑛詰ノ工業品モアレバ又々農村副業ノ漁獲品モアリマス之ヲ縱令ヘ農産物ノ方ニ加算シテモ四十二億圓デ尙ホ矢張り工業品ノ方(四十三億圓)ガ多額デアリマス、故ニ我國ハ最早工業經濟時代ニ進ンデ來タト言ツテモ宜イト思フ、大正四年ノ調査モ既ニ其趨勢ヲ示シテ居ツタコトハ前述ノ通りデアル、ソシテ大正四年ノ生産總額ハ四十三億圓デアツタガ、今ハ八十四億二千萬圓ニナツテ居ルカラ一寸倍ニ當リマス、是レハ

品物ガ増シタト云フ爲メヨリカ大體價格ガ上ガツタ爲メデアルガ、工業品ノ増加ガ農産物ノ増加ヨリ多イコトハ爭ハレナイ、斯クテ工業發達ノ一面ハ我國耕地畑ノ變化ニ由リテモ良ク現ハレテ居リマス、即チ前ニハ田畑合計ガ五百五十萬町步デ田ガ二百八十萬町步ニ畑ガ二百七十萬町步ト云フノデアリマシタガ、ソレガ今日ハ何ウデアルカト云フト總計六百萬町步デ、其中畑ハ三百十萬町步ト云フ様ニ激增シテ居マス段々畑ガ増シテ田ヨリ多クナル、此レハ工業ガ發達シ雜穀其他工業原料用ノ畑地農作物例ヘバ養蠶ノ如キ副業ガ盛ンニ畑地ヲ擴張サセタカラデアル、我が農業ニ關シテハ種々ノ問題ガアリマス、小作問題モ其一デスガ、更ラニ根本的問題ガアリマス、先ヅ第一ニ耕地面積ガ尠クテ、農家一戸當リ僅々一町内外ニ過ギヌコトデアル、之レハ一戸六人中ノ一人ガ耕作スル丈ケニモ足ラナイ、其ノ收穫デ他ノ五人ヲモ養ハネバナラヌ計算デアル、貧困セザルヲ得ナイ譯デアリマス、セメテ一戸デ二町步位耕作シ得ル様ニ爲シ、器械ヤ牛馬ヲ使用セシメネバナラヌ然ルニソウスルニハ尙一層根本ニ入りテ畑地擴大ノ要ガアル、之ニ關シテ第二ニ陸稻改良ノ必要ガ問題トナツテ來ル、日本ハ昔カラ瑞穂國デ水田主義デ來タガ

此水田主義が良イカ陸稻擴張主義が良イカト云フ事ハ餘程日本ノ經濟ニ大關係ガアリマス、西班牙ヤ伊太利ノ陸稻ナゾヲ見ルト水田デナクトモ肥料等ノ如何ニ依ツテ随分水稻ト同ジ様ナ米ガ出來ル様デアアル、若シモ陸稻主義ガ盛ンニナツテ田ガ畑ニ變ツテ行ケバ經濟上非常ノ利益ガアル、第一大規模ニ出來ル、女子供ニモ出來ル、又畑ナラバ米ヤ麥ニ不適當ナ所若クハ不況ノ場合ニハ他ノ物ガ作レル、畑ナラ自由自在ニ作物ガ變ヘラレル、而シテ仕事ヲスルニ樂デアリ且ツ奇麗デアアル婦人ガ農業ヲ厭フノハ水田ノ爲メデアアル、從ツテ文化生活ガ段々普及スルニ伴レテ田ヨリモ畑ガ多ク耕サルル傾向デアアル、水田デアルト暑サ寒サガ違フ毎ニ勞苦ガ甚ダシイ、又常ニ水ヲ湛ヘテ置カナケレバナラヌカラ畦畔ガ多ク且ツ高く拵ヘナケレバナラヌ、從ツテ器械ニ因ル大農耕作ガ出來ヌ、此點カラ見テモ畑地ノ擴張ヲ必要トスル、ソレニハ畑地作物ノ工夫ガ必要デ、桑畑ヲ擴大スルモ一策ダガ特ニ陸稻ノ改良ガ出來ルト最モ有利デアリマス、現ニ日本ノ或地方デハ可成リ陸稻ガ改良サレテ居ルガ、マダ水稻ニハ甚ダ及バナイ、更ラニ數段ノ改良ヲ見ンケレバナラヌ、西班牙、伊太利ノ例カラ見レバ可能性ガアル様ニ思ハレル、次ニ又タ水田ニハ

殆ンド米シカ出來ヌ他ニ出來ルモノガアツテモ二三ノ小種ニ過ギナイ、夫レダカラ小作ヲ米デ納メル事ニナル、畑ハ金ノ小作デアアルノニ田ハ概シテ此ノ米納小作ニナツテ居ル、然ルニ此米納小作ト云フノガ、小作爭議ノ一大原因ヲ爲シテ居ル、先ツ納米ノ品質デ問題ガ起リ、楨目デ爭論ガ起リ、作柄デモ苦情ガ起ル、爭議ノ種子ガ多イカラ、永ク反感ガ養ハレ、時ニ觸レテ小作騷動ナゾヲ起スノデアアル、勿論金納小作ニスレバ爭議ハ全然ナイトハ言ハヌガ、餘程爭議ノ種子ガ少ナイ、特ニ米納小作デハ米ノ高イ時ニ地主ガ不當ノ利益ヲ得テ居ルト云フ事ガ小作人ノ頭ニ潜在シテ居ルカラ地主ガ兇作年ニ多少ノ小作料減額ヲシタ位デハ、中々聽カナイ、元來地主ハ純然タル出資的債權者デアアル、夫レガ企業者ノ位地ヲ犯カシテ、損益ノ分擔ニ任ジタリ、收穫ヤ價格ノ高低ニ喜憂ヲ持ツタリスルノハ理由モナク必要モナク全く間違ツテ居ル、自分ガ肥料ヲ出シタノデモナク、自分ガ農具ヲ出シタノデナク自分ガ行ツテ耕シタノデハナイ、出資者丈ケノ一定利子ヲ受ケレバ夫レデ良イノデアアル、然ルニ米納小作デハ小作人ガ種子ヲ蒔キ農具ヲ用キ、肥料ヲ施シ、星ヲ戴キ月ヲ踏んで耕作シタ其結果ヲ折半シテ地主ニ取ラセルト云フノデアアル例ハバ小作

人ガ奮發シテ多量ノ金肥ヲ施コシタ結果ニ俵分ノ增收獲ガアツタ場合ニ當然地主ガ其半分即チ一俵ヲ取ルト云フコトニナリマス、是レハ極メテ不條理デ勞功相應ノ因果律ヲ破壞スルモノデアリマス、地主ハ勞ナクシテ功ヲ得、小作人ハ勞多クシテ功少ナイノデアアル、是レデハ到底農事ノ改良ナゾハ行ハレ様ガアリマセン、之ニ比スレバ畑地ニ行ハルル金納小作制ノ方ガ優ツテ居ル、畑地ノ金納小作ニハ殆ント小作騷動モナク、益々畑地ノ増大ヲ見ツツアリマス、併カシ耕地作物ノ種類ガ増加センケレバ此上ノ畑地擴大モ覺束ナイノデアリマス、此點ニ於テ陸稻改良問題ガ關係シテ來ルノデアアルガ、畑地利用ノ最モ適切ナルモノハ何ントシテモ工業ノ發達ニアリマス、畑地ハ工業ノ原料品、輸出品ヲ造ル所ニナリマスカラ工業ノ發達、輸出貿易ノ増進ニ伴ツテ、畑地ハ開拓サレテ行クノデアリマス、斯ウナルト農家ノ經濟ハ食料農産物ノ收入ト副業産物ノ收入トカラ成リ立ツコトニナリ、縱令ヘ米穀收入ニ失フ所ガアツテモ副業收入ノ増加ニ依ツテ補ハルルコトトナル、此ノ方面ニ於テ農業ガ工業ノ補ケヲ受ケ收益漸減法ノ支配カラ幾分カ救ハルルコトトナリマス。

近時我國ニハ農業立國トカ工業立國トカ云フ議論ガ八釜シクナツテ居リマスガ、産業及貿易ノ大勢カラ見ルト、主要ノ産業及貿易品ハ生糸、綿糸、纖維工業品デアル、米麥ハ澤山出來マスガ國民ガ食ツテ行ク丈モ足りナイ事實デアル、農業ハ生活ノ根本、立國ノ大本デハアルガ、興國ノ要件デハナイ、興國ノ大本ハ工業デアルト考ヘネバナラヌ、此工業ガ益々進ンデ行カナケレバ日本ハ富裕ニナル譯ニハ行カヌ、モウ農業ハ先ガ見イテ居ル、狹小國土ノ殆ンド全能力ガ働キ盡クサレテ居ル、即チ收益漸減法ガ進行シツツアル、勿論改良的人爲ノ盡スベキモノモ尙ホ多々アリマスガ農業ノミニ頼ラントシテハ最早此上ニ榮ユル事ガ出來ヌ、何ウシテモ工業ノ發達ニ頼ラナケレバナラヌノデアリマス、併カシ我國ノ工業ハマダ幼稚デアリ、技術モ組織モ不完全デアアル、特ニ困ルコトニハ之ニ對スル原料ガナイ、原料ナクシテ工業ヲ發達サセテ行ク譯ニハイカヌ、折角工業興國ニ目覺メテモ如何ニセン工業ノ原料トナルベキ鐵、棉花、羊毛、石油及肥料ト云フ如キ物ガナイ、是ヲ何ウスルカト云フ問題ハ實ニ重大ノ問題デアリマス、養蠶其他畑地作物ノ獎勵デ此等ノ産物輸出ヲ増加シ、其代價デ必要ノ工業原料ヲ買入レル様ニスルコトモ努ムベキ有力

ノ方法デハアルガ、此位デハ到底イカヌ、去リトテ海外ニ原料領土ヲ獲得スルハ如何ナル方法ニ依ルモ容易デナイ、結局ハ學術ノ進歩ニ依リ科學產物ヲ増加シ之ヲ輸出シテ科學貿易ヲ行フノ外ハナイ様デアル、

兎ニ角、我同ハ最早ヤ工業國ノ域ニ進ンダ、先キニ工業品ノ増加ヲ示シタノハ民間工業丈ケノ數字デアリマス、此外ニ政府ノヤツテ居ル工業、煙草製造、製鹽業、樟腦製造、民間ノ製酒工業ガアルノデアリマス、此等工業品ハ前記工業品中ニ這入テ居ナイ、若シ適當ニ計算シテ(原料農產物價格ヲ控除シテ)之ヲ入レルトスレバ更ニ工業品ノ額ガ多クナル譯デアリマス、是レヲ別トシマシテ總額八十四億二千萬圓ト云フノガ我國ノ一年間ノ生産總額デアリマス、然ルニ此ノ生産總額ガ如何ニ處分サレテ居ルカト考ヘマスト大部分ハ皆國內デ消費シテ仕舞フノデアリマス、米麥ヲ初メ殆ンド皆ナ國民ガ消費シテ足ルカ足ラナイカト云フ状態デアリマス、但シ品物ニ依ツテハ例ヘバ生糸ノ如ク國內ノ消費ヨリモ過剩ノ生産ヲ見テ居ル物ガアツテ其レハ輸出ヲ致シテ居リマス、其ノ代リ外國カラ夫レ以上ノ物ヲ又々輸入シテ居ルト云フ事情デアリマス、斯ウ云フ關係ニナツテ居ル、其レハ貿易ノ關係

デアリマス、ココデ產物論カラ貿易論ニ移ルノデアリマス、八十四億ノ九割乃至八割五分ハ内デ使ツテ残り一割五分ガ外國ニ輸出サルルノデアアルガ、其代リ此ノ一割五分ヨリカ、モット多ク外國カラ或ル品物ヲ輸入シテ大體輸入超過ノ買喰生活ヲシテ居ルト云フノガ今日ニ於ケル日本ノ現況デアリマス、夫レハ貿易額ニ依ツテ證明サレルノデアアルカラ我國貿易ノ内容ヲ之レカラ述ベルコトニスル

貿易ニ就テ重要ナノハ、先ヅ原料、品、貿易、製品、貿易、トノ關係ヲ見ルコトデアル、國ノ經濟ガ發達シナイト貿易ガ原料輸出、製品輸入ト云フ事實ヲ示メシマス、原料品ノ輸出ガ多クシテ製造品ノ輸出ノ少ナイノハ未ダ其ノ國ガ農業經濟ノ時代デ商工業ハ幼稚デアアルコトヲ證明スルモノデアル、是レニ反シテ原料輸入デ製品輸出ノ國ハ工業經濟ノ時代ニ入り込ミ且ツ文明ノ程度モ進ンデ居ルコトヲ證明シマス故ニ原料貿易ト製品貿易ト云フ區別ハ各國ノ産業状態ヲ見分ケルノニ要重ナ標準トナツテ居ル、然ラバ日本ノ貿易ハ何ヅレノ形式ニアリヤト云フニ大藏省ノ統計ニ依リマスト斯ウ云ケ分ケ方ヲシテ居リマス、食料品(之レニハ製造品モ這入ツテ居ル)原料品、原料用製品(是ハ半成品)及全成品(完全ニ製造サレタモノ)其他何

レニモ屬セヌモノトナツテ居リマス、是レハ大正十年ノ統計ニ在ル區分デアリマ
スガ、大要左ノ如クデアリマス

輸出	價額 (千圓)	主 要
食料品	七九、〇〇〇	米豆類千二百萬圓、水産物二千圓等
原料品	七九、〇〇〇	石炭三千八百萬圓、木材千五百萬圓等
原料用製品	五五〇、〇〇〇	生糸四億二千萬圓、綿糸八千萬圓、眞田七百萬圓等
全製品	五二五、〇〇〇	綿布二億圓、絹布八千九百萬圓、メリヤス千二百萬圓、紙類千八百萬圓、陶器三千萬圓等
其他	一八、〇〇〇	
計	一、二五二、〇〇〇	
輸入		
食料品	二〇八、〇〇〇	米類二千八百萬圓、砂糖六千九百圓 豆類二千四百萬圓等
原料品	七五六、〇〇〇	四億三千萬圓ハ棉花、三千二百萬圓ハ羊毛、四千三百萬圓ハ木材、 千四百萬圓ハ石炭、一億圓ハ肥料、千百萬圓ハ鐵礦
原料用製品	三二四、〇〇〇	曹達三百萬圓、パルプ九百萬圓、鉛錫二千八百萬圓、建築 材料五百萬圓、鋼鐵一億四千萬圓
全製品	三一、〇〇〇	綿布三千百萬圓、自動車五千二百萬圓、機械一億二千百 圓、石油二千百萬圓等

其他

一三、〇〇〇

計

一、六一四、〇〇〇

斯ウ云フ數字デアリマスカラ、八十四億圓ノ生産總額中約十三億圓バカリ輸出
サレルノデアアル、僅ニ七分ノ一位ニナルガ、之ニ對シテ十六億圓ノ輸入ヲ受ケテ居
ルカラ、差引ノ差額三億六千萬圓ガ輸入超過ノ額デアリマス、右ハ大正十年ノ數字
デアアル、此一年ノ數字ヲ以テ斷言ヲ爲スノハ適當デアリマセンケレドモ前後ノ多
年モ略ボ之ニ類スル計數デアアルコトハ爭ハレナイ、ソコデ是レニ依ルト、日本ハ原
料輸入ト製品輸出トガ共ニ多イト云フコトガ出來ル、特ニ製品ノ中ニ半成品マデ
加ヘテ計算スレバ製品輸出ハ十億圓デアアルガ、原料ヲ是レ丈ケ輸入シテ是レ丈ケ
製品ヲ輸出シテ居ルカラ非常ニ工業ガ發達シテ居ルトハ言ヘナイ、何トナレバ製
品ノ大部分ハ半成品デアアルカラデアリマス、去リトテ原料輸出、製品輸入國デモナ
イ、原料ヲ多ク輸入シテ製造品ヲ少シ輸出シテ居ル國ダト言フノ外ハナイ、全製品
ヲ少シ輸出シテ居ル國デアアル、工業國デアアルガ半成工業國デアアル、
更ラニ私シ一個ノ見解デ別ノ分類ヲ採ツテ見マスルト、ソレハ貿易品ヲ衣食住

品及其他ニ分ケルノデアリマスガ略ボ左表ノ様ニナリマス

	輸出額	輸入額
食品	六二(百萬圓)	一二八(百萬圓)
肥料	—	九四
住用品	一三三	一四二
衣用品	七二一	五二七
金屬機械	三〇	三二八
計	九四六	一、二一九
其他	三〇六	三九五
合計	一、二五二	一、六一四

先ヅ食料品ニ於テハ輸出ヨリカ輸入ガ多ク、國民消費ニ對シテ自國ノ食料品ハ一億圓カラ足りナイコトヲ示メシマス、而モ尙ホ此ノ外ニ此食物ヲ拵ヘルノニ必要ナル原料即チ肥料輸入ガ一億圓バカリアル、豆粕其他ノ肥料デアリマス、結局食料關係ニ於テ我國ハ二億圓ノ不足ヲ感ジテ居ルノデアアル、夫レカラ住居用品例ヘ

バ木材、石炭、燃料、石油、紙、マツチ等デハ輸出ト輸入、略相比肩シテ格別ノ不足ヲ見ナイ、ソコデ最後ニ衣用品ニナルト日本ハ生糸及絹布ヲ五億二千萬圓輸出シテ、棉花ノ四億三千萬圓ヲ仕入レ、羊毛ノ三千萬圓ヲ仕入レ、苧麻ノ一千萬圓ヲ仕入レ、鐵鑛ノ千百萬圓ヲ仕入レ、而シテ之レニ加工シテ綿糸、綿織物及毛織物ヲ再輸出シテ居ルト云フ勘定デアリマス、其結果衣用品全體ニ於テハ輸出ガ七億デ輸入ガ五億ニナルノデアアルカラ茲デ二億圓ノ儲ヲ見テ居ルコトニナリマス、是レハ皆ナ生糸ノ御蔭デアルト云ハネバナリマセン、生糸ガ元ニナツテ居ルカラデアリマス、此衣用品輸出ノ二億圓ノ儲ケガ丁度食料關係品輸入ノ二億圓ノ不足ニ對シテ相殺スルト云フ狀況デアリマス、故ニ我國ノ貿易ガ以上ノモノ丈ケデ濟メバ輸出入平均デ損得ナシデアリマスガ、トコロガ事實ハ尙ホ其外ノモノガアル、其レハ鐵錫鉛機械等デアツテ機械類ニ少許ノ輸出ハアリマスガ輸入ハ非常ニ多ク二、三億圓ノ入超ヲ常ニ示メシテ居ル、從テ全貿易ハ二、三億ノ圓輸入超過ヲ示メスノデアアル、此關係ガ何ントカナツテ往カナケレバ輸入超過ノ大勢ハ動カナイ、要スルニ八十四億圓ト云フ我生産總額ハ大變ナモノデアアルガ、殆ンド皆ナ使ヒ盡シテ其中ノ僅カ十二

億幾ラト云フ物ヲ輸出シテ居ルノミデアアル、斯ノ如キ状態デ衣食住品ハ食料品デ
 サイ足リナイ、是レヲ救ツテ居ルモノハ何かト云フト、何ト云フテモ生糸デ、生糸ガ
 貿易ノ骨子デアアル、此生糸ガアルカラ棉花ガ買ヘル、羊毛、鐵礦等モ買ヘル、故ニ皮肉
 ニ云ヘバ日本ノ紡績會社ノ原料ハ棉花デハナイ、鐵工所ノ原料モ鐵デハナイ、毛織
 物會社ノ原料モ羊毛デハナイ、皆ナ何レモ生糸デアルト云フトニナル、日本ノ産
 業及貿易ヲ通ジテ生糸生産ハ非常ニ重大ナル關係ヲ有シマス、日本ガ興ルカ廢タ
 ルカ、興廢ノ岐ルル鍵モ此生糸ニ繫ツテ居ルノ感ガスル、以上ガ産業ト貿易トノ關
 係デアリマス、而シテ結論ハ日本ハ生産總額八十四億圓ノ消費ヲ以テ尙ホ足ラズ
 其上ニ外國品二三億圓ノ輸入超過ヲ仰イデ居ル、故ニ日本全國民ノ消費總額ハ合
 計八十七億圓ニ達スト云フトニナリマス、是レガ日本ノ經濟生活全體ノ暮シデ
 即チ總勘定デアリマス、此總勘定ガ如何ニ國民諸階級ノ間、就中資本家ト勞働者ト
 ノ間ニ分配サルルカハ分配論トシテ後ニ説クベキ問題デアリマス、
 貿易政策ノ主義カラ見テ貿易ハ又々自由貿易ト保護貿易トノ二種ニ區別サレ
 マス、國際間貨物ノ出入ニツイテ課稅其他ノ制限ヲ加ヘズ、所謂國際經濟上ノ障壁

ヲ撤去シテ自由ニ出入サセル貿易ガ自由貿易デアリマス、是ニ反シテ保護貿易ハ
 國內ノ産業ヲ保護スル意思ヲ以テ外國品ノ競争ヲ防グベキ課稅其他ノ制限ヲ加
 フル貿易デアリマス、其制限方法ハ主トシテ外國品ノ輸入ニ對シテ禁止若クハ高
 イ稅率ヲ課スルノデアアル、要スルニ自由貿易ハ貿易ヲ自由ニシ、保護貿易ハ貿易ヲ
 制限スルノデアリマス、之レハ昔カラ非常ニ問題トナツテ居ルノデアリマシテ理
 論モ實際モ種々變化シテ居リマスカラ、其孰レヲ可トスベキカニ付テ一刀兩斷的
 ノ論定ハ出來ナイノデアリマス、國ニ依リ時代ニ依リ場合ニ依リ自由貿易ガ利ナ
 ルコトアリ保護貿易ガ利ナルコトモアリトスルノガ先ヅ一番妥當ナル見解デア
 リマセウ、今ヤ廣キ世界ノ各國ニ於テ眞ノ自由貿易ヲ取ツテ居ル國ハ英國ノミデ
 アリマス、序デニ申シマスガ今日ニ於テハ自由保護ト云フトハ主トシテ輸入ニ
 付イテ分ケマス、輸出ノ方ハ各國共文明國ハ皆大抵自由ニシテ居リマス、國產ヲ自
 由ニ外國ニ輸出サセルト云フトハ保護貿易論者モ國內産業ノ保護ニナルカラ
 ト云フノデ賛成スルシ、自由貿易論者ハ無制限ノ自由ダカラ無論賛成デアリマシ
 テ輸出ノ自由ニハ何人モ異論ナク各國共採用シテ居リマス、故ニ問題ハ主トシテ

輸入ノ方ニアル、輸入ニ付キマシテモ原料品輸入ノ自由ハ國內工業ノ發達上カラ大體保護貿易論者モ賛成スル、併カシ夫レハ工業保護論者デアリマシテ、農業保護論者ニナリマス、ト彼等ハ却テ之カ爲メ國內農産物ノ競争ニナルカラト云フノデ反對スルノガ常デアル、例ヘバ外國ノ米ナドガ無税デ入ツテ來ルノハ國內ノ米價ヲ下ゲルカライカスト反對シマス故ニ保護貿易論ハ農業ト工業トノ間ニ一致シナイ所ガアリマス、ケレドモ大體ニ於テ原料品ノ輸入ト云フコトニツイテハ無税即チ自由ニスルノガ良イト云フ説ガ多イノデアリマス、ソコデ問題ハ製造品ノ輸入ニ對スル場合ガ最モ重大ニナツテ居リマス、ソノ製造品ノ輸入ニ對シテ新ニ課税シ若シクハ税率ヲ從來ヨリ高クスルノヲ良イト云フノガ保護論者デ、其レヨリ低ク若シクハ無税ニスルノヲ良イト云フノガ自由論者デアリマス、コノ點ニ付キマシテ英國デハ七、八類ノ海外品ニ輸入税ヲ課シテ居ルガ、夫レデモ英國ハ自由貿易デアアルノカ、矢張り保護貿易デハナイカト云フモノガアルカモ知レナイガ、ソウデアリマセン、實ハ七、八類ト云ヒマシテモ其レハ大類デアリマシテ細カニ分ケマスト二十七、八種ニナルノデアリマス、例ヘバ砂糖ト云ツテモ色々ノ種類ガアツテ

數種ニ分類サレテ居ルカラデアアル、唯ダ大類別ノ名前デ云フト七、八類ニナルノデアリマス、此ノ七八類ハ非常ナ奢侈品及ビ殖民地品デアリマス、茶デアルトカ、ココア、デアルトカ、煙草トカ、砂糖トカ、絹布トカ、左ウ云フモノバカリデアリ而カモ皆ナ國內ニ出來ナイモノバカリデアリマス、カラ別段ニ國內ノ産業ヲ保護スルト云フ意義ハナイ譯デアアル、斯ウ云フノハ財政關稅ト云フノデ、收入ヲ得ル爲メノ稅デア、ル、産業ヲ保護スル爲メノ稅トハ云ヘス、サウ云フ譯デ英國ハ自由貿易國デアルト云ハルルノデアリマス、英國以外ノ國ハ未ダココマデ行ツテ居リマセン、佛、米、獨、伊、何レモ高イ關稅ヲ多數ノ輸入品ニカケテ産業保護ヲナシテ居リマス、尤モ奢侈品非衛生品ニツイテハ幾ラ高稅ヲカケテモ保護關稅トハナリマセン、是レハ該産業ヲ保護スル目的アリトハ云ヘス、カラデアアル、ソコデ日本ハ何ウカト云フニ近來段々ニ保護貿易ノ品物ガ多クナツテ來マシタ、故ニ無論眞ノ自由貿易國デハナイケレドモ貿易全體カラ云ヘバ、マダ保護貿易國ト云ヘルカドウカ疑問デアリマス、先ヅ輸出ニツイテハ總テガ無論無税デアリマス、輸入品ニ付テモ原料品、材料品、機械類ハ大抵無税デアリマス、然ルニ此等ノ原料品、材料品タル棉花、羊毛、鐵、及肥料ノ如

キハ我輸入全貿易ノ過半ヲ占メテ居リマス、故ニ無税ノ輸入品ガ仲々多イ額ニ上
ボツテ居リマス、例ヘバ輸入ガ十六億圓アルトシテモ十億圓ガ無税デ六億圓位シ
カ有税品ハアリマセン、而カモ此ノ有税品中ニハ、酒類、煙草類及高貴ノ奢侈品ガア
ル、此等ハ國內ノ産業ヲ保護センガ爲メト云フ目的デ高率ヲ課スルノデハナシ、英
國ノ例ニ依レバ單ニ財政關稅ニ過ギヌモノデアリマス、

我國デ保護貿易品ノ最モ著シイノハ米、砂糖、織物、染料、綿糸、石油及製鐵等デアリ
マス、何ウシテ其レヲ知ルカト云ヘバ、保護貿易ノ要件ハ第一ニ内デハ何ノ税モ
カケナイノニ外國カラ來ルノニ對シテ關稅ヲカケルコトデアル、米ヤ綿糸、染料製
鐵ナゾノ關稅ハ其レデアル、夫レカラ第二ニハ内デ課稅シテ居ルガ、其レヨリモ高
ク關稅ヲ課スルコトデアル、右ハ何レモ保護貿易デアリマス、之ニ依ツテ石油ヤ砂
糖ヲ見マスルニ此等ハ内ニ砂糖消費稅ガアリ、石油消費稅ガアリマス、併シ外國カ
ラ來ル物ニハ此消費稅ト同ジ消費稅ヲカケテ、ソノ上ニ五割位ノ關稅ガカカツテ
居リマス、ダカラ確カニ保護貿易トイハナケレバナラヌ、内ノ砂糖稅、内ノ石油稅
ヲ助クル爲ト言フノ外ハナイカラデアリマス、關稅ノ問題ニツイテハ、マタ別ニ商

業政策トカ他ノ學科ノ方デ多ク論述スル様デアルカラ私ハ詳シク茲ニ述ベマセ
ンデ唯原理的ノ事ニ止メマス、サテ夫レデアリマスカラ、日本ノ貿易ハ果シテ保護
貿易ト云フコトガ云ヘルカ何ウカ、全體カラ見レバ保護貿易ノタメニ關稅ヲカケ
テ居ルノハ餘リ多クアリマセン、サウ云フ事實ニナツテ居リマス、

保護貿易ノ結果ハ國內ノ物價ヲ高クスルノデアル、從ツテソノ物品ヲ生産スル
者ハ利益ナルモ其レヲ原料ニシタリ消費シタリスル人々ハ之レガ爲メニ苦シマ
ネバナラヌ故ニ、國內資本ノ保護ヲ目的トスル資本主義的施設デアル、少クトモ保
護關稅ハ一時一般ニ高キ消費ヲ強イルノデアル、デスカラ保護貿易ノ條件ハ短期
間ノ實施ト云フコトニアル、成ルベク保護ノ期間ヲ短クシテ以テ一般消費者及使
用者ニ高キ使用ヲ強ユルノ期間ヲ少ナクシ、此ノ短キ期間ニ於テ保護ノ下ニ銳意
技術及組織ノ改良ニ努メサセ、品質ヲ改善シ生産ヲ増加シ、總ガテ速ニ保護ヲ撤去
シテ自由貿易ノ下ニ長ク豊富ノ供給ヲ國民ニ與ヘル様ニスルノデアル、是レガ眞
正ナル保護貿易デアリマス、故ニ保護關稅ノコトハ教育關稅ト云フノデアリマス、
未ダ幼稚デ十分ニ發育ノ出來ナイ間丈ケ保護シテ、總ガテ一人前ニナツタナラバ

自由貿易ヲ恢復シテモ、モウ外國品ノ競争ニ負ケナイ様ニスルノデアリマス、保護ノ下ニ技術ヤ組織サヘ發達スレバ、何ウシテモ自國デ出來ルト云フ丈ニ市場ニ對スル距離ガ近イ、其ノ近イ丈ケハ外國品ヨリモ安價ニ賣レルニ相違ナイノデアリマス、斯クテ外國品ノ競争ニ負ケズ國內市場ニ於テ低安ニ供給シ得ル様ニナレバ、茲ニ始メテ國民ハ生産及消費上ノ脅威ヲ脱シ永ク其效果ヲ享ケラルルノデアアル、斯ウ云フ譯デアルカラ保護貿易ハ有限的デナケレバナラス、永久ニ保護關稅ヲ存スト云フコトハ保護其者ノ本義ニ反スルモノト云ハネバナリマセン、國民ハ關稅ノ爲メ暫クノ間高消費ヲ忍ンデ吳レヨ、ソノ代リニ後デ長ク低安ノ消費ヲ得サセ、ルカラト云フ其ノ約束デ保護貿易ハ存在ノ意義ガアリ、生命ガアルノデアリマス、幾ラ保護シテ行ツテモ到底發達ノ見込ガナイモノヲ何時マデモ保護スルト云フコトハ斷念セネバナラス、例ヘバ日太ノ銑鐵ニ對スル保護關稅及食鹽ノ保護專賣ノ如キハ考ヘモノデアリマス、殊ニ我國ノ如キ位地ヨリ考ヘテ見マスト云フト何ウシテモ原則トシテ自由貿易主義ヲ取ルト云フコトガ必要デアリマス、我國ノ領土ハ狹イ到底自分ノ國ノ領土丈ケデ自給自足ハ出來マセン、大キイ國デアレバ原

料地モ販路モ自國內ニ在ルカラ自國ノ工業ヲ保護スルト外國カラ工業品ヲ仰グコトナク又々外國ヘ賣ル必要モナイ、自分ノ國ダケデ立ツテ行ケル、米國ナドデ保護貿易ヲ取ツテ行クノハ自給自足ノ理由ガアリマス、併シ是ニ反シテ日本ノ如キハ保護貿易ヲ取ツテ行ツテモ到底自給自足ハ出來ナイ、自分ノ國ニ製品ノ販路ハナシ自分ノ國ニ充分ノ原料ハナイ、何ウシテモ外ニ開カナケレバナラス、棉花ニシテモ、米國カラ買フ、印度カラ買フ、支那カラ買フ、而シテ綿系ヲ拵ヘマシモ、ソレガ皆ンナ内ニハ賣レ切レナイ、半分ハ外ニ出ス、南洋ナリ支那ナリ、細糸ニシテ、或ハ綿布ニシテ出シテ行カナケレバナラス、内ニハソレ丈ケノ販路ガアリマセンカラデア、ル、大キイ國ト小サイ國トハ其ノ點ガ大ニ違イマス、小國ガ大國ノ真似ヲシテモ到底イカナイ、小國ハドウシテモ鎖國保護ヨリカ開國自由ガ良イ、此方モ自由ニ入レ、彼方モ自由ニ入レサセル、互ニ自由貿易ヲ設定シテ、而シテ有無相通ズルト云フコトガ國是トシテ一番適當デアリマス、素ヨリ此レハ大體論デアリマスガ、其デナケレバ日本ノ如キ國ハ立行カナイ、故ニ日本ハ原則トシテ自由貿易ヲ國是トスルノガ宜シイ、自國ヲ經濟的ニ開放シテモ、ソノ代リ内ニ科學的研究、教育ノ普及ヲ圖ツ

テ行ケバ競争上恐ルル所ハナイ、原料モ科學化シ製品モ科學化シ、貿易モ科學化ナセルノデアリマス、殊ニ支那印度ニ對シテハ自由貿易主義ヲ採ルノガ良イ、但シ先方ガ極端ナル保護主義ヲ採ルトキハ問題デアリマス、自分ノ國ダケ自由貿易ニシテ、彼方カラ入ツテ來ル物ハ自由ニシテモ、此方カラ行ク物ガ高イ關稅ヲ掛ケラレルノデハ完全ノ自由貿易ハ行ハレマセン、故ニ大體ノ原則ハ自由貿易デアルケレドモ相手國ガ非常ニ強イ保護ヲスルトキハ、場合ニ依リマシテ相互主義ヲ採ラネバナラス、相互主義ト云フノハ先方ガ自國ニ對シテ行フ様ナ取扱ヲ自國モ先方ノ品物丈ケニ對シテ行フコトデアリマス、併シ出來得ル限り國際平和ノ通義ニ立脚シテ國際間物資移轉ノ自由貿易主義ヲ強調シ之レニ先方ヲ從ハセルマデノ努力ハセネバナリマセン、

場合ニ依ツテハ貿易ノ保護必ズシモ不可デナイガ保護ノ方法ニハ種々アリマス、特別保護ト一般保護トノ二種ハ重要ノモノデアリマス、原則ハ自由貿易デアツテモ例外トシテ保護セナケレバナラス場合ハ注意シナケレバナラス事デアリマス、特別保護ト云フノハ一々事業其物ヲ特定シテ其ノ會社ナリ個人ナリヲ損失ノ

ナイ様ニスル直接ノ補助デアルガ、一般保護ハ之ニ反シ、關稅保護デ何會社ト云ツテ一々指定スルノデハナイ、唯石油ナラ石油、砂糖ナラ砂糖ト云フ如ク貨物ニ對シテ輸入關稅ヲカケテ間接ニ内國一切ノ製糖業、石油業ヲ保護スルノデアリマス、政治的ニ考ヘマスト特別保護ハ仲々弊害ヲ伴フ缺點ガアリマスガ、經濟的ノ考ヲ加ヘテ見マスルト關稅保護ヨリモ特別補助ノ方ガ宜イト云フコトニナリマス、何故サウナルカト云フニ、特別保護ハ其產物ノ價格ヲ高クサセナイ、又タ實ニ其ノ目的デ補助スルノデアリマス例ヘバ染料會社ヲ保護スルニハソノ損益狀況ヲ見テ、何ウシテモ株式ニ對シテ八分ノ配當モ出來カネル場合ニ政府ハ八分ノ配當ヲ補償シテヤルトカ又ハ事業所ノ地租ヲ免ズルトカ營業稅ヲ免ズルトカ云フ保護ヲスル、ソウシテ利益ヲ補助シテヤレバ其ノ出來タ染料ノ價格ハ引上ゲナクテモ外國ノ競争ニ堪ヘ其事業ハ發達スル筈デアリマاستニ政府ハ直接ニ其會社ヲ監督スルコトガ出來マスカラ價格ヲ引上ゲナイ様ニスルコトガ出來マス、然ルニ若シ之ニ反シテ關稅デ保護シマスト總テ國內ニ於ケル染料ノ價格ヲ上ゲサセマス、外國カラ來ナクナル、來テモ關稅ダケ高價ニナルカラ國內染料ノ價格モ一般ニ上リマ

ス、ソウスルト織物工業ヤ塗物業ハ其ノ高イ染料ヲ使ハナケレバナラス、從ツテ織物ヤ建築ナゾマデ高クナラネバナラス、一般ニ累ヲ及ボシテ來マス、且ツ保護關稅ノ弊害ハ普通のニ又々重疊的ニナリマス、普遍的ト云フノハ弊害ガ横ニ延長シテ行クコトデ、重疊的ト云フノハ其レガ堅ニ累増シテ行クコトデアリマス例ヘバ石油業會社ガ關稅保護ノ爲メ石油ノ價格騰貴シテ會社ノ配當ヲ二割ニスルト株ノ價格ハ奔騰シテ五十圓ノモノガ二百圓ニモナツテ仕舞フ、之ヲ買受ケタ新株主ニハ最早ヤ利廻ガ五分ニシカナラス、其レデハツマラヌト云フノデ株主ガ騒ギ出シテ來ルカラ會社ハ政府ニ訴ヘテ復々關稅ヲ上ゲテ貰フト云フ事ニナル、之レガ重疊的ト云フ方デアリマス、普遍的ノ方ハ例ヘバ製鐵工業ガ保護關稅ノ爲メニ鐵類價格騰貴シテ事業ノ繁盛ヲ來タスト之レヲ原料トスル鐵工場、造船業、建築業又ハ此等ヲ使用スル航海會社、家屋及機械業マデガ困難スル、否ナ鐵以外ノ事業デモ勞働ヤ石炭ヤ資金ニハ共通關係ヲ有スルカラ、皆ナ其ノ高價トナル影響ヲ受ケテ間接ニ損害ヲ蒙ルノデ此等ハ皆ナ又々政府ニ訴ヘテ製鐵業ノ如ク、同様保護ヲ受ケナケネバナラスト主張スル様ニナル、夫レデ保護關稅ノ範圍ヲ擴大スル傾向ガ

アリマス、關稅保護ニハ弊害ガ伴フカラ大ナル注意ヲ要スルノデアリマス、出來得ベクンバ關稅ノ保護ヲ避ケテ特別保護デ行クガ宜イト考ヘマス、併カシ出來キ得ベクンバト云フノハ出來ナイ事業ガアルカラデアアル、餘リ全國ニ細カク散在シテ居ル事業ハ到底特別保護ニ適シマセン、少數ノ會社事業ニ纏マツテ居ル事業ニ丈ケ適用シ得ルノデアリマス、直接保護ノ適シナイ場合ニハ關稅保護デアルヨリ外アリマセンガ、ドウシテモ關稅保護トイフモノハ餘リ香バシクナイ、其ノ利害ヲ比較スルト寧ろ害ノ方ガ多イ、考ヘマス、故ニ成ルベク關稅保護ハ撤廢シテ自由貿易ヲ原則トシタイノデアリマス、ソウスルト國際間經濟上ノ障壁ガナクナルノデアリマシテ國際間ハ恰モ國境ガナイト同ジ様ニナリマス、法律的ニハ國境ガアリマシテモ、經濟的ニハ國境ガナクナル、何故ナレバ今日經濟的ニ國境ヲ爲シツツアルモノハ關稅以外ニハナイカラデアアル、入國稅モ人ニ對スル關稅デアリマス、人ト物トハ國際的自由ニ移轉スルコトガ出來テ、人類ハ法律的所屬ノ如何ヲ問ハズ經濟的ニ皆ナ各自ガ尤モ快適ニ暮セルト思フトコロヘ行ツテ暮スノガ最モ自然デアリマス、品物モ餘ツテ安イ所カラ不足シテ高イ所ヘ自由ニ移轉サレテ行クノガ

至當デアリマス斯ウナレバ經濟的ニ人各々其所ヲ得物亦各々其價ヲ得ルト云フノデ是レ實ニ世界平和ノ要諦デアリマス其ノ結果ハ今日ノ様ニ一平方里ニ白耳義ガ六百五十八人英國ガ三百七十五人日本ガ三百五十六人獨逸ガ三百十一人佛國ガ百九十三人支那ガ九十九人米國ガ三十五人露國ガ僅ニ十九人ノ割合ヲ割據シテ居ルト云フ様ナソソナ平均ハナクナツテ來ルノデアリマス世界ノ平和ハ時々戰爭ヲ破ブラレマスガ其ノ戰爭ノ主因ヲ爲スモノハ此ノ人爲的ニ定メラレタ經濟的國境ノ存在デアリマス人口ト地面ト物資トガ鈞合ハナイ人爲的ノ國境ガ拵ヘテアルカラ不自然ノ戰爭ガ絶エナイノデアリマス甚ダ奇激ノ言ノヤウデハアルガ近世ニ於ケル戰爭ノ原因ガ不自然ノ國境ニ在リ人爲的ノ經濟障壁ニアルコトハ疑フ餘地ガナイ問題ヲ各國ノ領土ニ關係スルモノト誤解シテハナラヌ各國ノ政治的領土ハ此儘ニシテ經濟的國境即チ人ト物トノ關稅サヘ撤廢スレバ宜イト云フノデアリマスソウスレバ各國ノ經濟ハ面積ニ比例シテ人ガ住ミソレニ伴ウテ物資モ相應ニ集リ來ル様ニナル人ト物トノ自由ナル移轉サヘ出來レバ相當ノ面積ニ相當ノ人口相當ノ物資ト云フ様ニ夫々適當ノ割合ヲ

得ルデアラウシ左ウナレバ領土變更ノ戰爭ガ起リ得ベキ筈ガナイト云フノデアリマス此ノ經濟的不自然ノ國境ヲ現在ノ儘ニシテ居イテ國際間ニ戰爭ヲ絶チ永久平和ヲ期セントシテモ夫レハ到底不可能ノ事デアリマス此點カラ考ヘテ見マスト此ノ關稅問題ト云フモノハ國際平和問題ニ至大ノ關係ヲ有スルモノデアアル彼ノ米國ウゐるそん氏ガ始メ提唱シタ十四ヶ條ノ中ニハ經濟的障壁ノ撤廢ト云フ條項ガ入レテアツタソレハ必シモ關稅ノコトノミヲ意味シタモノデナイカモ知レマセンガ人ト物トノ交通取引ニ障壁トナル現行制度就中關稅ノ廢滅ヲ第一トシタルニ相違ナイ然ルニ先生ハ到頭之レヲ巴里ノ平和會議ニ持出シ得ナカツタ之レガ持出セナイ位ダカラ到底國際間ノ恒久平和ナゾハ期セラレナイ從テ之レガ挿入ヲ遂ゲナカツタ國際平和聯盟ノ締結ハ始メカラ失敗ト言ハナケレバナラヌノデアリマス之レガ出來テ居ツタラ軍備縮少モ何ニモ要ラナイ何故カト言ヘバ今日各國デ尨大ノ軍備ヲ維持シ居ラルルノハ各國ニ巨額ノ關稅及消費稅收入ガアルカラデアリマス若シ關稅ガナクナレバ消費稅モ存シテ置ケナイ關係ニナリマス關稅ナキ後ハ外國カラ品物ガ續々輸入サレテ國內ノ生産ハ競争ヲ受ケ

テ消費税ノ負擔ニ堪ヘル餘地ガ無クナルカラ、消費税モ廢サナケレバナラズ從テ各國ノ歳入ハ減少シ尤大ナル軍備ヲ縮少スルノ外ナイ事ニナリマス、要スルニ關稅ノ撤廢ハ消費税ノ撤廢ヲ意味スル、關稅ト消費税ガ撤廢サルレバ國家歳入ノ半分以上日本デ言ヘバ國庫收入ノ五割四歩ハ消失シマス、イヤガ應デモ必然的ニ軍備ハ各國皆一樣縮少サレマス、然ルニ此等ノ兩税ヲ廢減セズニ軍備ノミヲ縮少セヨト強制シテモ甚ダ覺東カナイ、素ト素ト資金ガ豊富デアツテハ形式上ノ縮少コソ表面的ニ爲シマセウガ實質上ハ種々ノ名義ヤ方法ニ於テ軍備ヲ充實スルニ相違アリマセン、條約批准後直チニ實行シナグトモ他ノ名義デ基金積立ヲ爲シ他日一舉ニ擴張ヲ急施スルコトモ出來マス譯デアアル、關稅ノ存廢ト軍備ノ張縮トハ斯ノ如ク密接ノ關係ガアルノデアリマス、夫レヲ彼ノういるそん氏ハ平和會議ニ提出シ得ナカツタノミデナク、其ノ正反對ニ彼レノ心ニモナキ米國もんろウ主義ノ條項ヲ自國民ノ強要ニ依ツテ聯盟規約ニ挿入スルノ已ムナキニ至ツタト云フハ茲ニ遺憾ナク學究政治家ノ薄志弱行ガ現實ヲ暴露シタ次第デアアル、もんろウ主義トイフハ米國ノ鎖國主義デアツテ國際經濟自由主義ノ正反對デアアル、ソレデ海洋

ノ自由ハ英國ニ一蹴サレ、陸軍ノ制限ハ佛國ニ防止サレ、無合併無賠償ハ滅茶々々ニナツテ謂ユル戰爭防止永久平和ノ國際聯盟ガ形式的ニ成立シタガ、夫レハ自國ニサヘ批准サレナイト云フ不始末ニ終ツタコトハ實ニ世界未曾有ノ大奇劇デアツタ、少シク餘談ニ亘ツタ様デスガ、要スルニ關稅問題ハ國際平和問題ト重大ナル關係ガアルト云フコトヲ説明シタノデアリマス、

貿易ノ結果ハ國際貸借ノ變更ヲ來シマス、商品ノ輸出ガ輸入ニ超過スレバ國際上ノ債權國ニナリ輸入ガ輸出ニ超過スレバ國際上ノ債務國トナル、尤モ國際貸借ノ關係即チ債權、債務ハ商品貿易上ノ差額カラノミ生ズルモノデハナイ、國際間ノ金融貸借即チ資本貿易ノ差額カラモ生ジマス、此意味ニ於テ戰前ハ英國、佛國、獨逸、白耳義ノ如キハ世界ノ債權國デアリマシタガ、大戦ヲ經テカラ後チハ全然反對ニナツテ今ハ大ナル債務國ニナツテ居ル、之レニ反シテ戰前債務國デアツタ米國、日本、西班牙、和蘭ノ如キハ今ヤ却テ債權國トナツタ形デアリマス、日本ハ商品貿易上ニ於テ今日ハ債務國デナリマスガ、資本貸借ノ上ニ於テハ債權國ノ位地ニアルト云ヘル、但シ大震災後ハ商品及資本ノ兩貿易トモニ債務國トナルデアラウ、斯クテ

國際間ニ生ズル貸借關係即チ債權及債務ハ如何ニシテカ之レガ決濟ヲ爲サネバナラス、若シ決濟ヲ爲サナケレバ國際間ノ通商ハ杜絶シテ仕舞フノガ必然デアリマス、然ラバ此ノ國際貸借ノ勘定ヲ如何ニ決濟スルカト云フニ、國內商業ノ決濟ト國際通商ノ決濟トハ同様ニ行カヌ、國內デハ借モ貸モ同一ノ通貨ヲ以テ決濟スルノデ圓ニ圓ヲ支拂ヘバ宜イノデアアルガ國際間ニ於テハ異ツタ通貨デコレガ決濟ヲ付ケナケレバナラヌノデアリマス、例ヘバ日本ガ米國カラ輸入超過ヲ受ケテ、其債務ヲ支拂ハナケレバナラヌト云フ場合ニ自國ニ流通シ居ナイ米國ノ弗貨ヲ以テシナケレバナラヌ又タ日本カラ英國ニ對シテ貸ガ出來ル、ソレハ圓ノ貸デアアルカラ英國ハ圓デ拂ハナケレバナラヌ、然ルニ英國ニハ日本ノ圓貨ガナイ、ソコデ日本ハ英國カラ磅ヲ受取り米國ハ日本カラ圓貨ヲ受取ツテモ其儘之ヲ自國內ノ仕入代價ニ用ユル譯ニハ行カヌ、然ラバ何ウシテ此ノ貸借兩國間ノ決濟ヲスルカト云フニソノ方法ハ二ツヨリ外ニハナイ、其レハ現送法ト爲替法デアリマス、何レカラ話ヲシテモ良イノデスガ、日本ガ米國カラ輸入超過ヲ受ケテ日本ニ流通セヌ弗貨ノ支拂ヲセネバナラヌ場合ヲ假定スルト日本デハ日本ノ圓貨ヲ潰シテ地金ト

シテコレヲ米國ヘ輸送シテ造幣局デ弗ニ改鑄シテ貰ツテ支拂ヲスル之レガ現送法デアリマス、現金送即チ地金輸送デアリマス、圓貨ヲ潰ブシテ地金トスルト言ツテモ日本ハ金貨ガ實際ニ流通シテ居ラヌガ、何ウスルノデアアルカト云フ疑問ガ起リマス、其レハ實際斯ウナルノデアリマス、例ヘバ米國カラ棉花ヲ日本ノ紡績會社ガ買ツタトシマス、會社デハサウ金貨ヲ持ツテ居ル譯ガナイ、唯ダ綿絲ヲ賣ツテ地方各地カラ集マツテ來タ兌換券ヲ有シテ居ルバカリデス、ソコデ會社ハ之レヲ日本銀行ヘ持ツテ行ツテ兌換シテ貰フ、而シテ金貨ヲ受取ル、其ノ金貨ハ別段潰サンデモ國境ヲ出レバ最早ヤ地金デアアルカラ其儘ニ米國ヘ現送スルノデアアル、是レガ現金輸送デアリマス、輸送シテ水國ノ造幣局ヘ持ツテ往イテモ或ハ米國ノ銀行ヘ持テ往イテモ別ニ改鑄ナゾ待ツノ要ハナク、地金相當ノ弗貨即米國銀行兌換券ヲ渡シテ呉レマスカラ、ソレデ先方弗貨債務ノ仕拂ヲ決濟スルコトガ出來マス、モウ一ツノ方法ハ爲替法デアツテ、是レハ日本ノ兌換券ヲ日本銀行デ兌換セズ其兌換券ノ儘デ國境タル橫濱ノ正金銀行若シクハ外國銀行ニ於テ米國ノ弗貨ヲ買ヒ之ヲ手形デ送ツテ決濟スルノデアリマス、コノ場合ニ日本ノ圓貨ト米國ノ弗貨トガ

互ニ通貨トシテ(相互ノ國境ダカラ)交換サルルコトニナリマス、故ニ爲替ノ定義ハ一國ノ通貨ト他國ノ通貨トノ交換比例即チ價格ト云フノデアリマス、一國ノ通貨ノ對外價格ダト云フテモ宜イ、要スルニ日本ノ圓貨ヲ地金トシテ其儘現送シ先方ノ通貨ニ變シテ先方ノ決濟ニ充ツルノガ現金輸送法デ、日本ノ通貨ヲ通貨トシテ國境デ外國ノ通貨ト交換シ手形デ送金スルノガ爲替法デアルト云フノデアリマス、國境ト云フノハ日本デ云ヘバ橫濱神戸等デアリマスガ、此所ハ外國カラ言ツテモ國境デアリマスカラ此所ニ於テハ日本ノ圓モ通貨トシテノ圓デアリ先方ノモ通貨トシテノ弗デアアル、ソレデ之レガ通貨ト通貨トノ交換ト云ヘ得ルノデアリマス、併カシ外國ノ弗貨ガ何ウシテソナニ多ク橫濱ナゾニアアルヤトノ疑問ガ起ルカモ知レマセンガ正金銀行ヤ外國銀行ニハ現實上ノ弗貨デナイガ勘定上ノ弗貨ガアル譯デアリマス、何故ナレバ第一ニ橫濱正金銀行ハ紐育ニ支店ヲ持ツ、紐育ノ支店ハ預金其他ノ取扱ヘデ弗貨ヲ有シテ居ル筈デ、其レガ正金銀行ノモノトシテ勘定サレマス第二ニ又々橫濱ノ本店デモ日本輸出商カラ弗貨ノ手形ヲ買込メバ弗貨ヲ澤山持ツテ居ル勘定デアアル、帳簿ニハ弗貨トナツテ居リマス、例ヘバ米國ニ

日本カラ生糸ヲ輸出シマスト輸出商ハ弗デ取ル勘定ヲ有スル、之ヲ爲替手形トシテ正金銀行ニ賣リマス、此手形ヲ正金銀行ガ買ツテ弗貨所有ノ記帳ヲ爲シマス、斯ウ關係デ常ニ正金銀行ハ弗貨所有ノ勘定ガ澤山アリマス、ソコヘ他方ノ輸入業者ナゾハ兌換券ヲ以テソノ弗ヲ買ヒニ行ク、茲デ圓貨ト弗貨トガ相對シテ交換即チ賣買サルルト云フコトニナルノデアリマス、要スルニ國際貸借上ノ決濟法ハ現送法ニヨルカ、爲替法ニヨルカ此ノ二者ヨリ外ニハナイ、左レバ現送法ガ多ク行ハレルバ爲替法ノ要ハ少クナリ爲替法ガ多ク行ハルレバ現送法ノ要ハ少クナル、然ウシテ外國ノ通貨ガ高ク自國ノ圓ガ安クシカ賣レヌトキハ現送法ニ依ツテ決濟スルガ利益デアアル、併カシ種々ノ事情デ此ノ現送法ガ出來ナイト外國通貨ノミ高クナツテ自國ノ通貨ハ益々安クナル、我國ハ今マ金ノ輸出ヲ禁止シテ居ル、其レデスカラ兌換券ヲ持ツテ行ツテ日本銀行カラ金兌換ヲシテ貰ツテモ之ヲ外國ヘ現送スルコトガ出來ナイ、現送法ニ依レナイカラ爲替法ニヨルヨリ外ハナクナツテ居リマス、國際ノ決濟ガ爲替法ノ一途ニ依ツテ外國通貨ヲ買ハネバナラヌトナルト其ヲ商賣ニシテ居ル橫濱正金銀行ノ如キ爲替銀行ハ、言ヒ成リ次第ニ外國通貨ヲ

高ク賣ルコトが出来キマス故ニ唯今ハ爲替銀行ノ独占状態デアリマス、從ツテ海外ニ留學シテ居ル倅ニ送金シヤウトスル親ナゾハ堪マラナイ、幾ラ不利デモ現金輸送ハ出来ナイカラ爲替銀行へ行ツテ頭ヲ下ゲテオ願ヒヲシテ銀行ノ指定通りニ高イ値段段デ磅ナリ、弗ナリヲ買ツテ手形ニシテ貰ツテソレヲ倅ノトコロへ送ラネバナラス、此等ハマダ金高ガ少ナイカラ宜イトシテモ彼ノ機械ヤ原料ヲ輸入シテ其代價ヲ送ラネバナラス商工業者ノ如キハ非常ノ不利ヲ受ケマス、ソレデ今此方面ノ苦情ガ多イノデアル、若シ金輸出ノ禁止ガ解カレテ現金輸送が出来レバ地金デ決済スルカラ爲替ハ回復シテ有利ニナリマス、尙ホ爲替ニ關スル説明ハ多々アリマスガ、其ハ後ノ爲替相場論デ詳論スルコトニ致シマス、茲ニハ唯ダ國際貿易ニ關連スル貸借決済ノ方法トシテ爲替ノコトニ言及シタニ過ギマセン、

第八章 價值

愈々經濟ノ眼目デアル價值論ヲ述ブル順序ニナリマシタ、價值ノ問題ハ經濟原理及政策ノ全面ヲ蔽フ所ノ核心デアリマスガ、順序トシテハ此所ニ述ブルノガ最も適當デアル、既ニ産業ヲ説キテ物資ガ生産セラレ、更ラニ貿易ニ依リテ物資ガ輸入セラレ、茲ニ國民ノ使消スベキ一切ノ物資ハ出来上ガルコトトナツタ、價值ハ此等物資ノ上ニ成立スルノデアル、此レカラ此等ノ物資ガ一國ノ富ヲ成シ(價值ノ形ニ於テ)現行私有制ノ下ニ於テハ交換サレ分配サレテ社會各人ニ消費サルルノデアルガ其レハ物資其物デ取扱ハルルノデナクテ、富ハ價值デ計算サレ交換ハ價值ノ比較デ行ハレ、分配ハ價值ノ分割トシテ、消費ハ價值ノ減却トシテ取扱ハルルノデアルカラ、先ヅ物資ノ價值付ケガ必要デアル、即チ經濟ノ過程中デ此レ迄ハ主トシテ物資其モノノ問題バカリデ、價值ガ生ズル前ノコトデアツタガ、此カラ後ノ經濟過程ハ價值ガ物資ノ上ニ成立シ、成立シタ價值ノ變化ニ關スル問題デアリマス、其レ故ニ此所ニ於テ價值ノ説明ヲ開始スルコトニシタ、

値ニ關シテ認識ノ語ヲ以テスルノハ未ダ眞味ヲ盡クスニ足りナイ感ガスル、價值ハ認識ノ程度ヨリカ、モウ少シ強イ意義ヲ有シテ居ル、認識デハ物ノ有スル效用即チ性能ヲ有リノ儘ニ認メル丈ケニ聞エル疑ガアル、四角ノモノヲ四角ト認メ、白キヲ白シトシ、甘マキヲ甘シトスルニ過ギナイ、斯カル單純ノ認識ハ價值ニナラナイ、價值ニハドウシテモ批判トカ尊重トカノ意義ガ附カネバナラヌ、即チ欲求的批判又ハ欲求的尊重デナケレバナラヌ、其レニ付テ我國ニハ好都合ノ字例ガアリマス、其ハ甘ノ字デアリマス、此字ハあまいトモ訓シマスガ又タうまいトモ訓シマス、あまいハ物ノ性質又ハ效力トニ對スル認識デ、うまいハ認識以上ノ批判デ且ツ欲求的尊重デアルト解セラレマス、要スルニうまい、まづい、善イ惡ルイ好ク、好カヌ、ト云フ批判ニ依ル選擇即チ尊重デナケレバ價值ニナラヌ、唯ダ性質效力ノ有ノ儘ヲ認メルト云フ丈ケデハ價值デハナイ、其レ故ニ價值ノ概念トシテ認識ト云フ言葉デハ足りナイト考ヘル、然ラバ如何ナル定義ガ宜イカト云フニ尊重トカ必要ト云フ言葉ヲ入レテ且ツ物心兩關係ヲ示ス所ノ定義デナケレバナラヌ、此見地ニ依リマシテ「價值トハ物ノ效能ニ對スル人類生活上ノ必要感デアルト」ト云フノガ比較的適

當デアルト思料シマス、即チ人ガ生活上ノ不足カラ起ル物質的慾望ヲ以テ物ノ性能ニ觸レテ其上ニ感ズルトコロノ必要度デアルト云フノデアリマス、

次ニ價值ノ要素ヲ述ブルノデアアルガ、既ニ價值ノ定義ガ前段ノ通りデアリマスカラ之ヲ分析シマスレバ自ラ二ツニナルコトガ解カル、即チ人ノ生活慾望ト物ノ性能デアリマス、コレヲ價值成立ノ二要素ト稱シマス、物ノ性能ノミニテハ價值ハ發生ゼス、又タ人ノ慾望ノミニテモ價值ハ生ジナイ、物ノ性能ト人ノ慾望トノ接觸ニ依リテ物ノ價值ハ發生スルノデアアル、故ニ價值ハ物ニ存スルモノデハナクテ物ニ生ズルモノデアリマス、否ナ成立スルモノデアアル、左レバ物ノ種類ヲ始メカラ價值アルモノ(財)ト價值ナキモノ(非財)トニ分ツコトハ誤ツテ居ル、強イテ之ヲ分別シテモ價值ハ忽チ變ハルモノデアアル、例ヘバ昨日マデ價值アリタル物モ今日ハ無價值ノ物トナルコトガアル、即チ物ハ不變デモ價值ハ可變デアアル、價值ヲ不變ト考フルハ物トノ混同デアアル、要スルニ人ノ慾望ト物ノ性能トカラ、價值ガ出來上ルノデアアル、此ノ價值ガ出來ナイ内又ハ出來テモ失ハレタトキハ唯タ物ト云ヘ置クノ外ハナイノデアアル、人欲ト物能、此二者ガ價值ノ成立要素デアアルガ此ノ二要素ノ間ニ

ハ形式ト素材トノ區別ガアル、コノ區別ヲ之レカラオ話スル、

先ヅ人欲ト云フノハ人類ノ物質生活上ノ慾望デアアルコトハ既記ノ如クデアアルガ、其レハ物質ヲ欲求スル意力デアアル、此ノ欲求ノ意力ハ通例物質ノ不足カラ起ル、此意力ノ強弱デ價值ハ決定サルルガ、此ノ意力バカリデモ價值ハ出來ナイ、人ノ慾望ニ適應スル様ナ性能ヲ備ヘテ居ル物質ガ人ノ前ニ現ハレナケレバ價值ハ生ジナイ、次ギニ物能。即チ物ノ性能ト云フノハ物ノ有スル性狀能力デアツテ品質、作用、形狀、位地ノ如キ理化學上ノ物質的素材デアアル、例ヘバ方圓、黑白、甘酸、軟硬、所在ノ如キ物的事實デアアル、勿論此等ノ性能バカリデハ價值ハ生ジナイガ、此等ノ事實ヲ基礎トシナケレバ價值ハ成立シ得ナイ、故ニ順序ハ斯ウナル、例ヘバ砂糖ノ如キ甘キ物ニ付テ云ヘバ先ヅ甘キ性能ガ物ノ方ニアツテ、ソシテ其上ヘ人ノ心ノ方ニ甘キヲ欲スル慾望ガアツテ、ソレデラまいト云フ批判ノ價值ガ生ズル、否ナ成立スルノデアアル、故ニ兩者ガ成立ノ要素デアアルガ物ノ性能ハ價值成立ノ基礎的要素即チ素材デアツテ人ノ慾望ハ價值成立ノ決定的要素即チ形式デアアル、左レバ價值ハ物ノ性能(物能)カラ始マツテ人ノ慾望(人欲)デ決定スルモノデアアルト云フノガ正當デア

ル即チ哲學的ニ言ヘバ物能ハ價值ノ素材デ人欲ハ其ノ決定形式デアリマス、要スルニ價值ノ基礎的要素ハ物能デアリ、之ニ對スル決定的要素ハ人欲デアアル、結局人欲デ價值ノ形式ハ決定サルル、即チ人欲ガ強ケレバ價值ハ大ニ、人欲ガ弱ケレバ價值ハ小ナリト云フコトニナル、故ニ形式デ云ヘバ價值ハ主觀ノモノデアリマス、是レ此ノ價值ガ主觀的價值ト稱セラルル所以デアアル、

茲ニ問題ガアル、夫レハ數量ト價值ノ關係デアリマス、物ノ數量ハ價值ニ大ナル關係ガアル様ニ考ヘラレル、物ノ數量ガ多ケレバ價值ガ減ジ數量ガ少ナケレバ價值ガ高マルト云フコトハ一般ノ認ムル所デアアル、左レバ普通ノ經濟學說デハ價值アル物ノ要件トシテ有用性(物能)ノ外ニ有限性、又ハ稀少性ナルモノ、即チ不足セルコトヲ數ヘテ居ル、何故ニ之ヲ價值ノ要素中ニ入レナイデアアルカ、ソレトモ物能ト云フ中ニ數量マデ入レテアルノカ、否ナ決シテ物能ノ中ニ數量ハ入ツテ居ラヌ、物能ハ物ノ内容的素材ダケデアツテ、數量ハ物ノ外容的別體デアアルカラ入ラナイ、然ラバ何故別ニ數量ヲ價值要素中ニ屬セシメヌノデアアルカト云フニ數量ト價值トハ反比關係デアアルカラ要素トサレナイ、然ラバ有限性又ハ不足性トシテ何故ニ之

ヲ要素トセヌカト云フニ稀少又ハ不足ト云フコトモ當然ニ價值ヲ生ゼサセ又ハ變化サセルモノデハナイ、第一、稀少又ハ不足ガ價值ヲ生ジサスト云フコトガ可笑シイ、且實際ニモ數量ガ少クナイ爲メニ能ク人ニ能ク知レズ人ノ欲求ニ觸レナイ爲メニ價值ノナイモノガ澤山アル、數ガ少ナイト云フ爲メニ價值カ出來ルト思フノハ間違ヒデアアル、プラチナハ金ヨリ數量ガ少ナイガ數十年前ニハ金ヨリモ安價デアツタ、コレハ當時「ブラチナ」ガ餘リ少クツテ廣ク人ニ知ラレズ其ノ効能及用途ガ今日ノ様ニ解カラナカツタカラデアアル、價值ハ人欲ニ觸レナゲレバ、ドンナ性能アル稀少物デアツテモ生ジナイ、稀少ガ價值ヲ生ゼシムルハ人欲ニ觸レテ人欲ヲ動カスカラデアアル、數量ハ人欲ニ變化ヲ與ヘテカラデナケレバ、價值ニ變化ヲ來ナイ、減少ノ爲メ欲求ガ増サナケレバ、價值ハ高マラズ増加ノ爲メ欲求ガ弱クナツテ、來ナケレバ、價值ハ下ラナイ、ソシテ人欲ハ必ズシモ不足ノ爲メニ緊張シ過剩ノ爲メニ飽弛スルトハ限ラヌ、人欲ハ物ニヨル他動的變化ヲ爲ス外ニ、人欲自身ノ自動的變化モ爲スカラデアリマス、例ヘバ今年ハ豊作デ米ガ五千萬石取レ昨年ニ比シテ一割増デアルトスレバ米ノ値ガ下ガルカト云フニ必ズシモ左ウハナラヌ、若シ

此時ニ人口ガ何カノ事情デ二割増シテ居ツタラ欲望ノ方ガ一割超過スルカラ却ツテ米ノ値ハ一割位下ルカモ知レヌ、要スルニ物ノ數ハ必ズ人ノ心ヲ動カストハ云ヘヌガ若シ動カシ得タ場合ニハ其動カサレタ人欲デ價值ガ決定スルト云ヘ得ルノミデアアル、即チ數量ハ結局人欲ヲ通ジテ價值ニ關係ヲ及ボスノデアリマス、其ダカラ物能ト人欲トガ、ドコマデモ價值成立ノ直接要素デアツテ數量ハ單ニ其ノ人欲ノ方ヲ動カス間接原因タルニ過キマセヌ、故ニ人欲ヲ既ニ要素トスル以上ハ數量トカ稀少トカ云フコトハ自ラ此人欲ニ附屬スルモノデ、要素ノ獨立地位ヲ占メ得ルモノデハナイト思料スル、是レガ數量ヲ價值ノ要素ニ入ラナイ理由デアリマス

物能即チ物ノ性能ニハ二種アリマス、自然物能ト人爲物能トデアリマス、自然物能ト云フノハ自然ノ性状及位地ノ儘デ人類ノ生活ニ役立チ得ル状態ニ在ルノヲ云フノデアツテ、自然財ノ物能デアリマス、此物能ニ人欲カ觸レテ成立スル價值ハ自然價值ト云フノ外ハナイ、土地及原物ノ價值ガ是レデアアル、之ニ反シテ人爲物能ハ自然ニ人力ヲ加ヘ採取、培養シ加工又ハ運搬シテ始メテ人類ノ生活欲望ニ役立

ツベキ性狀及位地トナレルモノデアツテ、人爲財即チ生産物ノ性能ト云フノデア
ル、各種ノ粗製品ヤ半成品ヤ全成品ノ有スル性能ガ是レデアリマス、此等ノ物能ニ
人欲ガ觸レテ成立スル價值ハ自然、人爲合成ノ價值若クハ單ニ生産價值ト云フベ
キデアル

以上ヲ以テ價值ノ定義及價值ノ要素ニ關スル説述ヲ終リマシタ、次ギハ價值ノ
標準ニ關シテ説述シマス、

價值ノ標準ト云フノハ價值ノ程度ヲ定ムル決定的尺度トナルモノヲ云フノデ
アル、既ニ價值ハ物質生活上人ガ物ニ對シテ感ズル必要度デアルト申シタノデア
リマスガ然ラバ其ノ必要度ハ何ヲ標準トシテ決定シ、測定セラルルヤト云フコト
ヲ茲ニ述ブルノデアアル、

之レニ付キテハ從來三説ガアリマス、労働量説、生産費説、及ビ效用説ノ三種デア
リマス

第一ノ労働量説ニ依レバ價值ハ其ノ物ヲ作ルニ要シタル労働ノ分量ヲ定マリ
其レデ測定サレルト云フノデアアル(すみす、まゐるくす等)茲ニ云フ労働ノ分量トハ仕

事々々デ種類ヲ分ケタ労働ノ時間デ之ヲ表示シ其ノ労働時間ノ長短ニ比例シテ
價值ハ定マル、例ヘハ二日分ノ労働量デ作レル物ノ價值ハ一日ノ労働量デ作レル
物ノ價值ノ二倍ニ定マルト云フノデアアル、サウ云フト誰デモ疑ヒヲ生ズルノデア
リマス、ソナ答ハナイデヤナイカ、人ガ一日ニ作ルモノヲ三日モ四日モ掛ツテ作
ツテモ同質ノ物ナラバ價值ハ同ジヤナイカト、尤モ之ニ對シテハ斯ウ云フコトガ
答ヘラレテ居ル、茲デ云フ労働時間ハ其様ナ個々特別ノ場合ノ時間ヲ云フノデア
ナイ、凡ソ一種ノ仕事ニ於テ例ヘバ製靴ナラ製靴ノ仕事デ普通ノ労働者ガ普通ノ
勉強程度デ普通ノ靴ヲ製スルニ必要ナル社會的平均ノ労働時間ヲ云フノデアアル、
結局社會全體カラ見テ一定製品ヲ作ルニ要スル巧拙、勤怠種々ノ労働時間ヲ平均
シターツノ労働時間トナルカラ二ツノ労働時間ガアル答ガナイ、一ツノ労働時間
デ一種物ノ價值ハ定マルト答ヘルノデアリマス、夫レハ夫レデ宜イトシテモ併カ
シ社會的平均ノ労働時間デ社會的平均ノ價值ガ定マルト云フノハ餘リニ抽象ノ
論デ個々實際ノ場合ニハ適用ガ出來ズ、労働ノ性質及能率ハ無限ノ差別ガアルノ
ニ之ヲ言語ノ上デ時間ノ一元ニ歸セシメントスルハ無理デアアル、特ニ機械工業ノ

今日ニ於テハ各種物ノ製造ニ要スル社會的平均勞働時間ナゾト云フモノハ到底計算シ得ルモノデナイ、假リニ推定シ得ルモノハアルトシテモ平均推定デ説明ノ出來ヌ場合ガ多イ、例ヘバ社會平均的ニ考ヘテ、食牛ノ良肉ヲ切取ルノハ勞少ク、惡肉ヲ切取ルノハ勞多イコトハ疑ナイ、又タ良材ハ仕上ケニ勞少ナク、時間短ク、惡材ハ仕上ニ多勞長時間ヲ要スルコト社會的平均ノ事實デアアルガ、如何ニ其價值ノ相違ヲ説明シ得ルデアラウカ、否ナ此等枝葉ノ問題ハサテ措イテ其根本ヲ考フルニ、此說ハ財ヲ價值ト同視シテ總テノ價值ハ皆勞働ノ結果デアアルトスル勞働價值論ノ狹見ニ基クモノデアアル、價值ヲ勞働ノミノ結果トスルカラ價值ノ程度ハ勞働ノ分量デ定マルトセネバナラヌコトニナルノデアリマス、然ルニ吾人ハ概述ノ如ク生産物即チ人爲財デモ、自然ニ人爲ヲ加ヘテ出來ルモノデアアル、從ツテソノ價值ハ自然價值ト人爲價值トノ合體デアアル、故ニ勞働ノミノ分量ニヨツテコノ價值度ハ決定サレナイトスルノデアリマス、其ハ兎ニ角モ此ノ勞働說ハ土地其他自然價值ニハ適用ガ出來ヌ、此レハまるくすモ明言シテ人爲財ノ商品價值丈ニ限ツタノデアリマス、次ニ又タ此說ハ機械工業品ノ價值ニモ適用ガ出來ヌ、其レハりかゝど

氏ガ明言シテ居リマス農産物ノ價值ニモ適用ガ出來ヌ、ソウシマスト僅カ手工業品ノ價值位ニ過ギナイガ、ソレモ中々例外ガアル様デアリマスカラ、到底價值全體ノ決定標準ナゾニスルコトハ出來ナイト云フコトニナリマス、

第二ハ生産費說デアリマス、生産費ト申シマスト勞働バカリデハナイ、資本モ入ツテ居ル、資本及勞働ノ分量デアアル、之レヲ金デ表ハセバ物ノ生産ニ必要ナル資本及勞働ノ費用ト云フ事ニナリマス、勞働ノ費用ト云ヘバ手間賃、資本ノ費用ト云ヘバ材料、原料、道具、等ノ費用デアアルガ之ヲ簡單ニ材料費ト云フテモ差支ナイ、ソコデ例ヘバ材料費ガ十圓分、手間賃ガ十圓分、合計二十圓分ノ生産費トナレバ價值ハ此ノ生産費デ定マリ又タ能ク測定サルト云フノガ生産費說デアアル、然ルニ此ノ生産費說ニ二ツアリマシテ、其一ハ生産入費說ト云ヒマス、(りかるどう、みる等)此說ニ依リマスト價值ノ程度ハ其物ヲ作ルニ要シタル過去生産費ニヨツテ定マルト云フノデアリマス、故ニ過去生産費說ト云フテモ宜イノデアアル、此說ハ一見シテ不適當ナルコトガ判リマス、過去ニ如何程ノ費用ヲ掛ケテ生産シタモノデアラウカ、價值ハ之ニ拘ラナイデ實際定マルカラデアアル、併カシ此ノ說ノ最モ不可ナル點ハ

此說ニヨルト一度拵へタモノハ其生産費デ價值ガ定マテ仕舞フテ後幾年タツテモ價值ガ變動シナイモノデアルトセネバナラヌコトデアル、何ントナレバ、或ル品物ハ三圓ノ生産費デ出來タトスルト過去生産費ハ三圓デ何年立ツテモ變ルベキ筈ガナイカラデアアル、然ルニ實際ハ物ガ不變デモ價值ハ可變デアアル、低價ニナツタリ高價ニナツタリシマス、同一ノ物デアリナガラ、時ヲ異ニシ場所ガ違フニ從ツテ價值ノ違フノハ事實デアアル、ソノ説明ハ過去生産費說デハ出來ナイ、其コデ改メラレタノガ次キノ再生産費說ト云フデアアル、(さるさす、けりい等)復生産費說トモ申シマス、之レハ過去ノ生産費用デ定マルノデハナクテ、是レカラ同様ノ物ヲ再ビ生産スルニ要スル費用デ定マルト云フデアアル、故ニ近キ將來ノ生産費又ハ現生産費說トモ云ハルルノデアアル、又々最終生産費說ト云フテモ宜イ、何故ナレバ現在ハ今迄ノ中ノ一番仕舞ヒノ時デアアルカラデアリマス、此ノ再生産費說ハ其時々々ニ替リ往ク生産費デアアルカラ、替リ往ク價值ノ變化ニ適用サレ、資本ト労働トノ費用ヲ含ンテ居ルカラ、農產品、工業品ノ大部分ニ適用サレ、略ボ實際ト一致シテ居ル說デアリマスガ、總テノ物ノ價值ニハ適用シ得ナイ遺憾ガアリマス、ソレハ何故カト云

へバ先ツ第一ニ生産サレヌ自然物ノ價值ニハ適用ガ出來ナイ、例へバ土地及原物ノ如キ夫レデアアル、第二ニハ生産物デモ再生産ガ出來ヌモノニハ適用サレナイ、例へバ古名人ノ作デアアル書畫骨董品ノ價值ガ其レデアアル、第三ニ再生産ハ出來テモ自由競争ノ行ハレヌ物ノ價值ニハ適用サレヌ、例へバ獨占品、政府專賣品、特許品ノ如ク他人ガ競争的再生産ノ出來ヌモノガ其レデアアル又々第四ニ收益財産ノ價值ニモ適用シガタイ、家屋及有價證券ノ如キ其レデアアル、此等ノ價值ハ其ノ物ヲ拵ヘル作成費デ定マラナイデ、其物カラ生ズル收益ニ比例シテ定マルカラデアリマス、例へバ此ノ家ノ價值ハ建築費デ定ラヌ此ノ家カラ年ニ千圓ノ家賃ガ得ラレルナラバ此ノ收益ヲ通例二十倍ニ還元シタ二萬圓ニ相當スル價值アリトナリマス、株券デモンソノ通り、五十圓拂込ミデモ三十圓拂込デモ、拂込費ニ依ツテ價值ハ定マラナイ、依ツテ得ルトコロノ配當ニ比例シテ定マリマス、之レヲ見ルト仲々マダ缺點ガアル、再生産費說デモ一定ノ制限サレタ範圍ニシカ行ハレヌト云フコトニナリマス

要スルニ生産費說ハ生産入費說デモ再生産費說デモ全體ノ價值決定標準トシ

テハ不完全デアアル、畢竟物が出來ルマデノ生産行程ニ於ケル事物デハイカヌ、物が出來テカラ後ノ事物ヲ採ツテ標準トスルノ外ハナイト云フ事ニナツテ來タ、換言スレバ供給ノ方面カラハ定メラレナイ、需要ノ方面カラ定メナケレバナラヌ、少クトモ物が生産サレテカラ後ノ品質トカ效力トカ役立トカ云フモノデナケレバ價值ノ一切ニ適當スル標準ニナラナイ様デアリマス、ソコデ愈々効用説トナルノデアリマスガ、私シハ其前ニ再生産費説ト効用説トノ架橋ニナツタ節省勞働説トモ云フモノヲ紹介シヤウト考ヘル、此レハ佛蘭西ノ學者ばすちいやト云フ人ノ説デアルガ、此ノ説明ニ依リマスト先ツ財ハ總テ確カニ勞働デ作出スルモノニ相違ナイ、併カシソノ價值ハ作出ニ消費サレタ勞働量ニヨツテ定マラナイデ、之ガ爲メニ節省サルル勞働量ニ依ツテ定マルモノデアルト云フノデアリマス、其レハ何ウ云フ意味デアアルカト云フニ、ばすちいや氏ハ自國ノ巴里市ニ於ケル飲料水ノ價值ヲ例ニ取ツテ述ベテ居リマス、其時分巴里城下ノ市民ハせゑぬ川ノ水ヲ買ウテ飲ンデ居リマシテ水汲屋ガ川カラ水ヲ汲ンデ市中ヲ賣ツテ歩イタモノト見ヘマス、其ノ水汲屋ガ賣リニ來ル水ノ價值ハ何ンデ定マルカト云フニ、彼ガ河カラ汲ンデ持

ツテ行クトコロノ骨折リデ定マラナイ、賣ル方ノ人即チ供給ノ側デ消費スル勞働量デナク、ソレヨリカ買ウ方ノ人即チ需要ノ側デ自分ガ行テ汲ンデ來ナケレバナラヌ其ノ勞働ヲ節省シ得ル分量デ價值ハ定マルモノデアルト云フテ居ル、賣手デナク買手ガ此レカラ勞働スルモノト見ル點ニ於テハ再生産費説ニ近ク、其レヲ勞働セズシテ濟ム節省勞働ノ効用ト見ル點ニ於テハ効用説ニ類スル、即チ水ヲ買フ需用者ハ若シソノ水ヲ買ハナケレバ自分デ行ツテ汲ンデ來ナケレバナラヌ、ソレ丈自己勞働ノ費用ヲ省ク効用ガアルト云フコトニ解シタノデアアル、少クトモ再生産費説ト効用説トノ中間ヲ爲ス架橋ノ位地ヲ有スルコトハ疑アリマセン、併カシ此説ニハ勞働量説ヤ再生産費説ニアル様ナ缺點ガアツテ到底價值ノ一切ニ適用シ得ナイバカリデナク需要者ノ節省勞働ト云フコトニ伴フ不確實性が尙ホ餘計ニ加ハル様デアアル、例ヘバ郵便ノ料金ナドデ見マシテモ需要者ノ勞費節省ニ依ル効用ノ代價トシテハ一通三錢ハ安ス過ギテ説明ガ出來ヌ、自分ガ行ツテ來ルト云フノナラバモツト價值ガアツテモ良イ譯デス、百里モ二百里モ三錢デ行クノデス、シテ見ルト節省サレル勞働ノ費用ト云フ節省勞働説モ甚タ不完全デアリマス、併

カシ之レガ效用説ヘノ懸ケ橋トナツタ丈ケハ疑アリマセン、
 第三ハ效用價值説デアリマス、此説ハ昔佛米學者(せいけいり)等モ唱ヘタガ今ハ
 塊國學派ノ説トナツテ居ル、塊國學派ハ效用ヲ物ノ方ニ存スル事項ト見ナイデ、人
 ノ使用スル方カラ見タノデアル、故ニ此ノ効用ハ人ノ欲望ト物ノ性能トカラ成立
 スル價值其者ニ該當スル、價值ガ價值決定ノ標準トシテ的確デアルハ勿論過ギル
 コトデ意義ヲ爲サナクナリマス、ソレダカラ塊國學派ノ價值ハ單獨ノ價值デナク
 テ二價值ノ比較デ成立スル價格ノ意義ニナツテ居リマス、左スレバ塊國學派ノ效
 用説ハ價格決定ノ標準デアツテ我等ガ茲ニ説ク價值決定ノ標準ニハナラヌ、トコ
 ロガ效用ト云フ文字ハ必ズシモ人ノ使用カラ見ナケレバナラヌトハ限ラナイ、物
 ニ存スル效能トモ見ラルルノデアル、斯ク云フト、人或ハ問ハン、效用ト云フ以上ハ
 人ノ使用ニ對スル役立デアルカラ、人ノ使用ヲ離レテ效用ノアル筈ガナイデハナ
 イカト云フデアリマセウ、是亦タ例ノ唯物唯心ノ爭議デアリマスガ、我々ハ此ノ詰
 問ニ對シテ、然ラバ何故ニ人ガ使用スルカラ反問スルノ餘地ガアルト思フ、物ニ一
 定ノ性能效力ガアルノデ人ガ使用スルト云フノガ正當カ、人ガ使用スルカラ物ニ

效用ガアルノダト云フノガ正當カ、論理ノ秩序カラ申シマスト物ニ一定ノ性能作
 用等ガアレバコソ人之レヲ選擇シ使用スルノデアルト見ルノガ正當ト考ヘル、故
 ニ我々ハ塊國學派トハ別段ノ見解ヲ取り、效用ヲ物ノ有スル效能トシ物ニ存スル
 モノデ未ダ人欲上ノ批判ナキ性能又タハ效力ヲ云フノデアルトスル、是レ決シテ
 不當デナイト信ジマス、此ノ意味ニ於ケル效用ハ物ニ存スルモノデアルガ物ノ性
 質效力及ビ作用ヲ含ミマスカラ此ノ效用ニ依ツテ價值ノ程度ガ定マリ且ツ測定
 サルルト云フコトニスレバ隨分廣ク適用サレル、自然物、獨占品、古稀物ハ品質及ビ
 無代用ノ效用デ、再生産品ハ生産費節省ノ效用デ、收益物ハ收益ノ效用デ、其ノ價值
 ノ程度即チ必要度ガ定マルト解釋スルコトガ出來マス、要スルニ茲ニ云フ效用説
 ハ物ノ方ニ存在スル性能、效力、作用ヲ標準ニ價值ガ定マルトスル説デ、價值ハ即チ
 效用價值デアルト認ムルノデアリマス、此ノ説ニモ尙ホ缺點ガアリマス、就中其ノ
 概念ノ空漠ナルコトガ缺點デアリマスガ空漠丈ケニ廣汎ノ適用力ヲ持ツテ居ル、
 少ナクトモ勞働量説、生産費説及ビ再生産費説ヨリカ進ンデ居ツテ、此レ等諸説ガ
 適用サレ得ナイ所ヲ補充スル長所ガアルカラ先ヅ之レニ依ルノ外ハナイト考ヘ

適當デアリマス、使用消費ノ效用ガアルカラ交換サレルノデアアル、交換サレルノ效用ガ別ニアルノデハナイ、交換ハ行爲デス、物ノ效用デハナイ、私有財産制度ノ爲メニ餘儀ナク存在スル法律的形式行爲デアアル、私有財産制度ノ法律ナケレバ交換ノ事實ハナイ、交換ノ事實ハナクナツテモ物ノ使用消費の效用ハ人類ニ感ゼラレ、從ツテ價值ハアリマス、其ノ價值ハ使用價值デアリ、效用價值デアリマス、自分ガ使用スルモ、他人ガ使用スルモ共ニ人類ノ使用消費デアツテ其效用ニ對スル價值ハ皆ナ使用價值デアアル、使用消費ノ效用以外ニ交換セラルル效用ガアルトハ考ヘ得ラレナイノデアリマス、要スルニ價值ハ皆ナ使用價值ノミデアアル、既ニ使用價值ノミトナレバ特ニ使用ノ文字ヲ附スル必要ナク、效用ノ文字ヲ附スルコトモ餘計ノコトニナル、ソウスルト價值ハ價值ノミ單ニ價值ト云ヘバ自ラ使用又ハ效用ノ價值ナルコトヲ意味スト云フコトニナル、茲ニ於テ考ヘマスト、效用價值ハ使用價值ノミデアアル、使用價值ハ單純ノ價值デアアル、ソシテ主觀的價值デアアル、單獨價值デアアル、從テ此外ニ交換價值ト云フ主觀的價值アリト思ヘナイ、單獨價值ト云フノハ一物一單位ノ效能ノミニ對シテ單獨ニ人ガ主觀スル價值ノ謂デアツテ他種物ノ效用ト

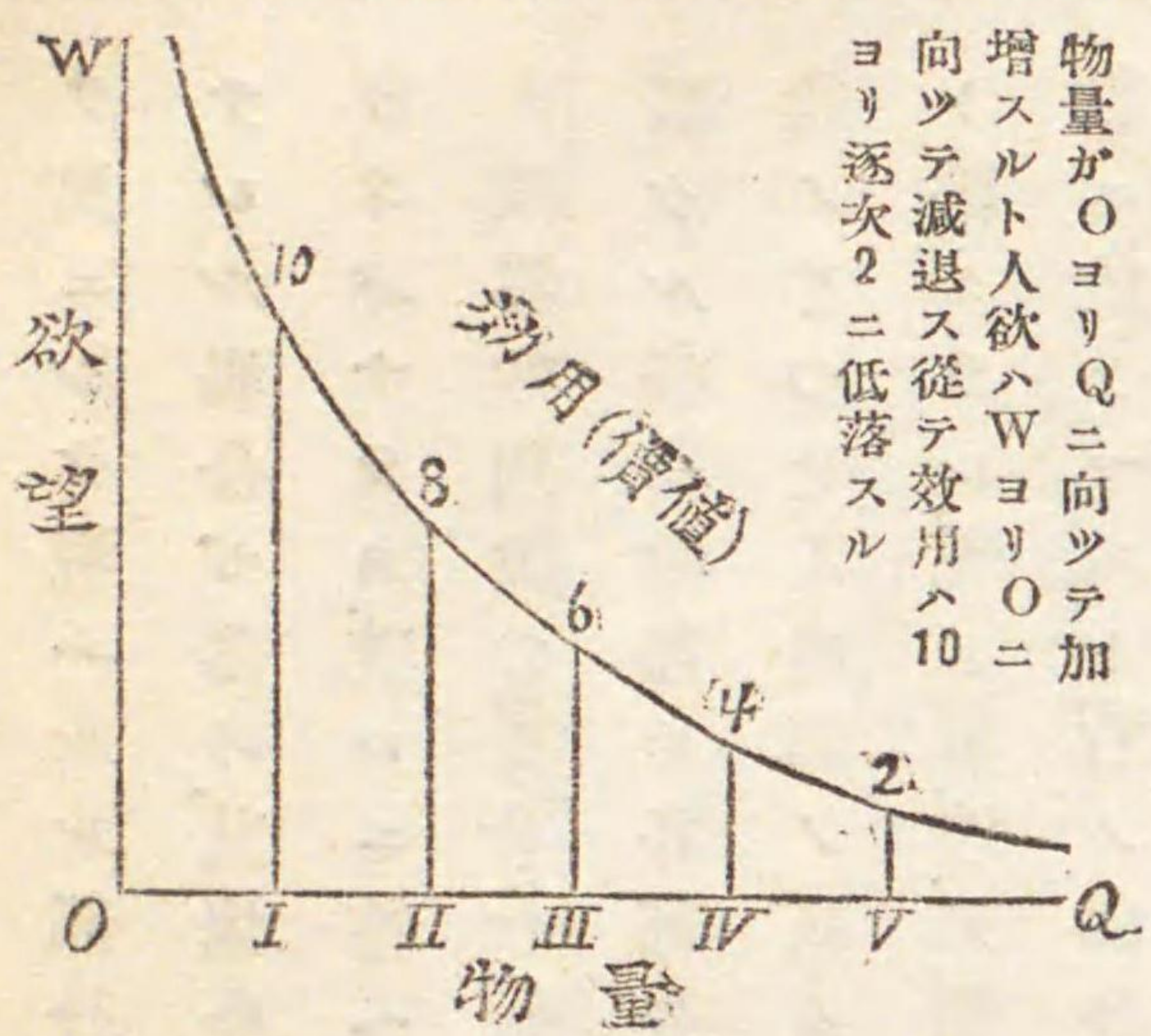
比較シテ交換サレル場合ノ價格ト區別サレルノデアリマス、而シテ價格ニ付テハ別ニ詳述スルコトニナル、

價值ノ概念ハ常ニ一種物ノ一單位ニ對スル批判デアツテ價值ハ一種物ノ全數量ノ效用デ定マルモノデナク、通例各部分の單位量ノ效用デ測カルモノデアアル、故ニ單位價值又ハ部分價值デアリマス、此部分價值ハ其分量ガ有スル自然物能ト人爲物能トニ對スル價值デ、一人ガ一個ノ分量ニ對スル場合ガ最モ單純ナモノデアリマス、之レハ未ダ數量ノ關係ヲ受ケナイ質的關係丈ノ價值デアアルカラ、本質價值ト云フノデアアル、其レガ數量ノ關係ニ依テ人欲ヲ變化サセ價值亦種々ニ變化スルコトニナルノデアアル、

終リニ價值ノ變化ヲ講シマス、價值即チ效用價值、使用價值、單獨價值、主觀價值ハ決シテ不變ノモノデハナイ、元來ガ一種物ノ單量ノ效用即チ單位物能ト人ノ慾望トデ成立スルモノデアアルカラ、其ノ效用ノ變化ニ依ツテモ變化スルガ、人欲ノ變化ニ依ツテモ變化スルハ當然デアアル、併カシ通例ハ物能即チ效用ハ一定セルモノト見做シ得ルカラ、然カ見做ストキハ、人欲ノ變化ニヨツテ變化スルコトトナル、然ル

ニ人欲ノ變化ニハ自動的變化ト他動的變化トアルモ通例ハ他動的變化デ其レハ主トシテ數量ノ増減カラ來ルノデアアルカラ數量ノ増減ニ依リテ價值ノ變化スル場合ガ最も多イノデアリマス、然ラバ如何ニ變化スルヤト云フニ、數量ガ増加スレバ單量價值ハ減少シ數量ガ減少スレバ單量價值ハ増大スルノデアアル、此點ニ着眼シテ一ノ法則ガ認めラレル、其レガ埃國學派ノ效用漸減法(Law of diminishing utility)デアリマス、埃國學派ノ效用ハ價值デ、價格デアリマスカラ是レハ價值漸減法ト解シテ説明スレバ宜イデテリマス、此ノ法則ニ依レバ物ノ價值ハ其物ノ全數量ノ價值デナク、皆ナ一定部分量(單位量)ノ價值デアアルガ、此ノ部分量ノ價值ハ全數量ガ増加スレバ増加スルニ從テ漸減スルノ傾向アリト云フコトニナル換言スレバ全數量ノ少數ナル場合ノ部分量價值ヨリカ全數量ノ多數ナル場合ノ部分量價值ノ方ガ小デアルト云フノニ同ジデアアル、其ノ説明ニ關シテ彼等學派ノ間ニハ最終效用說ト限界效用說トノ二様アリマス、

最終效用說(Final utility)ハ一個ノ物(單位部分量)ガ價值付ケラレル場合ノ原理デアツテ、此ノ場合ニハ其一個ガ最終部分タル順位ニ從ツテ價值ヲ異ニスル、早イ最

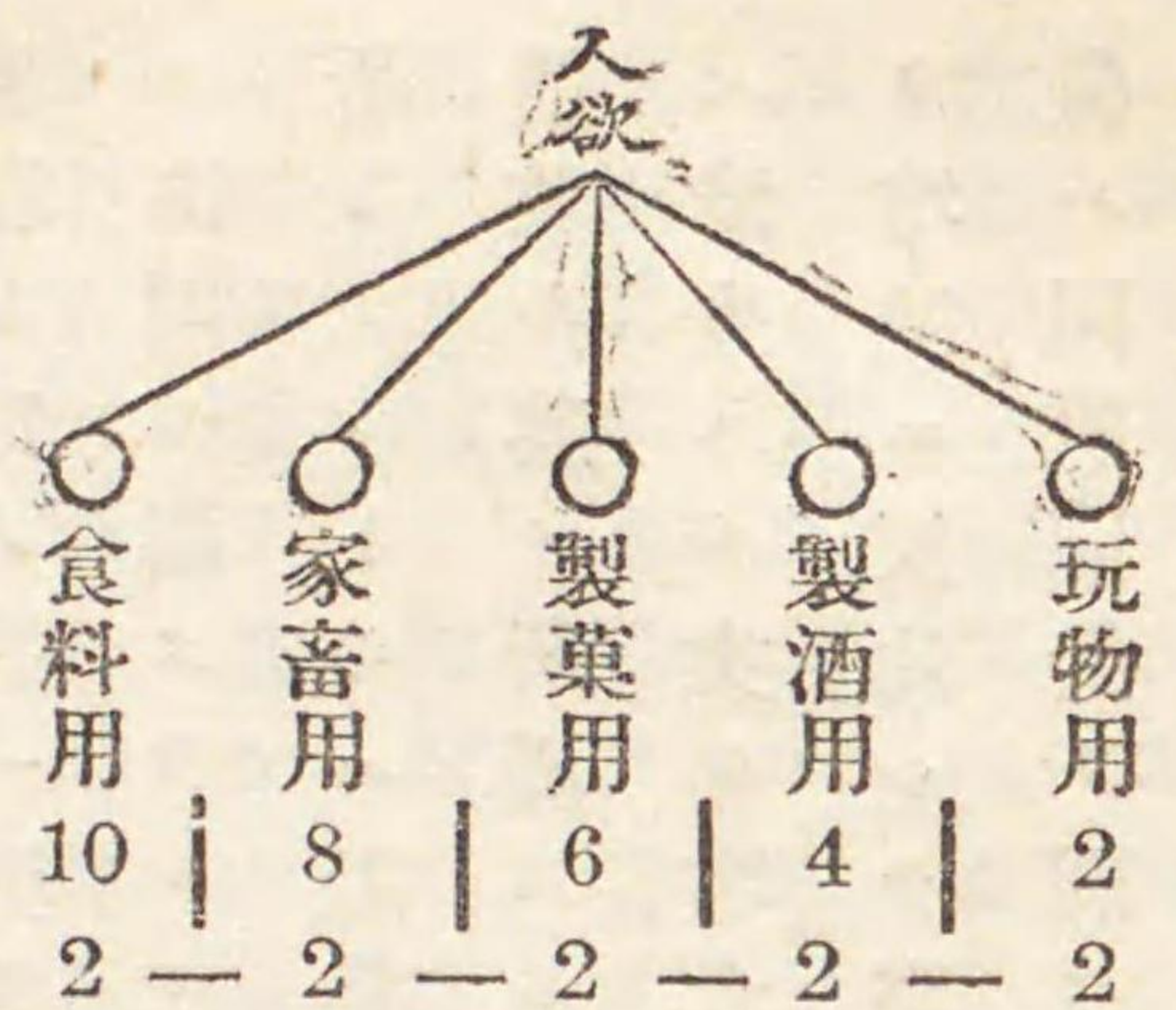


第八章 價值

終ナラバ價值大ニ、遲イ最終ナラバ價值益々小デアアル、例ヘバ茲ニ人アリ數時間ニ麩五斤ヲ要ストスル、其各部分ハ同質同量ノ同ジ一斤デアアルケレドモ、第一次ノ一斤ナラバ價值ハ無限大デアアルガ、第二次ノ一斤ナラバ價值尙ホ大ナランモ第一次ノ一斤ヨリ價值小ナルベク、第三次ノ一斤ハ價值小ニ、第四次ノ一斤ハ價值更ラニ小、第五次ノ一斤ニ至ツテハ價值最も小デアアル、其上ノ一斤ハ若シアリトスレバ其價值全クナキニ至ルデアラウ、要スルニ各部分ハ増加サルレバ増加サルル丈ケ之ニ對スル人欲ガ減退シテ増加部分ノ價值益々漸減スル、今偶々人欲ノ前ニ現ハレタ一個ハ何番目ノ一個デアアルカ、一番目ノ最終的一個ナラバ人欲無限ニ緊張シテ居ルカラ、價值ハ無限大ナランモ五番目ノ最終的一個ナラバ、人欲既ニ飽滿ノ後チダカラ價值最も小デアアル、結局該一個ガ位スル最終度ノ順位ニヨツテ價值ガ異ナルノデアアル、物ノ供給増加スレバ物價下落スルノ理法ハ此ノ價值漸減法

ノ適用ニ過ギスト云フコトニナル、是レハ一時ニ一個、數時ニ一個、數個ガ一個ツツ時ヲ異ニシテ現ハルル部分價值ノ變化デアアルガ、實際ノ市場ニハ同時ニ數個ガ提供サレル場合ガ多イ、其場合ニ於ケル各一個(各部分)ノ價值ハドウナルカノ問題ガ起ラネバナラス、其レニ答ヘルノガ次ノ限界效用說デアアル、

限界效用說(Marginal Utility)ハ數個ノ同種物(數單位量)ガ同時ニ要サルル場合ニ於ケル各一物即チ各部分量ノ價值ハ如何ニ定マルカヲ説明スルモノデアツテ、獨逸ノゴツせん、埃國ノめんが、及瑞西ノわるら氏等ガ殆ンド同時ニ發唱シタモノト稱セラレ、現ニ英、埃、米、佛伊等ノ知名學者ガ多數採用シテ居ル所デアリマス、此ノ說ニ依リマス、右ノ場合ニ於ケル各一個即チ各部分量ノ價值ハ限界部分量ノ價值ト平等シテ各部分同一ノ價值ニナルト云フデアリマス、例ヘバ茲ニ人アリ一時ニ米五升ヲ要スト假定セヨ、同一時デハ食用バカリニ五升ヲ要スル譯モナイカラ各一升ニ對スル慾望ニハ自ラ差異ガアルト見ル、例ヘバ其ノ中ノ一升ハ先ヅ食用ニ供シ他ノ一升ハ家畜用ニ、其他ノ一升ハ製菓用ニ又タ他ノ一升ハ造酒用ニ、最後ノ一升ハ玩弄動物ノ餌料用ニ供スル積リデ五升ヲ要シ之レヲ彼レガ必要ノ限界



トシテ六升ハ不要デアルトスル、此ノ五升中ノ各一升ハ皆ナ同質同量デアアルカラ、
 下ノ一升ガ食用米デ、下ノ一升ガ玩弄餌料デアルト定マラナイ、若シ是レガ各一升毎ニ一々其用途ヲ區別シテ使用サルルトスレバ食用ノ一升ニハ最モ高キ十度ノ價值ガ定マリ、家畜用ノ一升ハ之ニ次イデ八度ノ價值ヲ附セラレ、製菓用ノ一升ハ六度ノ價值、造酒用ノ一升ハ四度ノ價值、玩弄物用ノ限界的一升ニハ二度ノ價值ガ定メラレ、各部分ノ價值ハ別々ニ差別的價值ヲ有スルコトナルデアラウガ、今ハ同時ニ同質同量ノ各一升ガ五ツ横列シテ一人ノ慾望前ニ存在スルノデ、何レガ食用、何レカ何用ト差別サレズ、何レノ一升モ以テ食用ニ供シ得ベク、以テ家畜用ニモ供シ得ルノデアアルカラ、各一升ノ効用ニ依ル價值ノ成立ハ平等デ皆ナ同價值デナケレバナラス、併カシ如何ニ平等サレルカト云フニ、比較上最モ不緊要ナル限界部分ノ價值ト平等シテ各部分皆ナ例ヘバ二度ノ價值トナルデアラウ、何故ナレバ此五升中何レノ一升ヲ欠クモ其必要度ハ限界部分ノ不緊要ナル一升ヲ欠ク場合ニ

感スル必要度ト異ナル道理ハナイカラデアアル、食用ニ供セントスル一升ノ慾望ハ
玩弄餌料ニ供セントスル一升ヲ以テ充當スルコトガ出來ルカラデアリマス

右ハ五升ノ場合ダカラ其ノ一升ニ對スル必要度ノ順位ガ十度、八度、六度、四度、二
度ノ五種ニナツタノデアアルガ、更ラニ米十升ノ場合ヲ考フルト其各一升ニ對スル
必要度順位ハ例ヘバ十度、九度、八度、七度、六度、五度、四度、三度、二度、一度、ノ十種トナリ
最後ノ一升ガ限界的効用價值ヲ獲得シ、此限界價值ノ一度ガ平等法ニ依ツテ他ノ
現存九升ノ各一升ヲモ皆ナ同一ノ一度價值トナラシムル譯デアアル、ソコデ斯ウ云
フ法則ガ認メラレル、一種ノ物ノ數單位ガ(即チ數個ノ同種物ガ)同時ニ人ノ要スル
所トナルトキハ限界部分ノ價值ニ依ツテ他各部ノ價值ヲ決定シ、其ノ限界部分ノ
價值ハ其ノ所屬スル全數量ガ増加スレバ増加スル丈ケ低下シ、全數量ガ減少スレ
ベ減少スル丈ケ増大シ、結局各部分ノ價值ハ何ノ部分タルヲ問ハズ皆ナ其全數量
ノ増減ニ反比シテ高低スト云フコトニナル例ヘバ米五升中ニ於ケル各一升ノ價
値ハ同質同量ノ同ジ米デアリナガラ何レモ皆ナ米十升中ノ各一升ノ價值ヨリモ
大ナルモノデアアルト云フコトデアアル、恰モ富者ノ有スル一圓ノ價值ハ貧者ノ有ス

ル一圓ノ價值ヨリモ小ナリト云フガ如シデアアル、

茲ニ至ツテ最終効用說ト限界効用說トヲ對照スレバ結局同一義デアツテ、効用
漸減法ヲ縱テニ說クト、横ニ說クトノ別ニ過ギナイコトガ解カル、前者ハ時間的ノ
限界ヲ見後者ハ空間的ニ限界ヲ見タ丈ケデアアル、前者ハ人欲ヲ一種トシ其人欲ガ
垂線的ニ時間ヲ切ツテ續出スル同種物ニ對シ異時ニ決定スル差別價值ヲ說キ、後
者ハ人欲ヲ數種トシ此ノ人欲ガ平面的ニ横列スル同種物ニ對シ同時ニ決定スル
平等價值ヲ說ケルモノデアアル、一種ノ人欲デモ時ヲ異ニスレバ順位ヲ生ジテ差別
トナリ、數種ノ人欲モ時ヲ同スレバ順位ヲ減シテ平等トナル、前者ノ場合モ横列シ
テ見レバ後者ノ如ク平等化シ、後者ノ場合モ縦列シテ見レバ前者ノ如クニ差別化
スル譯デアアル、故ニ兩說ノ理法ハ全然同義デアツテ効用漸減法ノ適用ニ歸一スル
モノデアアル、

此効用法ハ貨幣ニ對シテハ適用サレヌト云フ學者モアリマスガ、貨幣デモ多量
ニナレバ此ノ適用ヲ受ケテ來ルコトハ疑ヒナイ、論者ハ貨幣ハ保存容易ニシテ人
欲ヲ飽滿サセナイト云フノヲ理由トシテ居ル様デアアルガ、十萬圓貯メタ中ノ百圓

ヲ失フ苦痛ヨリモ千圓貯メタ中ノ百圓ヲ失フ苦痛ノ大ナルコトハ論ズルマデモ
 ナイト信ズル、故ニ私シハ貨幣ニ對シテモ大體適用シ得ルト考ヘル、併カシ此ノ效
 用法ハ決シテ完全デナイ、先ヅ其根本ニ於テ物ノ數量ガ増加スレバ必ズ價值ガ減
 少スルト云フノカラシテ弱點ガアル、是レ物ガ心ヲ支配スルト云フ唯物觀ニ偏シ
 タモノデアアル、物ノ數量増加シテモ人欲ガ他ノ理由ニ依リ、ヨリ多ク増進スルトキ
 ハ決シテ物ノ價值ハ減少スルモノデナイ、人欲ノ自動的變化ヲ除外シテ考ヘタモ
 ノデアアル、且ツ此法則ガ適用サルル場合ニ於テモ漸減ノ程度ハ物ノ種類ニ依テ異
 リ決シテ同率デハナイ、早ク消耗シ易スキ消費物ヤ勞働ヤ、早ク人欲ヲ飽滿サセル
 食物ノ如キハ迅速ニ此法則ガ行ハレルガ、保存シ得ル土地、貨幣、事業用材料品ノ如
 キハ、此法則ノ行ハレルニハ相違ナクモ、其行ハルルヤ遅々タルモノデアアル、又々個
 人ニハ早ク飽滿ガ來テモ社會的ニハ尙ホ甚シク欠乏ヲ感ズル物ハ幾等モアル、否
 ナ私有制ノ現狀デハ總テノ物殆ンド皆ナ夫レデアアル、此點ニ關シテ此法則ハ餘リ
 ニ個人觀ニ偏シテ居ル欠點ガアル、社會的ニ觀察スレバ大抵ノ物件ハ決シテ一斤
 一升ヲ増加スル毎ニ十度ノ價值ガ忽チニ八度トナリ、六度トナル如ク急落スルモ

ノデハナイ、數量ガ一割増加スレバ價值一割減スルト云フ様ナモノデナイ、寧ロ數
 量一割増加シテモ、價值ハ一步位カ二三歩位ノ減低ニ過ギヌモノガ多イ、否ナ人口
 及人欲ノ増進デ却テ價值ノ增高ヲ見ルモノガ少クナイ、其レデナケレバ物資ノ生
 産増加シテ富力ガ増進スル筈ガナイ、故ニ此法則ハ完全ト云フコトハ出來ヌ、少ク
 トモ先ヅ人欲ノ自動的變化ナキ場合ト推定シ且ツ價值漸減ノ程度ハ全部量増進
 ノ程度ヨリカ概シテ少率デアツテ物ニ依ツテハ殆ンド同率ノモノガアルト云フ
 條件付ニ制限シテ之ヲ是認スルノ外ハナイモノデアアル、

第九章 價格

價格ノ字義ハ價值ト價格トノ比格ト云フノデアアルガ是レハ餘リニ簡單デアアル。勿論ソノ價值ハ前章所述ノ使用價值デアツテ、少クモ一人欲ト一物能トガナケレバ成立シナイカラ價值ト價格ト云フ以上、價格ガ二人二物ノ對立ヲ要スルコトハ自明デアアルガ唯ダ漠然二人二物ガ對立スレバソレデ經濟上ノ價格ガ成立スルカト云フト左ウハイカヌ、其ノ二物ハ異種ノモノデアツテ其レガ交換サルル場合ニ於ケル價值比格ヲ數量的ニ表示スルモノデアラネバナラヌ、ソコデ價格ノ定義ヲ適確ニ述ブレバ價格トハ一種ノ物ト他種ノ物トガ交換權利轉換サルル場合ニ於ケル價值ト價格トノ比較ヲ數量デ表示スルモノデアルト云フコトニナリマス之ヲ碎イテ獨逸ノ學者ハ一種物ノ數量ニ對スル他種物ノ數量ノ數ヲ價格ト稱スト云フテ居リマスガ、ソレヨリカ價格トハ一種物ノ數量ニ對シ之レト同價值ナリトシテ交換セラルル他種物ノ數量ノ數ナリト云ツタ方ガ正確デアアル例ヘバ米ノ一石(單量)ニ對シ之レト同價值アルモノト見テ交換サルル麥ノ三石(單量)ノ數又ハ金

貨ノ三十五圓(圓ノ數)ト云フノガ其レデアリマス、茲ニ云フ單量ト云フノハ部分量デアアルカラ價格ハ一種物ノ使用價值即チ部分價值ト他種物ノ使用價值即チ部分價值トノ數量的比例デアアルト云フテモ宜イ、奧國學派ナゾハ簡單ニ一物ノ限界效用ト他物ノ限界效用トノ比例デアアルト云ツテ居リマス、斯ク論ジ詰メテ見ルト價格ノ兩面ハ一ノ價值ト他ノ價值トデアツテ、一方カラ云ヘバ他方ノ價值ガ價格トナリ他方カラ云ヘバ一方ノ價值ガ價格トナルノデアアル故ニ價格ハ亦タ是レ價值デアアルトモ云ヘル、併カシ其レハ廣義ノ解釋デアツテ狹義ニ於テハ顯著ノ差違ガアルノデアアル、

價值ト價格トノ差違ハ略ボ下ノ如ク考ヘル其ノ一ハ成立條件ノ差違デアアル、價值ハ單獨ノ存在デ一人一物デモ成立スルガ價格ハ複比ノ存在デ、必ズ二人二種物ナケレバ成立セヌ、例ヘバろびんそんくるうそらノ孤島生活ニハ價值ノ成立スルコトガアツテモ、價格ハ決シテ存在シナイ、其ノ二ハ決定形式ノ差違デアアル、價值ハ人ノ欲望ガ決定形式デアアルカラ主觀的ノモノデアアルガ、價格ハ數量ガ決定形式デアアルカラ客觀的デアアル、多數ノ學者ガ價值即チ使用價值ヲ主觀的價值ト稱シ價格

ヲ價值ノ客觀的表示又ハ客觀的價值ト稱スルノハ之ガ爲メデアアル其ノ三ハ財產制上ノ差違デアアル、價值ハ物ノ效用ニ對スル人ノ感ズル單獨的ノ必要度デアアルカラ共有財產制ノ下ニモ存在シ且ツ重要視サレルモノデアアルガ、價格ハ人ト物トノ外ニ交換ノ事實ヲ條件トスルカラ私有財產制ノ下デナケレバ存在セズ且ツ必要モナイ、換言スレバ價值ハ私有共有如何ナル制度ノ下ニモアリ得ルガ、價格ハ私有財產制下ノミニアツテ共有制下ニハナイモノデアアル、勞農露國ニ於テ物ノ賣買モアリ從ツテ價格ガ存在スルノハ眞ノ共產主義國デナイ證據デアリマス、其ノ四ハ社會觀上ノ差違デアアル、價值ハ人類ノ欲望ヲ滿タス目的ノ價值デ、物ノ生産デ極マルノデアアルカラ社會觀ノモノデ、社會經濟ニ採ツテ直接ノ重要デアアルガ、價格ハ個人ノ利害ヲ左右スル比量デ、物ノ交換デ極マルノデアアルカラ個人觀ノモノデ、個人經濟ニ採ツテ最モ大切ノモノデアアル、社會ハ自用ノ價值ヲ目的トシ、個人ハ他用ノ價格ヲ主トスル、價格ハ個人經濟ニ非常ニ必要ノモノデアアル、社會デモ全ク必要ナシト云フノデハナイガ、個人ノ利害ノ方ガ大キイ、之ニ反シテ價值ハ個人ヨリ社會ノ方ニ大ナル關係ガアル、價格ガ上リマスト賣ル個人ニハ利ダケレドモ買フ個人

ニハ損ガアル、價格ガ下レバ反對ニ賣ル個人ニハ損デアツテモ買フ個人ニハ利ガアル、故ニ價格ハ個人經濟ニハ利害ノ別ルトコロデ大切ノモノデアルガ、此等兩者ノ個人ヲ包含スル社會ニ採ツテハ利トモ云ヘズ損トモ云ヘズ、價格ガ高クナツタツテ安クナツタツテ餘リ多クノ關係ハナイ、然ルニ價值ノ大小ハ社會的ニ見テ人類慾望ノ満足程度ヲ表示スルモノデ、良製多産カ惡製減産カノ別ルル所デアルカラ極メテ重要ノコトデアアルガ個人的ニ見テハ必ズシモ重要デハナイ、個人的ニハ品物ハ少シ位、惡イタツテ、出來高ガ少ナイタツテ構ハヌ、唯ダ之ヲ賣ツテ得ル所ノ對價值即チ價格サヘ多ケレバ宜イノデアアル、是レガ個人經濟觀ト社會經濟觀ト違フ所デアツテ、社會經濟觀ハ價值ヲ尊ブガ個人經濟觀ハ價格ヲ尊ブ、社會觀ハ價值主義デ個人觀ハ價格主義トナリマス其ノ五ハ變動理法ノ差異デアアル、價值ハ其物ノ品質ヤ數量ガ變化スレバ變動スルガ、他物ノ品質又ハ數量等ノ變化ニ依ツテハ變動シナイ、之ニ反シテ價格ハ二物ノ價值ノ比較デアアルカラ他物ノ品質ヤ數量ニ變化ガアツテモ變動スルノデアアル例ヘバ通貨膨脹スレバ一物ノ價值ニ變動ナキモ其一物ノ通貨ニ對スル價格ハ變動スルモノデアアル、

價值ト價格トノ差異以上ノ如クデアアルカラ經濟ノ主義思想ハ學派ニ依テ大差異ガアル、從來ハ價格ヲ尊ビ交換經濟、價格經濟、營利經濟ト云フ主義ガ流行シタノデアリマス、何ンデモ交換デナケレバナラヌ、經濟學ハ交換ノ學ナリ、價格ノ學ナリト云ハレテ居ツタ、併シ今ヤ左ウデナクナツタ、價格主義カラ價值主義トナツタ、經濟學ハ價值ヲ目的トシ、個人觀ヨリモ社會觀ニ立ツテ生産經濟、價值經濟、幸福經濟ヲ講ズルコトニナツタ、其價值及幸福ハ社會全體ニモ各個人ニモ充實スル様ニスルノデ、畢竟豊富ナル生産ト公正ナル分配トヲ期スル意味デアアル、全體トシテ且ツ各個トシテ生ヲ厚フスルノデアアル、故ニ又タ厚生經濟ト稱スル、私ノ謂ユル社會價值主義ハ即チ之レニ該當スル、ソレデ倫理及道德ト經濟及價值トガ俱ニ社會善ニ於テ一致シ吻合スル譯デアアル、

終リニ價值ト價格トノ合離ヲ考ヘマスニ、價格ハ價值ノ客觀的表示デアリマスカラ價值ノ程度ニ相應シテ價格ノ數量ガ定マルノガ本來デアリマスガ、種々ノ事情ニ由ツテ兩者ノ程度ガ著シク相異ナリ互ニ懸隔スルコトガ多イ、之ヲ一物ノ效用價值カラ見テ價格ガ不相當ニ高ク定マリ或ハ又タ不相當ニ低ク決スル、一物ノ

之レヲ物價ト云ヒ通貨ト通貨ト交換サルル價格ヲ爲替ト稱シマス

第十章 物價

物價ト云フノハ交換ノ一方ガ實物デ他方ハ實物タル場合ト又ハ通貨タル場合トヲ含ムノデアリマスガ今日ノ貨幣經濟デハ殆ド皆通貨價格デアリマス併シ尙ホマダ實物ト實物トノ價格即チ實物價格ガナイトハ云ヘナイ例バ地金相場ヤ小作料ノ如キハ現ニ行ハレツツアル實物價格デアリマス倫敦ノ市場デ行ハレテ居ルトコロノ金銀相場ハ銀一「オンス」ガ今日四十「ペンス」スルトカ五十「ペンス」スルトカ云ヒマスガ其レハ實物價格デアリマス一「ポンド」ト云フ金貨ノ量目ヲ二百四十分シタモノヲ一「ペンス」ト云フノ地金デアリマスソレト銀一「オンス」ト云フ銀量目トノ交換比例ヲ金銀相場ト云フノデアルカラ實物價格ノ一種デアリマス故ニ英國ノ學者ハ物價ヲ眞價 (value) ト市價 (price) トニ區別シテ眞價即チ實物對實物價格ニハ一般變動ト云フコトハナイ之レニ反シテ市價即チ實物對通貨價格ハ一般變動モアリ特別變動モアリ混合變動モアリトシテ法則上ノ區別マデシテ居リマス左レド今日ハ貨幣經濟デアルカラ今オ話シシタモノ位ヲ除キマスト大體皆實

物ト通貨トノ交換價格デアリマス、故ニ今日物價ト云ヘバ物ト通貨トノ交換價格即チ通貨價格ダト言ツテモ、嚴格ナル意義デハナイガ、通俗的ニハ差支ヘナイ、但シ其通貨的物價ニ付イテモ變動ノ場合ナゾニハ實物對實物ノ眞價的比價(Real Value)ト實物對通貨ノ呼價的比價(Nominal Value)トノ二種アルコトヲ注意シナケレバナラス

物價ノ變動ハ三様ノ形式ヲ以テ現ハレマス、ソノ第一ハ呼價的一般變動デアル、ソレハ例示デ云フト先ヅ従前米一石八圓、麥一石四圓デ米ト麥トノ眞價即チ實物價格ハ一ト二ノ割合デアツタト假定シマス、ソレガ今ヤ米ガ十圓、麥ガ五圓ト云フ價格ニ變ツタト致シマス、之ヲ見ルト成ルホド價格ハ米麥俱ニ通貨ニ對シテ變動シマシタガ、併シ眞價ハ依然一ト二デ變ラナイ、何故ナレバ米一石ノ代價デ麥二石ヲ買ヘルカラデアル、故ニ之ヲ一般且ツ呼價ダケノ變動ト云フノデアリマス、トコロガ、第二ハ眞價的特別變動デアル、コレハ前例ニ對シテ今ヤ米ハ十二圓ニナツタガ麥ハ依然トシテ四圓据置デアツタトスル、即チ米ダケ上ツテ麥ハ上ラナイ、米丈ガ不作デアツタカ或ハ輸出ガ多クナツタ時ナゾニ見ユル現象デアリマス、ソシテ

米對麥ノ眞價ハ一ト三ノ割合ニ變ジテ居ルカラ眞價的特別變動ト云フノデアリマス、第三ハ混合變動デアル、例ヘバ前例ニ對シテ今ヤ米ガ二十四圓ニナツテ麥ハ六圓ニナツタトスルト之レハ呼價的ノ一般變動ニ見エマスガ、變動ノ仕方ガ各々違ツテ居ツテ眞價ガ一ト四ノ割合ニ變ジテ特別的變動モアルコトヲ認めラレマス、故ニ呼價眞價及一般特別ノ混合變動ト云フノデアル、右ノ變化ヲ表ニスレバ斯ウナリマス、

從來價格	米一石八圓	麥(其他)一石四圓	眞價一ト二
一般變動	十圓	五圓	一ト二
特別變動	十二圓	四圓	一ト三
混合變動	二十四圓	六圓	一ト四

(備考) 麥ト云フノハ他物多數ノ代表トシテ其名稱ヲ使用シタト見ルノデアル、

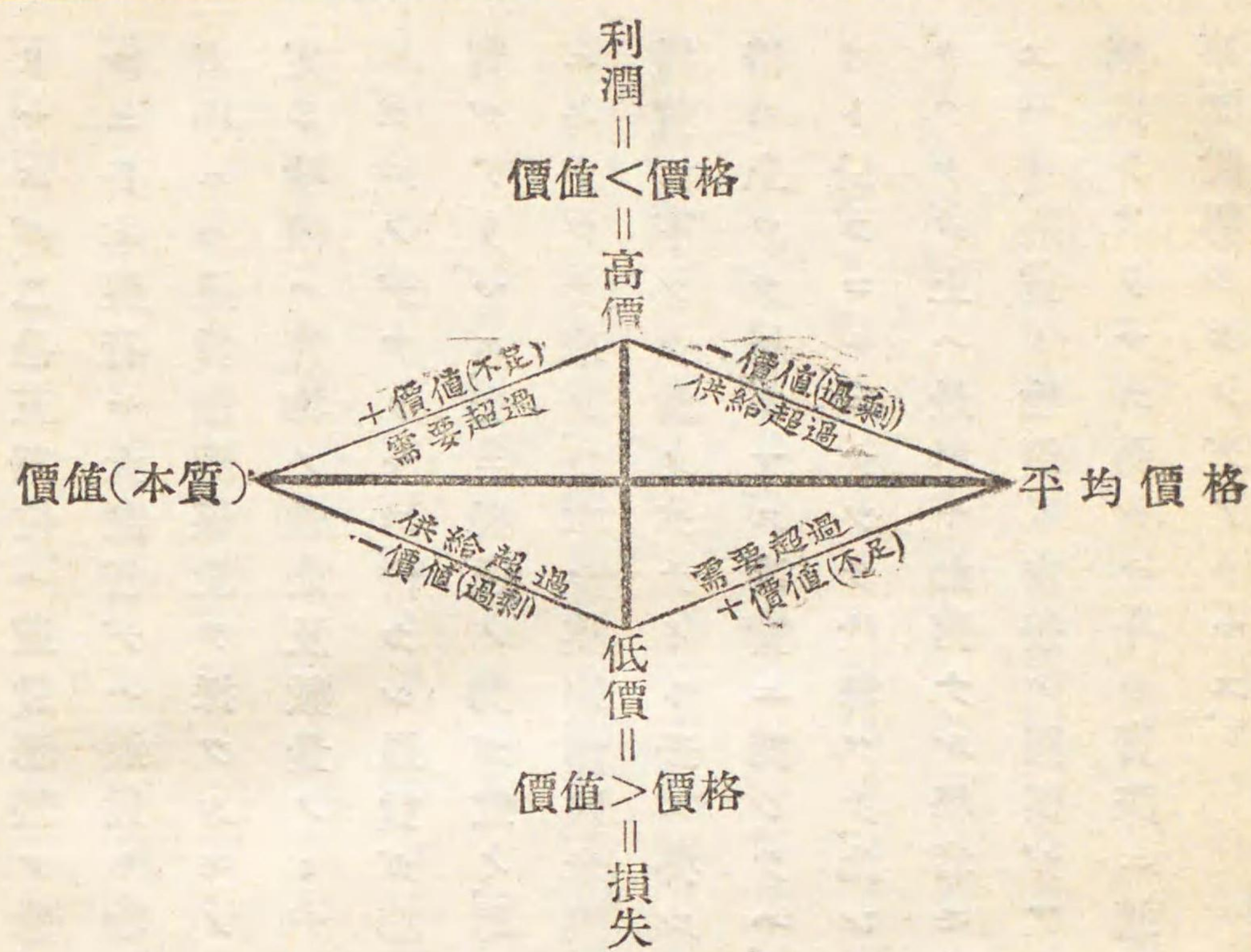
何故私ガ今日斯ウ云フ區別ヲ述ベマスカト云フト、一口ニ物價ノ變動ト申シマシテモ其ノ物價ガ單ニ通貨勘定ノ割合丈變動シタルモノデアアルカ又ハ眞實ニ其

ノ物價ガ他物トノ交換割合ニ於テ迄變動シテ居ルノデアアルカ其如何ニ依リテ色々ノ注意ヲ要シ又々實際上ノ取扱ガ違ツテ來ルカラデアリマス例ヘバ最近ノ實際問題ニ於テ米ガ戰前十二圓シテ居ツタソレガ戰後ノ今日ハ三十六圓ニナツテ居ルサウスルト通貨價格即チ市價デ三倍騰貴シタモノデアアル之レガ果シテ呼價即チ通貨計算ダケノ騰貴デアアルカ眞價即チ他物ニ對スル騰貴デアアルカヲ確メネバナラヌ之ヲ知ルニハ先ヅ米ガ十二圓シタ戰前ニ於テ他ノ物例ヘバ反物ガ十二圓デ幾反買ヘタカヲ知りソレガ今ハ三十六圓デ何反買ヘル様ニナツテ居ルカヲ比較セネバナラヌ若シ米ガ十二圓シタ戰前ニハ伊勢崎銘仙ガ一反四圓ヅ、デ米價ノ十二圓デ三反ヲ買フコトガ出來キテ米一反物三ト云フ眞價デアツタノニ、ソレガ米一石三十六圓ノ今日ニハ米價ノ三十六圓デハ、ヤハリ三反シカ買ヘナイトスレバ反物モ一反十二圓ニ上ガツテ居ルノデアアル即チ皆ナ三倍ノ一般の騰貴デアツテ特ニ米ノ眞價ガ上ガツタノデナイコトガ分カルコレハ唯ダ諸物ノ呼價ノミガ上ツタノデアアル皆ナ通貨ニ對シテ上ガツタノデ否ナ通貨丈ケガ下ツタノデアルト云ハネバナラヌ又々勞銀ナゾデ云ツテモ其ノ通リデ戰前一日二圓ノ勞銀

デアツタガ今ハ四圓ニナツタ併シ戰前二圓デ米ガ一斗買ヘタモノガ今ハ四圓デ八升シカ買ヘナイトナレバ眞價的勞銀ハ上ツテ居ナイデ却テ下ツテ居ルト云ハネバナラヌ、ダカラ勞銀モ名義上ノ勞銀ト眞實上ノ勞銀ト分ケルコトガ必要トサレテ居ル名義上ト云フノハ貨幣勞銀デ眞實上ト云フノハ實物勞銀デアリマス、從ツテ勞働問題ナドモ此等ノ區別ヲ考ヘテ判斷セネバナラヌ、斯カル關係カラ物價ノ變動形式ヲ三様ニ分ツノデアリマスガ其中第一ノ一般呼價變動ト第二ノ特別眞價變動トハ今日ノ實際トシテハ殆ンド見ルコトガアリマセン、何ゼカト云フニ第一ハ通貨バカリガ變動シテ物ニ變動ナキ場合デアアルシ第二ハ通貨ガ少シモ變動セズニ物バカリ變動スルト云フノデ通貨モ物モ毎日種々變動シテ居ル今日ニハ現ハレ得ナイ事實デアアル故ニ今日ノ物價變動ノ様式ハ何ウシテモ皆ナ悉ク第三ノ混合變動バカリデアアル筈デアリマス、金モ動キ物モ動ク其レデ價格ノ變動ガ現ハレツ、アルノデアリマス、左スレバ今日ノ物價ノ騰貴ヲ以テ若クハ下落ヲ以テ呼價的一般變動即チ通貨變動ノミニ原因シテ居ルトスルノハ勿論間違ツテ居ル、左レド又之ト同時ニ通貨ノ關係ハナイ、皆ナ眞價的特別變動即チ物ノ需給數量

ガ變化シタ爲メデアルト云フノモ間違ツテ居ル、即チ兩方デアルト云フコトガ正當デアリマス、然ルニ斯ウ云フコトハ能ク政治問題トナリテ偏頗ノ議論ヲ聞クコトガ多イノデアリマス、政府黨ハ今日ノ物價騰貴ヲ以テ何等通貨ノ膨脹トハ關係ガナイ唯物ノ需要ガ増加シタ爲メデアルト主張シ、反對黨ハ政府ノ通貨膨脹政策ニソノ責ヲ歸セントスル立場カラ其原因ヲ通貨ノ膨脹ニアルト痛論スル傾向ガアリマス、ケレドモ決シテ今日ハ呼價的一般變動バカリノコトモナク又々眞價的特別變動バカリノコトモ在リ得ナイ、必ズ通貨ト物トノ兩變カラ來ル混合變動バカリデアリマス、唯問題ハ此混合變動ノ中兩因孰レガ重キヲ爲シテ居ルカハ論究スルノ必要アルノミデアル、而シテソレハ事實問題デアリマス、實際良ク調べタ上デ決定セナケレバナラナイ、併シ二割トカ三割トカ多クテ五割位マデ位ノ騰貴ナラ需給ノ變動デアルト云フ理窟モツキマスガ、三倍モ四倍モ上ガツテ居リマスニ對シテハ何ウシテモ需給丈デ理窟ヲ付ケルコトハ出來マス、マイ、通貨ノ變動ニ關スル大ナル事實ノアルコトガ發見サレルデアラウ、我國ノ例ニ於テ最近一般ニ三倍以上モ上ガツタ事實モ其中五割位迄ハ物ノ需給關係デ解釋シ得ルモノモア

リマスガ、二倍五割位ハ通貨膨脹ノ結果デアルトセネバナラヌヤウデアリマス、然ルニ日本銀行ヤ大藏省デハ通貨ト物貨トハ關係ナシト云フテ居リマスシ又々學者中ニモ通貨無關係說ヲ採ツタモノガアリマシタ、此等ノ學者ハ通貨數量說ヲ否定シ物價ハ實物ノ性能及數量ノミデ變化スル、通貨ニハ限界效用說ノ適用モナイトスルノデアリマス、併カシ通貨ガ膨脹スレバ物價ガ上ルト云フ事ハ爭ハレヌ事實デアリマス、現ニ獨逸ノ例ガ宜イ、馬克ガ下ツテ物價ガ三百倍、千倍、數十數百萬倍ニモナツテ來タ、日本ヤ英國、佛國、米國ノ様ニ三倍位ナラバ一般ノ大勢デアル、特ニ通貨ガ下ツタ爲メデナイト云ヘ得ルカモ知レヌガ、此ノ千倍モ萬倍モ否ナ數百萬倍モ上ツテ居リマス事實ニ對シテハ、流石ノ放漫藏相デモ最早ヤ、グーノ音モ出ナイト云フコトニナツテ仕舞ツタ、此レハ何ヨリノ實物教育デスカラ此ノ實物ヲ突キツケタ上ハ最早ヤ如何ナル學者モ貨幣數量說ノ根本ヲ否定スルコトガ出來マスマイ、通貨ト物價ト密接ノ關係ガアルト云フ事ハ疑ヒナイ、以上ガ物價變動ノ三形式デアリマス、而シテ今日實際ニ適用サルルノハ第三ノ混合變動デアルト云フ事ヲ説明シタノデアリマス、



次ギニ物價法則ヲ説キマス、物價法則ト云フノハ物價變動ヲ支配スル一定ノ原因的法則ヲ云フノデアリマスガ、此ノ法則ハ四ツニ分ツコトガ出來キマス、第一ハ效用變化法、之レニ依テ單純ノ效用價值ガ變化スル、今マデ惡カツテ品質ガ良クナル、サウスルト效用價值ガ増シテ來ルカラ高キ價格ガ出來ル、是レハマダ質ノ問題デ本質價格ノ變化デアリマス、ソレカラ數ノ問題ニナル、コレハ需給變化ノ價格デ第二ノ法則デアリマス、即チ需要ガ多クナルト高價格トナリ供給ガ多クナルト低價格トナル、即チ物價ガ高低スル、需要ガ供給ニ超過スレバ其程度ノ欠乏價值ガ本質價值ニ加ハリ

テ價格高く、供給ガ需要ニ超過スレバ其丈ノ過剰不要價值ガ本質價值カラ控減サレテ價格ハ低落スル、是レガ需給正負價值ノ價格法則デアリマス、是レハ數ノ關係デアリマスガ如何ニ需要超過ガ増シテ價格ガ效用(本質)價格ヨリ上ニアガツテ行キマシテモ其レニハ限度ガアリマス、又タ供給過超ガ増シテ價格ガ下ツテ行キマシテモ其レニモ限度ガアル、上ル限度、下ル限度其レガ何ニ依ツテ支配サレルカト云フト普通ノ商品ナラバ通例生産費(再生産費)ニ依ツテ支配サレル、此レガ第三ノ生産費法則ト云フノデアリマス、但シコレハ再生産ノ出來ル品物デアツテ、且自由競争ノ行ハルルモノナケレバナラヌ、此ノ生産費法則デ支配サレテ定マル價格ヲ、生産費價格ト云ヒマス、又タコレヲ永久價格、自然價格、平均價格ナゾト云ヒマス、之レハ結局元ノ效用價格、即チ本質價格デアリマス、物價ノ變動ヲ調べルニハ先ヅ此ノ三法ヲ調べナケレバナラヌガ最後ニ今日ノ貨幣經濟デハ尙ホ此ノ外ニ通貨價值ノ變化ヲ考ヘナケレバナラヌ、之レニ依リテ實際ノ價格形式ガ定マル、是レガ第四ノ通貨價值法ト云フノデアアル、物價ハ通貨價值ノ高低ニ反比シテ變動スルト云フノデアアル、即チ通貨價值ガ高ケレバ物ノ價格ハ低下シ通貨價值ガ下レバ物ノ價格

ハ高上スル、要スルニ第一ノ法則デ單純效用價格ノ成立ハ定マルモ其上ニ數量變化ニヨリ第二ノ法則ガ働イテ需要(不足)價值ハ増加シ供給過剩價值ハ差引カレ利潤又ハ損失ヲ殘コシテ價格ハ變動スル、併シ其變動ハ一時的デ永久的ニハ普通第三ノ法則ニ依リ自然ニ需給ヲ平均シテ生產費ニ近キ價格ニ平定サセル傾向ガアル、而シテ第四法則ニ依リ交換ノ對價值タル通貨價值ノ高下ニ反比シテ實際ノ最後ノ價格ガ定マルト云フノデアアル、

既ニ物價法則ノ概要ヲ説キマシタガ、其ノ適用ヲ詳述シナケレバ完全シマセンカラ是レカラ適用ヲ説述致シマス、先ヅ第一ニ物價ハ效用ノ變化ニヨツテ變ルト云フ其ノ效用ト云フノハ主トシテ品質ヲ云フノデアリマスガ、品質ト云フ言葉丈ケテハ足りマセン、ソノ物ノ持ツテ居ル作用又ハ效力ヲモ含ミマス、粗製品ガ精製品トナリ一階建ノ家屋ガ二階建トナリ、一事ニノミ使フ器械ガ二事ニ使用サル様ニナルコトナゾハ皆ナ效用變化デアツテ其丈ケ價格ガ高クナリマス、故ニ例ヘバ米國ニ日本ノ茶ガ行キマスガ、ソノ茶ノ價格ガ下ツタト云フテモドウシテ下ツタノカ、效用ノ變化カ數量ノ過剩カ、之ヲ區別シテ先ヅ第一ニ效用ノ變化即チ品質

ガ惡化シタカ、否ナカラ調ベナケレバナラス、其ノ結果別段效用ニ變化ガナイトスレバ數ノ問題即チ需要供給ノ關係デナイカラ調ベネバナラス、コレガ第二ノ需給法則デアリマス、然ルニ需要供給ノ定義ニ付テハ經濟學上ノ難題ガアルノデアリマス、單ニ唯賣リタイトカ買ヒタイトカ云フ慾望ヤ又タ、賣人ノ數トカ買人ノ數トカ云フ人數丈ケデハイカヌ、需要モ供給モ主觀的バカリデナク俱ニ客觀的ノ條件ヲ具ヘタモノデナケレバナラス、即チ何レモ數量的條件ヲ表示シナケレバナラス、ソコガ價值ノ條件ト價格ノ條件トノ違フトコロデアリマス、價值ハ主觀的ノモノデアアルガ價格ハ客觀的ノモノデ、物價ハ一物ノ單量ニ對シテ交換セラレル他物ノ單量ノ數デアリマスカラ此ノ數量的表示ヲ支配スル法則ニナル需要モ供給モ客觀的ノ數量條件ヲ備ヘタモノテナケレバナラス、供給ハ物ノ數量デアルト云フ客觀說ニ付テハ何人モ爭ヒマセンケレドモ、需要ニ就イテハ經濟學者中ニモ需要ハ人ノ願望即チ意思ニ外ナラヌト純然タル主觀說ヲ採ツテ居ルモノガアル、併カシ、最早ヤ多數ノ學者ハ需要モ客觀的ニ解釋シナケレバナラス、唯買ヒタイト云フ希望ノ空需要ハイカヌ、ソノ買フト云フダケノ實力ヲ備ヘタ有效需要デナケレバナ

ラヌ、ソノ實力ト云フノハ對價トシテ支拂フベキ準備ノ支拂力即チ實物又ハ通貨ノ數量デアリマス即チ客觀的ノ需要ハ反對交換物ノ數量デアルト云フコトニナリマス併シ是レデハ又々餘リ客觀的ニ偏スルノト貨幣經濟ノ今日デハ各物ニ對スル需要通貨ノ數量ハ不明ナルコトガ多イト云フ欠點ガアル、ソコデ主客兩觀的且圓滿ノ定義ヲ求メマスレバ需要トハ一定ノ評價ニテ購買セント需要スル物ノ數量ヲ云ヒ供給トハ一定ノ評價ニテ市場ニ提出セラルル物ノ數量ト云フ事ニナリマス、即チ茶ニツイテ見マスレバ市場ニ提出セラレタル茶ノ數量ハ供給デアリマスガ、需要ト云フノハ一定ノ評價ヲ以テ需要スル茶ノ數量ト云フ事デ事實ハ反對交換物即チ市場通貨ノ數量ト云フノト同ジコトニナリマス、例ヘバ價格一斤二圓ナラ買フト云フ主觀的評價デ百萬斤丈ケ需要スルト云フコトハ結局二百萬圓ノ需要通貨額デアリマス、コレガ需要ノ客觀的意義デアリマス。其中デ一定ノ評價ト云フコトガ變ニ感ゼラレマスガ主觀的ノ評價ハ當事者各自ノ見込價格デアツテ需要ノ要素トシテ大切ノモノデアアル、例ヘバ八十萬斤供給アルニ對シテ唯ダ百萬斤ノ買手が在ツタト云テモ其レデ直チニ需要超過ト云ヘルカト云フニ、ソウハ

イカス、茶ノ斤數ト茶ノ斤數トカラハ價格ノ成立シヤウガナイ、價格ハ一物ノ單量ニ對スル他種物ノ數デアアルカラデアアル、故ニ需要ニハ一定ノ評價ガアリ茶百萬斤ニ此ノ一定ノ評價ヲ乘ジタ得數(圓ノ數)デナケレバナラス、其レデ始メテ反對交換物即チ異種物ノ總量(二百萬圓)ト同ジニナルデアアル、又々人ハ茶百萬斤ノ買手がアルヨリモ二百萬斤ノ買手ノアル方が需要増加ト云フカモ知レナイガ、夫レモ需要増加ノ眞意義ヲ爲サヌ、ヤハリ一定ノ評價ヲ入レテ比較セネバナラス、即チ評價ノ值次第デス、前者ハ一斤二圓ヅツデ百斤買フト云フノニ後者ハ一圓ヅツデ二百斤買フト言フノデハ決シテ需要ガ増シタトハイヘナイ、若シ後者ノ評價ガ一斤五十錢ノ評價デアルノナラ需要ハ減少シタト云ハネバナリマセン、故ニ需要ト云フハノ一定ノ評價ニ於テ需要スル物ノ數量デアツテ、能ク計算シテ見ルト結局反對交換物タル通貨ノ數量ト云フコトニナツテ仕舞イマス、需要供給ノ意義ハ先ヅ之レデ定マツトシテ次ギハ其法則ヲ説カネバナラス、

物價ヲ定ムル需給ノ法則ハ如何ント云フニ普通ニハ先ヅ需要ノ方カラ見テ需要ガ増加スレバ(供給ハ依然タリトシテ)物價ハ騰貴シ需要ガ減少スレバ(供給ハ依

然タリトシテ物價ハ下落ス次ギニ供給ノ方カラモ供給ガ増加スレバ(需要依然タリトシテ)物價ハ騰貴スト云
 リトシテ物價ハ下落シ供給ガ減少スレバ(需要依然タリトシテ)物價ハ騰貴スト云
 フノデアリマス、併シ之ハ需要超過(供給ニ對シ)スレバ物價騰貴シ供給過超(需要ニ
 對シ)スレバ物價下落シ需給平均スレバ物價ハ平均スルト云フ方ガ簡明デアアル、例
 ヘバ茶ガ一斤二圓デアツタ、其レガ一斤丈デアレバ二圓ト云フノハ效用價値ニ基
 ク本質價値デアアル、併カシ數量ガ變化シテ需要ガ増シテ供給ニ超過シテ來ルト其
 ノ上ニ尙一圓ノ需要不足(價値ト云フモノガ加ハツテ一斤三圓ノ價値ニナル、之レ
 ニ反シテ供給ガ増加シテ需要ニ超過シテ來ルト今度ハ過剩即チ不要價値ト云フ
 モノ一圓ガ本質價値カラ引カレテ一斤一圓ニナリマス、前ニハ(十價値ガ加ハリタ
 ルモノガ後ニハ(一價値ガ引カルル、斯ウ云フヤウニ需要ノ超過、供給ノ超過デ動キ
 或ハ三圓トナリ或ハ一圓トナリマスガ是レハ時々暫定ノ物價デアリマス、其レニ
 ハ上ニモ下ニモ自ラ限度ガアリマシテ需給ハ平均スル傾向ヲ有シマス、其ノ時物
 價ハ平均シテ本質價値ノ二圓ニ還歸スル

茲ニ第三ノ生産費法則ガ働クノデアリマス、生産費ハ再生産ガ出來ル物ノ本質

價値デアリ、之ニ依ツテ定マル價格ハ生産費價格又ハ本質價格ト云ヒマス、此法則
 ハ物價ハ時々種々ニ變動スルガ途ニハ需給平均シテ生産費程度ノ價格ニナル傾
 向アリト云フノデアリマス、故ニ此法則ハ土地、骨董品、獨占品ノ價格ニハ適用シ得
 マセン又タ再生産可能品デモ自由競争ガ行ハレナケレバ完全ニ適用サレヌ、再生
 産及自由競争ノ可能ナル農産物及製造品ノ大部分ニハ適用シ得マス即チ時々ノ
 需要供給ニ依ツテ時々ノ物價ハ變化シ或ハ下ツテ一圓トナリ或ハ上ツテ三圓ト
 ナルケレ共其ノ間ニ自ラ上下ノ限度ヲ爲ス中心點ガアル、其ノ中點ハ其物ノ再生
 産費デアリマス此生産費以上遙カニ上ツテ行クカト思フト早クモ供給ガ増進シ
 テ價格ヲ引下ゲル、去リトテ又タ生産費以下遙カニ下ツテ行クト今度ハ供給ガ減
 少シテ價格ヲ引戻ス關係ニナル又タ需要ノ方カラ考ヘテモ、物價ガ生産費以上高
 クナルニ從ツテ資力支拂力ノ少イ需要者ハ買手競争ノ仲間カラ脱退シテシマウ
 二圓ノ資力ガアル需要者ハ二圓ノ價格迄ハ競争ニ加ツテ居ルケレドモ二圓以上
 ノ價格ニナリ三圓トナルト資力ガナイカラ需要團カラ脱退シ其資力丈ケ需要ガ
 減少シテ價格ヲ下ゲントスル、斯クテ價格ハ下ツテ行クガ、其レモ亦餘リ遙カ生産